

HP OpenView Operations for UNIX

リリースノート (HP 9000 PA-RISC 2.0 サーバー)

Version A.08.10

第 8.0 版

(HP-UX 11.0、11.11、11.23)



Manufacturing Part Number : None

2005年11月

U.S.A.

© Copyright 2004-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、CD-ROM などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company
United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

Copyright Notices.

©Copyright 2004-2005 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

この製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェアが含まれています。(http://www.openssl.org/ を参照)

この製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています。

この製品には、Info-ZIP (http://www.info-zip.org/license.html) で作成したソフトウェアが含まれています。

この製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアが含まれています。

Trademark Notices.

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の商標です。

Java™ およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標あるいは登録商標です。

Microsoft®, Windows NT®, Windows®, MS Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape™ および Netscape Navigator™ は、米国における Netscape Communications Corporation の商標です。

Oracle® は、米国オラクルの登録商標です。

UNIX®, OSF, OSF/1, OSF/Motif, Motif, Open Software Foundation は、The Open Group の登録商標です。

SQL*Plus® は、米国オラクルの登録商標です。

Zip® and UnZip® are U.S. registered trademarks of Info-ZIP.

その他一般に各会社名、各製品名は各社の商号、商標または登録商標です。

輸出と暗号化の注意事項

このソフトウェアは、下記の国を含む、米国の禁輸制裁国（または同国の国民）に輸出、再輸出、移転またはダウンロードできないものとします。

キューバ、イラン、イラク、リビア、北朝鮮、スーダン、シリア

このリストは変更されることがあります。

このソフトウェアは、米国商務省の被否認者リスト、拡散に利用する恐れのある団体リスト、または米国財務省の特別指定国民リストに記載される者または団体に対して、あるいは米国輸出管理規則（15 CFR 744）に指定される、核兵器、化学兵器、生物兵器の開発もしくは生産またはミサイル技術プログラムに直接的または間接的に関与する当事者に対して、輸出、再輸出、移転またはダウンロードできないものとします。

さらに、このソフトウェアは、暗号化機能を持っているので、米国暗号輸出規制に従う必要があります。

本書は『*HP OpenView Operations for UNIX Release Notes For HP 9000 PA-RISC 2.0 Servers Version:A.08.10 Edition 8.0 Management Server on HP-UX 11.0, 11.11 and 11.23*』 Manufacturing Part No. none (November 2005) を翻訳したものです。

OpenView Operations 日本語版と英語版との差異

OpenView Operations 日本語版と英語版はサポートされているエージェントソフトウェアに次の違いがあります。

- **HP-UX 版 OpenView Operations for UNIX** 日本語版では、管理対象システムとして **TurboLinux** もサポートしています。
ただし、Novell NetWare、SGI IRIX、MPE/iX、Sequent DYNIX/ptx、Siemens Nixdorf SINIX、Windows NT Terminal Server Edition/Citrix MetaFrame はサポートしていません。
- **Solaris 版 OpenView Operations for UNIX** 日本語版では、管理対象システムとして **TurboLinux** もサポートしています。
ただし、Novell NetWare、SGI IRIX、Windows NT Terminal Server Edition/Citrix MetaFrame はサポートしていません。

本マニュアルに記載されている英語メッセージは、日本語で表示される場合があります。

1. このバージョンの概要

リリースノート第 8.0 版での通知内容	10
OVO/UNIX A.08.14 管理サーバーパッチ	10
HP-UX 11.23 PA-RISC サポート	10
NNM の要件	10
Oracle データベース	10
OVO/UNIX のパッチレベル	11
DCE エージェントのパッチ	11
HA 環境	11
Service Navigator Value Pack 8.0 のサポート	11
HP-UX 11.23 PA-RISC システムへの OVO/UNIX 8.1x のインストール	11
JavaGUI Client A.08.14 パッチ	13
HTTPS ベースの Java GUI のサポート	13
OVO/UNIX 8.1 の新機能	14
HTTPS エージェント	14
シングルポート通信	14
Windows インストールサーバー	14
クラスタに対応した HTTPS エージェント	14
HTTPS エージェントの DHCP サポート	14
OVO/UNIX エージェントの SNMP トラップのインターセプト	14
「非 root」で実行できる OVO/UNIX エージェント	14
複数の OVO インストールメンテーションサーバー	15
Solaris 10 HTTPS エージェント	15
AIX HTTPS エージェント用の OS-SPI サポート	15
HP-UX 11.11 における Oracle Database 10g のサポート	16
Oracle Standard Edition のサポート	16
独立したデータベースのサポート	16
メッセージカウンター機能：重要度とメッセージテキストの更新	17
Java UI の改良点	18
Java GUI の Operational サービスビュー	20
Service Navigator の改良点	21
管理機能の機能拡張	23
Pluggable Authentication Module (PAM)	23
高可用性環境	23
配布可能な OV Performance Agent	24
ECS 3.31 ランタイムのサポート	24
OV Composer 3.31/3.33 のサポート	24
ECS 3.2 Designer のサポート	24
その他	24
日本語、韓国語、簡体字中国語、スペイン語のローカライズサポート	25
Service Navigator で構成情報を動的に変更	27
変更された機能	28
OVO 管理サーバーのインストール方法	28
OVO 管理サーバーへの情報の設定	28
HTTPS 管理対象ノードへの情報の設定	29
指示文パラメータに渡される OVO メッセージ変数	29

目次

リモートアクションの許可	30
HTTPS 管理対象ノードのポリシー	30
サービスエンジンへのリモートアクセスは不可能	30
ローカル管理表領域	30
エラーロギング	31
トレース機能	31
OVO-SunMC 統合キット	31
AIX、HP-UX、Linux、Sun Solaris、Tru64、および Microsoft Windows 用のデフォルトテンプレート	32
HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit で変更された機能	47
OVO 8 で変更されたサーバー API opcapp_start() 関数の動作	47
サポートが中止された機能	48
まだサポートされない機能	50
サポートされない機能	51
次回の OVO メジャーリリースでのサポート中止予定	52
2. 管理サーバーと Java UI のインストール要件	
管理サーバーのハードウェアとソフトウェアの要件	55
高可用性環境	57
OVO/UNIX 管理サーバー上の認定エンコーディングとキャラクタセット	58
Java UI をサポートしているプラットフォーム	59
クラスタ対応のサポート状況	60
3. HTTPS エージェントのインストール要件	
HTTPS エージェントをサポートしているプラットフォーム	62
HTTPS エージェントのハードウェア要件	63
HTTPS エージェントのソフトウェア要件	63
HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア要件	64
Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア要件	66
Linux HTTPS エージェントのソフトウェア要件	68
Microsoft Windows HTTPS エージェントのソフトウェア要件	70
AIX HTTPS エージェントのソフトウェア要件	71
4. DCE エージェントのインストール要件	
DCE エージェントのバージョン	74
DCE エージェントのハードウェア要件	76
HP-UX PA-RISC DCE エージェントのソフトウェア要件	78
HP-UX Itanium DCE エージェントのソフトウェア要件	80
Solaris DCE エージェントのソフトウェア要件	81
Linux DCE エージェントのソフトウェア要件	84
Microsoft Windows DCE エージェントのソフトウェア要件	87
AIX DCE エージェントのソフトウェア要件	92
Tru64 UNIX DCE エージェントのソフトウェア要件	94
5. HTTPS エージェントのリソース要件とパフォーマンス	
HTTPS エージェントと DCE エージェントの比較	98

OVO 7.x エージェントと OVO 8 エージェントに関連した管理サーバーコンポーネントの比較	99
---	----

6. 最終段階でのドキュメントの変更

『OVO 管理サーバー インストールガイド』.....	102
Oracle 環境変数.....	102
『OVO システム管理リファレンスガイド』.....	103
追加の <code>opc</code> パラメータ.....	103
ログのみのメッセージ.....	103
すべてのクラスタノードのエージェントタイプ (DCE または HTTPS) を同時に変更.....	103
<code>opcragt</code> の機能を強化.....	104
管理サーバーで扱える言語変数の種類.....	106
OVPA の情報.....	106
MoM 環境の設定.....	107
『Service Navigator コンセプトと設定ガイド』.....	108
サービス属性の動的設定に関連する変更.....	108
Service Navigator のアップグレード方法.....	108
サービスへのユーザープロファイルの割り当て.....	109
『Java GUI オペレータガイド』.....	110

7. 既知の問題と回避策

Oracle データベースのインストールと設定.....	116
管理サーバーのアップグレード / 移行	117
アップグレードデータのアップロード処理	117
必要な対処.....	118
回避策.....	119
OVO 8.0 からの管理サーバーのアップグレード / 移行	122
OVO/UNIX 管理サーバーの新規インストール.....	123
新規インストール.....	124
インストール時の問題の回避策.....	125
HA 環境への OVO/UNIX 管理サーバーの新規インストール.....	127
HA 環境での OVO/UNIX 管理サーバーのアップグレード	129
管理サーバーの実行時.....	130
管理サーバーの削除	134
HTTPS 管理対象ノードのインストール.....	135
HTTPS 管理対象ノードの実行時.....	141
HTTPS 管理対象ノードとプロキシ	145
HTTPS 管理対象ノードと NAT 環境.....	146
DCE 管理対象ノード	147
組み込みパフォーマンスコンポーネント (EPC、別名 CODA)	149
配布可能な Performance Agent (OVPA)	150
配布可能な OVPA の既知の問題.....	151
Motif UI	152
Java UI.....	154
ECS/OV Composer	157
レポート	159
Service Navigator Value Pack.....	160

Network Node Manager.....	161
Network Diagnosis Add-On Module	168
NDAOM.....	168
Problem Diagnosis プローブ.....	168
Internet Services (OVIS).....	170
トレースとトラブルシューティング.....	171
ローカライズ.....	172
日本語版の問題点	175

1 このバージョンの概要

HP OpenView Operations for UNIX (OVO) は IT 担当者のための集中制御ポイントを提供します。これにより IT 担当者は、すべてのシステムで発生するイベントを効率よく管理することができ、分散環境のための「ミッションコントロール」センターを構築することができます。OVO により、ネットワーク装置や各種システム、データベースおよびアプリケーションから日常的に発生する膨大な数のイベントに対して、フィルター処理や相関処理が行われ、処理や応答が行なわれます。

OVO/UNIX の機能概要は、『*HP OpenView Operations コンセプトガイド (UNIX)*』を参照してください。PDF 形式のファイルが OVO/UNIX A.08.10 CD1 の次のディレクトリに収録されています。

英語版 OV_DOC/C/manuals/

日本語版 OV_DOC/japanese/manuals/

OVO 8.x の新機能の詳細は、下記の Web サイトから OVO/UNIX のプレゼンテーション資料『*What's New in HP OpenView Operations for UNIX 8*』(*Whats_New_In_OVOU8.pdf*) をダウンロードして参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

リリースノートは、OVO の現状についてまとめています。新しい機能が追加されると、随時、本書の最新版（英語版）で説明します。問題に対する回避策も、リリースノートの各版に対応したセクションで説明します。相互参照の個所は、PDF ファイル内の関連項目へのハイパーリンクになっています。

次の Web サイトで、これらソフトウェアのリリースノートの最新バージョンを定期的にチェックしてください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/（英語版）

この Web ページで、[1. product:] から [operations for unix] を、また [2. version:] から [8.x] を選択してください。

ヒント リリースノートの最新版は常に、英語版向けの HP Web サイトにあります。日本語版が翻訳され公開になるのはわずかに遅れることがあります。何らかの問題に直面している場合には、日本語版より新しい英語版リリースノートがあれば、最初に英語版を確認されることをお勧めします。

本章には、次のトピックに関する情報があります。

- リリースノート第 8.1 版での通知内容
- リリースノート第 8.0 版での通知内容
- OVO/UNIX 8.1 の新機能
- 変更された機能
- HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit で変更された機能
- サポートが中止された機能
- まだサポートされない機能
- サポートされない機能
- 次回の OVO メジャーリリースでのサポート中止予定

リリースノート第 8.0 版での通知内容

本項では、『OVO/UNIX 8.1 リリースノート第 8.0 版』で使えるようになった新機能等について説明します。

OVO/UNIX A.08.14 管理サーバーパッチ

OVO/UNIX 8.1 用に、OVO 管理サーバーのパッチレベル A.08.14 が提供されました。

表 1-1 管理サーバーパッチ A.08.14

パッチ名称	管理サーバープラットフォーム	
	HP-UX	Solaris
OVO8.1X 統合サーバー A.08.14	PHSS_33579	ITOSOL_00447

HP-UX 11.23 PA-RISC サポート

OVO/UNIX 8.1x は、管理サーバーの新しいオペレーティングシステムバージョンとして HP-UX 11.23 PA-RISC をサポートするようになりました。HP-UX 11.23 PA-RISC 上の OVO/UNIX 8.1x の仕様と要件は、以降の項で説明します。

注記 Smart Plug-In は、2005 年の末を目標にしている次回の SPI CD で、HP-UX 11.23 PA-RISC 上で動作する OVO/UNIX 8 管理サーバーをサポートする予定です。管理対象ノードプラットフォームとしての HP-UX 11.23 PA-RISC は多くの SPI がサポートしています。詳細は、SPI のリリースノートを参照してください。

NNM の要件

NNM7.5 を HP-UX 11.23 PA-RISC 上の OVO/UNIX 8 管理サーバーの一部として実行するには、OVO/UNIX 8.10 メディアキットには含まれていない新しい NNM バージョンが必要になります。これは次のサイトから入手できます。

http://www.managementsoftware.hp.com/uploads/ovrd/ovr_1_nnm_0001.html

注記 HP-UX 11.00 と 11.11 だけでなく HP-UX 11.23 PA-RISC もサポートする NNM バージョンであることを確認するには、NNM 7.5 のインストールスクリプトのビルドの日付をチェックします。適切な NNM の場合には、以下のコマンドを実行したときに出力が表示されます。

```
grep "2005" disk1/install
```

Oracle データベース

パッチレベルが 10.1.0.4 の Oracle 10g データベースだけがサポートされます。

Oracle 10.1.0.2 を HP-UX 11.23 PA-RISC にインストールするには、runInstaller で `-ignoreSysPreReqs` フラグを使用します。Oracle が正常にインストールできたら、10.1.0.4 パッチレベルをインストールします。Oracle 10g を HP-UX 11.23 PA-RISC にインストールする方法については、Oracle のドキュメントを参照してください。

OVO/UNIX のパッチレベル

必要な OVO パッチは以下のとおりです。

- 8.14 サーバーパッチ (PHSS_33579) またはその後継パッチ
- 8.12 Core Agent パッチ (PHSS_33208) またはその後継パッチ
- 8.13 E/A パッチ (PHSS_33248) またはその後継パッチ

DCE エージェントのパッチ

いくつかの DCE エージェントのパッチを、オプション `-x allow_incompatible=true` を指定してインストールする必要があります。新しくリリースされた DCE エージェントのパッチには、このオプションは不要です。

HA 環境

MC/ServiceGuard バージョン 11.16 だけがサポートされます。

Service Navigator Value Pack 8.0 のサポート

Service Configuration アダプタ (seadapter) が、HP-UX 11.23 PA-RISC にインストールできる唯一の SNVP コンポーネントです。seadapter は、SNVP パッケージに付属している Java バージョン `j2re1_3_1_03` を使うように設定する必要があります。

注記 SNVP 8.0 は、Oracle 10g データベースをサポートしません。一方、HP-UX 11.23 PA-RISC 上の OVO/UNIX 8.14 は Oracle 10g データベースしかサポートしないので、SNVP 8.0 を、HP-UX 11.23 PA-RISC 上の OVO/UNIX 8.14 と同じ Oracle データベースを使うように構成することができません。

クライアントとサーバーのコンポーネントは、SNVP サーバーとクライアントのコンポーネントをサポートするプラットフォームの 1 つにインストールする必要があります。

HP-UX 11.23 PA-RISC システムへの OVO/UNIX 8.1x のインストール

注記 インストールする前に、HP-UX 11.23 PA-RISC 用の特別なインストールスクリプト `ovoinstall` と `ovo.info.HP-UX.B.11.23.txt` を以下の場所からダウンロードします。

`ftp://ovweb.external.hp.com/pub/cpe/ito/OVO81_hpux_1123_PA`

1. 『管理サーバー インストールガイド』の説明に従って、以下の CD イメージを作成します。

- OVNNMCD1¹
- OVNNMCD2

1. HPUX 11.23 をサポートする NNM7.5 の CD を使ってください。

- OVOC1
- OVOC2
- OVOSPI

2. HP-UX 11.23 PA-RISC 用の特別な `ovoinstall` スクリプトと `ovo.info.HP-UX.B.11.23.txt` を、OVOC1 にコピーします (元のファイルを新しいファイルで置き換えます)。

注記 `ovo.info.HP-UX.B.11.23.txt` ファイルは `OVOC1/Required_OS_Patch_Lists/` にコピーする必要があります。

3. 特別なインストールスクリプト `ovoinstall` を使って、OVO/UNIX 管理サーバーをインストールします。

以下の項目を実行してください。

- 構成を開始する前に、OVO パッチをインストールするかどうか尋ねるプロンプトが表示されたら、**[y]** と答えます。
- インストール手順がサーバーの構成の前で停止したら、8.14 または最新の OVO/UNIX Server パッチをインストールし、インストールを続行します。

注記 Core Agent パッチと E/A パッチは、OVO/UNIX Server パッチと同時にインストールしないでください。後からインストールしてください。

インストールの詳細手順は、『管理サーバー インストールガイド』を参照してください。

注記 ローカルの OVO/UNIX エージェントは、OVO/UNIX 管理サーバーをインストール時には、インストールされません。後で、OVO/UNIX 管理者の GUI を使って、インストールする必要があります。

4. OVO/UNIX 管理サーバーのインストールが完了したら、以下のパッチをインストールします。

- Core Agent 8.12 以降
- E/A Agent 8.13 以降

5. OVO/UNIX 管理者の GUI を使って、ローカルの OVO/UNIX エージェントをインストールします。

6. OVO/UNIX サーバードキュメントを再起動します。以下の項目を実行します。

- a. クラスタ環境の場合には、以下のコマンドを使って、OVO Server のモニタリングを無効にします。

```
/opt/OV/lbin/ovharg -monitor ov-server disable
```

- b. 以下のコマンドを実行します。

```
ovstop ovctrl
ovc -kill
ovc -start
ovstart opc
```

- c. クラスタ環境の場合には、以下のコマンドを使って、OVO Server のモニタリングを有効にします。

```
/opt/OV/lbin/ovharg -monitor ov-server enable
```

JavaGUI Client A.08.14 パッチ

JavaGUI Client のパッチ A.08.14 が提供されるようになりました。

表 1-2 JavaGUI パッチ A.08.14

パッチ名称	管理サーバープラットフォーム	
	HP-UX	Solaris
JavaGUI Client A.08.14	PHSS_33627	ITOSOL_00451

Java GUI に導入された改良点については、18 ページの「Java UI の改良点」の項を参照してください。詳細は、JavaGUI Client のパッチのドキュメントも参照してください。

HTTPS ベースの Java GUI のサポート

Java GUI から OVO/UNIX 管理サーバーへ、セキュアリンクが確立できるようになりました。この機能は HTTPS ベースの Java GUI で導入されました。これは、OVO/UNIX 管理サーバーとの通信が **Secure Socket Layer (SSL)** で暗号化される HTTPS プロトコルを使う Java GUI です。SSL の暗号化には、コアの機能コンポーネントが使われます。HTTPS プロトコルは、受信する通信リクエストがセキュアなデータ交換のために信頼できるリクエストであるかどうかを判断することで、アプリケーションに対する守護者の役割を果たします。

HTTPS ベースの Java GUI の構成方法と使用方法については、次の Web サイトから入手できるホワイトペーパー『*HTTPS-based Java GUI Support on the Management Server*』を参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

OVO/UNIX 8.1 の新機能

本項では、OVO/UNIX 8.1 から提供されるようになった新機能について説明します。

HTTPS エージェント

OVO 8 から、新しい HTTPS エージェント ソフトウェアが提供されるようになりました。このソフトウェアは、OVO/UNIX 管理サーバーと管理対象ノードとの間で安全性の高い通信をサポートするためのものです。HTTPS エージェントのプラットフォームと最新の HTTPS エージェント用パッチを 62 ページの表 3-1 「OVO Media Kit に付属の OVO 8 HTTPS エージェントのバージョンと最新バージョン」に示します。

OVO HTTPS エージェントは、現代の新しいアーキテクチャに基づいて開発されており、HTTPS を使った通信、制御、配布や、標準仕様に基づいたロギングモジュールおよびトレーシングモジュールなど、OpenView の新しい基本コンポーネントがいくつか使用されています。詳細は、新たに追加された『HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

シングルポート通信

OVO/UNIX 8 により、HTTPS エージェントとの間で、安全性が高く、設定可能なシングルポート通信が可能になります。シングルポート通信は、外部アクセスを専用の HTTP プロキシに制限し、HTTP プロキシの多重化処理によってポートの利用率を減らします。

Windows インストールサーバー

OVO HTTPS Windows エージェント用の Windows インストールサーバーをサポートします。

注記 インストールサーバー機能を使用するためには、エージェントはドメインの管理者として実行する必要があります。

domain admin は、SYSTEM アカウントでの実行ほど安全性は高くありません。

クラスタに対応した HTTPS エージェント

OVO HTTPS エージェントは、仮想ノードの概念と高可用性環境内で実行されるアプリケーションをサポートします。詳細は、『HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

HTTPS エージェントの DHCP サポート

OVO HTTPS エージェントは、DHCP から動的に IP アドレスが割り当てられる管理対象ノードでも使用できます。詳細は、『HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

OVO/UNIX エージェントの SNMP トラップのインターセプト

現在使用可能な OVO/UNIX エージェントプラットフォームの大部分 (Linux の DCE および HTTPS エージェントプラットフォームを含む) は、SNMP トラップのインターセプトをサポートします。

「非 root」で実行できる OVO/UNIX エージェント

HTTPS エージェントは、OVO 7.x DCE¹ エージェントと同じように、特権が与えられたユーザーの代行ユーザーによって実行することができます。

注記 この機能は、Windows エージェントでは使うことができません。Windows エージェントは常に SYSTEM アカウントで実行する必要があります。ただし、インストールサーバーの場合は Domain Administrator で実行する必要があります。

注記 DCE エージェントと HTTPS エージェントのどちらを使用した場合でも、OVO/UNIX エージェントを非 root ユーザーで実行すると、オペレータ起動アプリケーションを実際に実行するユーザーは、常に現在のエージェントユーザーです。

詳細は、『HP OpenView Operations HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

複数の OVO インストールメンテーションサーバー

HTTPS エージェントは、OVO/UNIX 管理サーバーと OVO HTTPS エージェント間の双方向認証を実現する新しい認証の概念を使って、複数の OVO/UNIX 8 管理サーバーからインストールメンテーションデータを受け取ることができます。

Solaris 10 HTTPS エージェント

Solaris 10 は、以下のパッチをインストールすることで、HTTPS エージェント管理対象ノードとしてサポートされるようになりました。

表 1-3 Solaris 10 サポート用の HTTPS エージェントパッチ

パッチ名称	OVO on HP-UX	OVO on Solaris
EventAction Solaris A.08.11 パッチ	PHSS_32411	ITOSOL_00391
Core Agent Solaris A.08.11.1 パッチ	PHSS_32887	ITOSOL_00406

AIX HTTPS エージェント用の OS-SPI サポート

AIX HTTPS エージェント用の OS-SPI サポートが提供されるようになりました。以下のパッチが必要です。

表 1-4 AIX サポート用の OS-SPI パッチ

パッチ名称	OVO on HP-UX	OVO on Solaris
OSSPI AIX A.03.10 パッチ	PHSS_33106	ITOSOL_00416

- 本書では、OVO/UNIX A.7.xx エージェントを DCE エージェントと呼んでいます。これは、以下のプロトコルを使うエージェントを含む、HTTPS エージェント以外のすべての OVO/UNIX エージェントのことを指します。
 - 分散コンピューティング環境 (DCE)
 - ネットワークコンピューティングシステム (NCS)
 - SunRPC

HP-UX 11.11 における Oracle Database 10g のサポート

OVO/UNIX は、Oracle Database 10g Release 1 (10.1.0.4 パッチレベル) Standard Edition および Enterprise Edition をサポートするようになりました。OVO/UNIX に Oracle Database 10g をインストールして使う方法は『管理サーバー インストールガイド』を参照してください。

Oracle Standard Edition のサポート

完全なクラスタのサポートを含み、最大 4 つのプロセッサの使用がライセンスされる Oracle 9 Standard Edition が、OVO/UNIX でサポートされるようになりました。9.2.0.2 以降のすべてのバージョンの Oracle 9 がサポートされます。

独立したデータベースのサポート

クラスタ環境の OVO/UNIX 管理サーバーで使う Oracle データベースを、クラスタ内の別ノード、別のクラスタ、またはリモートシステムにインストールして構成できるようになりました。データベースを分離してインストールするには、管理サーバーのインストール時に OVO A.08.11 パッチをインストールする必要があります。これらのパッチでは性能の改善も行われているので、どのような形態のインストールの場合にも、インストールすることをお勧めします。3 つのインストールの形態があります。

□ 基本型管理サーバー構成

OVO/UNIX 管理サーバーと Oracle データベースサーバーが、同じシステム、またはクラスタ環境内の同じ HA リソースグループ内にインストールされます。

□ 独立型データベースサーバー構成

Oracle データベースサーバーを下記のような独立した構成とすることができます。

- リモートシステムまたは OVO/UNIX クラスタとは異なる HA 環境。
- OVO/UNIX 管理サーバーと同じクラスタ。ただし、OVO/UNIX 内の HA リソースグループとしては構成されない。

□ 分離型 (3 層) 管理サーバー構成

OVO/UNIX 管理サーバーと Oracle データベースサーバーが、1 つのクラスタ環境内の別の HA リソースグループとして構成されます。

表 1-5

構成シナリオ	基本型		独立型		分離型
	標準	HA	標準	HA	HA
データベースのインストール先	OVO/UNIX 管理サーバーシステム	OVO/UNIX 管理サーバーの HA リソースグループ内	専用リモートシステム	専用リモートシステム。ただし、リモートクラスタが望ましい。	OVO/UNIX 管理サーバーシステム内の別 HA リソースグループ

詳細は、次の Web サイトにある『HP OpenView Operations 管理サーバー インストールガイド』の最新版を参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

新しい柔軟なデータベースインストールオプションを使う場合には、管理サーバーのインストール時に、**OVO Server A.08.11** と、適切な **Core Agent** のパッチをインストールする必要があります。パッチのインストール方法については、『**管理サーバー インストールガイド**』の項「管理サーバーシステムへの **OVO** ソフトウェアのインストール」を参照してください。柔軟なデータベースインストールオプションを反映するために、『**インストールガイド**』がアップデートされました。これは、次の **OpenView** ドキュメント **Web** サイトからダウンロードできます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

[1.Product: Operations for Unix] と [2.Version: 8.x] を選択してください。

残りのすべての機能は、**OVO** 管理サーバーと **Java GUI** クライアントシステムに適切なパッチをインストールすれば利用できるようになります。

メッセージカウンター機能：重要度とメッセージテキストの更新

OVO/UNIX では、**Java UI** および **Motif UI** での重複メッセージに対するメッセージカウンター機能が拡張されました。

重複メッセージを除外/カウントする場合には、従来はブラウザに最初に到着したメッセージの重要度とメッセージテキストの表示が保持されました。今回からは、新しく到着した **OVO** メッセージが異なる重要度またはメッセージテキストを持っている場合には、以前のデータをこの値に置き換えて表示できます。

重要度とメッセージテキストを更新するために、2つの新しい変数が導入されました。

`OPC_UPDATE_DUPLICATED_SEVERITY`

`OPC_UPDATE_DUPLICATED_MSGTEXT`

これらの変数を `LAST_MESSAGE` に設定すると、ブラウザ内の該当する値が変更されます。

現状の動作（重要度とメッセージテキストの更新はしない）をお好みの場合には、自動更新をオフにすることができます。

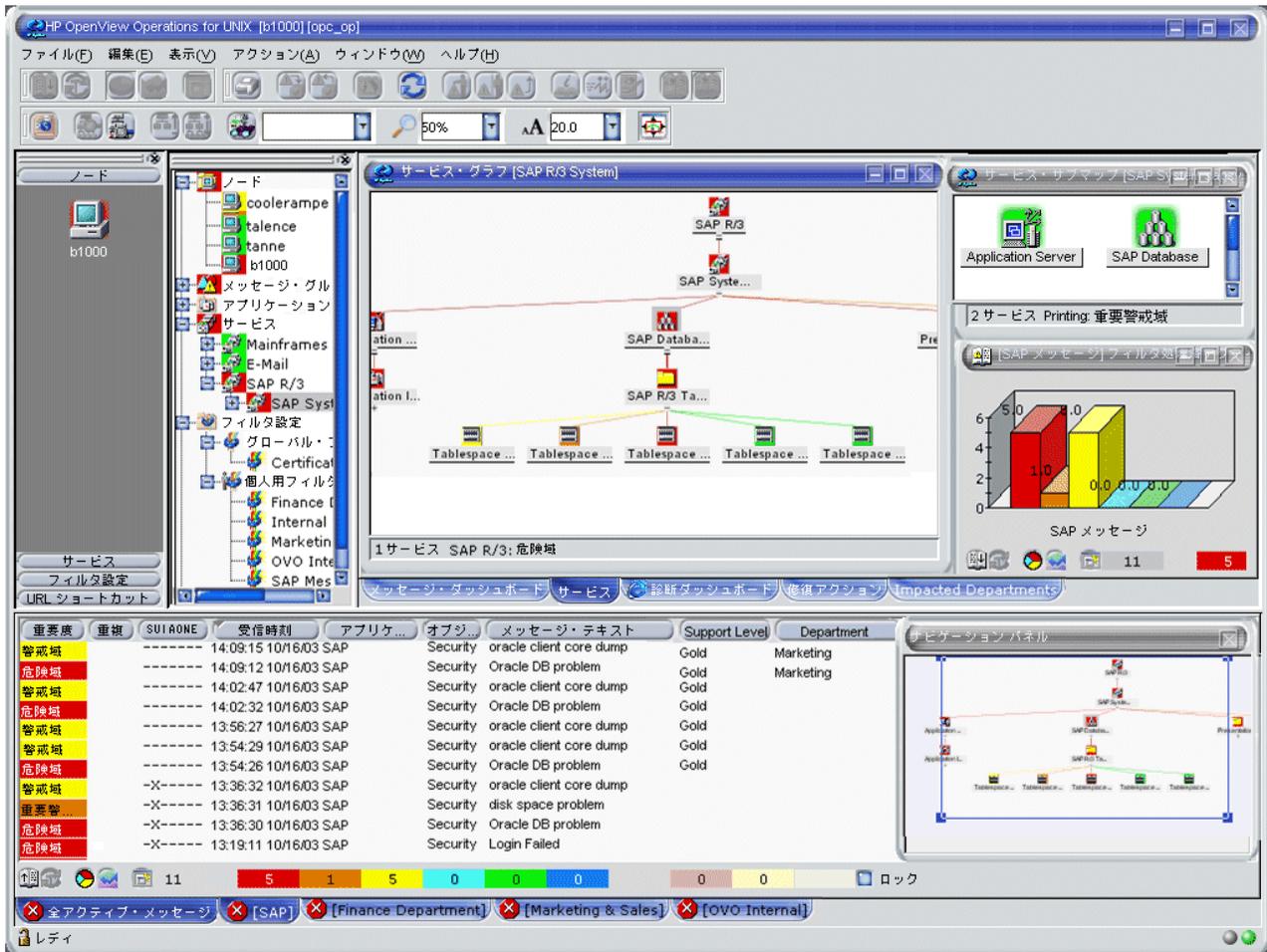
Java UI の改良点

Java UI の改良点は以下のとおりです。

- HTTPS ベースの Java GUI をサポート。設定の詳細と使用方法は下記の Web サイトから、ホワイトペーパー『*HTTPS-based Java GUI Support on the Management Server*』をダウンロードして参照してください。
http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/
- イベントブラウザで、OVO メッセージの一部として画像が表示できます。
- カスタマイズ可能なツールバー(たとえば、メッセージ、メッセージブラウザ、サービスのそれぞれに対して個別のツールバーが用意されています)。ツールバーに新たに追加されたオプションとボタン。変更可能なレイアウト。
- アプリケーションをコンテキストに応じて起動するためのリモート API¹、たとえば、OVO メッセージブラウザやサービスツリーなど。
- Java GUI 内、および Java GUI と他のアプリケーション間でのドラッグアンドドロップ操作。
- OVO メッセージのカスタムメッセージ属性のカスタマイズ(追加、変更、削除)。
- Mac OS プラットフォームの Cocoa スタイルのサポート。
- Java UI メッセージブラウザのカラム内容の整列。
- メッセージブラウザのポップアップメニューからブラウザレイアウトのカスタマイズが可能。
- Java UI でプロキシ認証が可能。
- メッセージフィールドのソート機能を数値にまで拡張。
- Java UI のショートカット キーの追加。
- アニメーション GIF イメージをカスタマイズ可能。
- アクティブ メッセージブラウザと履歴メッセージブラウザで別々にメッセージ数を指定可能。
- グローバル Java GUI プロパティファイルを使用可能。
- 履歴メッセージのローディングをキャンセル可能。
- 使用中のグローバル Java UI 設定を保存。
- メッセージブラウザのカラム中やメッセージプロパティ ダイアログボックス中の URL をハイパーリンクとして表示。
- Java GUI のフィールドに「転送マネージャ」を追加。
- 選択したメッセージから新しい履歴フィルターを作成するためのポップアップメニューとメニュー項目。

1. これらの API を使用するには、HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit のライセンス (LTU) を取得する必要があります。ライセンスを取得すると、当社から開発サポートの援助が受けられます。

図 1-1 Java UI の画面例



Java GUI の Operational サービスビュー

Service Navigator では、ユーザーがサービス間の依存関係を定義できます。**Service Navigator** は OVO/UNIX の基礎となるメッセージを基にサービス階層を構築し、オペレータの作業範囲を割り当てます。これにより、現在のサービスの状態を **Java GUI** で確認できます。

OVO/UNIX 8 より前は、**Service Navigator (SN)** の各サービスは同時には 1 つの状態のみ表示していました。アクティブメッセージブラウザのすべてのメッセージが、サービスの状態を決めるのに使用されていました。

今回、サービスごとに複数の状態を表示できるようになり、各ユーザーに適した情報を表示できます。たとえば下記のように使い分けることが可能です。

- IT 管理者は、業務サービスを含む管理対象環境の実際の運用状況を反映したサービスを表示したいと考えるでしょう。
- **Service Navigator** の **Java GUI** を使うオペレータは、他のオペレータによってすでに所有されたり、扱われていない問題のみを表示したいと考えるでしょう。

OVO/UNIX 8 では、新しく、これまでとは異なるメッセージ群とルールを使用して計算される **Operational** ステータスが追加されました。計算には、現在オペレータにより所有されていないアクティブなメッセージのみを使用します。したがって、同一のサービスが、異なるメッセージ群から計算された 2 つの異なるステータス (重要度も異なる可能性がある) を同時に表示することがあります。

下記の 2 つのステータス計算ビューに表示されるサービスを監視し、処理することができます。

□ Overall

アクティブメッセージブラウザにある、すべてのメッセージに基づいたサービスステータスのビュー。

Overall ステータス計算ビューは、サービスのステータスを、それに関係するメッセージの所有関係とは関係なく、同じ方法で表示します。下記の例では、該当サービスが赤色で表示されています。それをオブジェクトペイン、サービスグラフ、サービスマップ、ショートカットバーで見ることができます。メッセージを所有しても、そのメッセージを受諾しない限り、該当サービスの重要度は変化しません。

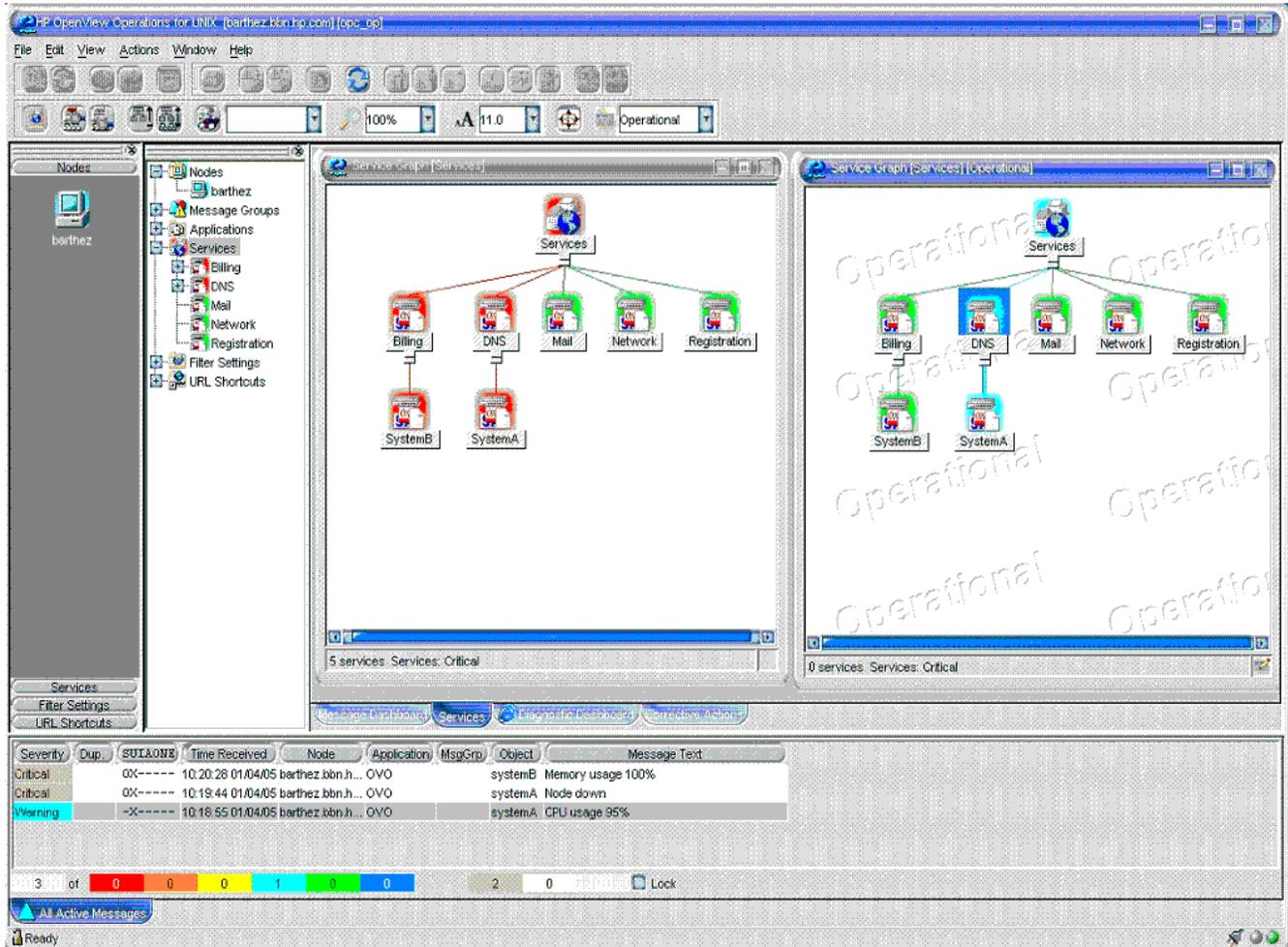
□ Operational

アクティブメッセージブラウザにある、非所有のメッセージのみに基づいたサービスステータスのビュー

ステータス計算ビューが **Operational** に設定されているときに、メッセージを所有をすると、該当サービスおよび依存関係にあるすべてのサービスの重要度は、そのメッセージが到着する以前の表示に戻ります。

サービスの **Operational** ビューの利点は、サービスに対応するメッセージを受諾すると、つまり問題が解決すると、サービス階層がどのように見えるかを理解することができるということです。これは、21 ページの図 1-2 のように、サービスを両方のビューで監視している場合にとても便利です。

図 1-2 Operational サービス ビューを使用する



詳細は、下記の Web サイトで、ホワイトペーパー『Operational Service Views in Service Navigator』を参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

Service Navigator の改良点

Service Navigator の改良点は以下のとおりです。

- ナビゲーションパネル
- 拡大 / 縮小機能
- サービスアイコンの配置とドラッグ
- サービス間の接続線の選択
- 投げ縄ツールによる選択

このバージョンの概要
OVO/UNIX 8.1 の新機能

- 動的に更新される複数行のサービスラベル。opcsvcattr(1) コマンド行インタフェースで設定
- 複数行のサービスラベルへの画像の挿入

図 1-3 Service Navigator の画面例

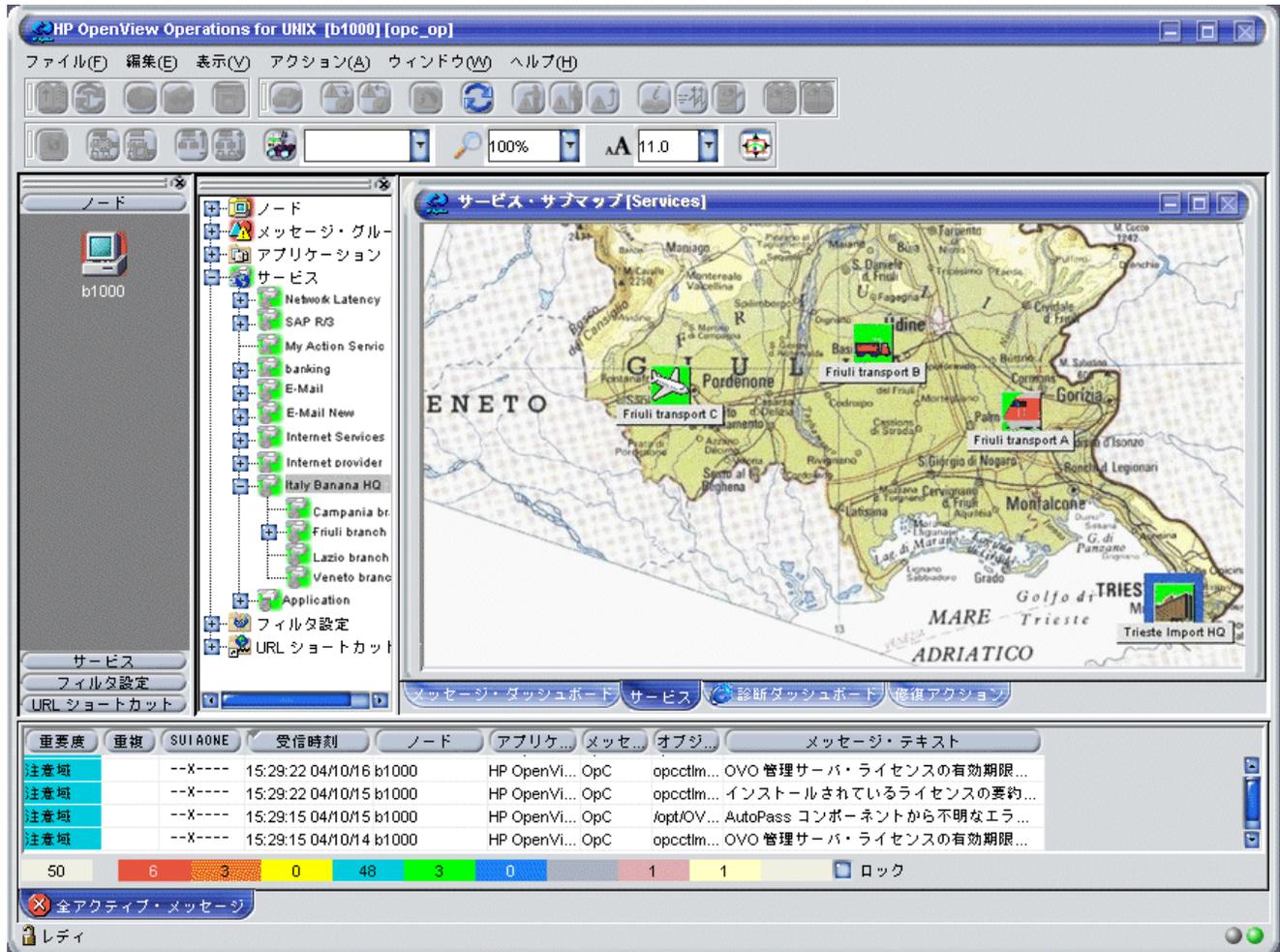
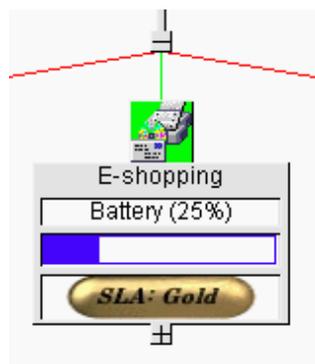


図 1-4 複数行のサービスラベル



管理機能の機能拡張

OVO/UNIX の管理機能は以下のように拡張されました。

- Motif の管理者用 GUI: ノードグループを隠すことによってユーザーの作業範囲を最小化。ただし、他の OVO 管理タスクには、追加ノードグループを使用します。
- HP-UX、Solaris、Windows、Linux、AIX、および Tru64 プラットフォームの OVO/UNIX 7.x DCE エージェント用 OS-SPI。
- HP-UX、Solaris、Windows、および Linux プラットフォームの HTTPS エージェント用 OS-SPI。
OS-SPI は、OVO for UNIX Media Kit に付属の OVO/UNIX SPI CD セットに収録されています。
- HTTPS エージェントと DCE エージェント用の、*opcmon(3)* と *opcmsg(3)* の Java API ラッパー。
- OVO Oracle データベースにすでに格納されている OVO メッセージのカスタム メッセージ属性を追加、変更、削除するための API¹。API は `opcsvapi.h: opcsv_api.txt` で定義されています。使用例は、`itomessage.c` にあります。

Pluggable Authentication Module (PAM)

OVO/UNIX ユーザーが Motif UI や Java UI にログインする際に使用される外部認証機能のための Pluggable Authentication Module (PAM) 統合。これは、OVO データベースに格納されているユーザー名とそれに対応するパスワードに基づいて行われる OVO/UNIX の内部認証機能の代替として使用できます。

OVO/UNIX 管理サーバーのシステム管理者は、PAM が提供する設定ファイルを使って、使用する認証メカニズムの種類を指定することができます。

UNIX の `/etc/passwd`、Kerberos、または LDAP など、各種の認証モジュールを使用することができます。

注記 PAM/Kerberos モジュールは、現在 HP-UX オペレーティングシステム用のパッチが用意されていないため、まだ OVO/UNIX 8.1 で公式に認定されていません。

高可用性環境

OVO 8 は、HP-UX 11.00 および 11.11 用管理サーバー向けの MC/ServiceGuard 11.14、11.15、および HP-UX 11.23 PA-RISC 用管理サーバー向けの MC/ServiceGuard 11.16 の他に、Veritas Cluster 3.5 をサポートするようになりました。

OVO/UNIX 8 は、Sun Solaris 管理サーバー用に、Veritas Cluster 3.5、4.0 と Sun Cluster 3.0、3.1 をサポートするようになりました。

OVO/UNIX 8 の HTTPS エージェントおよび 7.x DCE エージェントは、高可用性環境で実行し、それらの環境を管理することができます。

1. これらの API を使用するには、HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit のライセンス (LTU) を取得する必要があります。ライセンスを取得すると、当社から開発サポートの援助が受けられます。

配布可能な OV Performance Agent

OVO/UNIX 8 には、次のような配布可能な OV Performance Agent パッケージが、OVO/UNIX Media Kit の一部として用意されています。

- 以下のプラットフォーム用の OVO/UNIX 7.x DCE/NCS エージェント：
HP-UX、Solaris、Windows、Linux、AIX、Tru64
- 以下のプラットフォーム用の OVO/UNIX 8.x HTTPS エージェント：
HP-UX、Solaris、Windows、Linux、AIX

OVO/UNIX の多数のエージェントでサポートされる、配布可能な OVPA Media Kit が用意されています。

ECS 3.31 ランタイムのサポート

ECS 3.31 ランタイムファイルは、OVO 管理サーバーと、Solaris、HP-UX、および Microsoft Windows の管理対象ノードでサポートされます。

OV Composer 3.31/3.33 のサポート

OVO 8 には、OV Composer 3.31 のためのまったく新しい統合モジュールが含まれています。OV Composer は、簡単に使用でき、無償で配布される、当社製イベント関連処理コンポーネントです。OV Composer 3.33 は NNM 7.5 で提供されます。詳細は、『OVO システム管理リファレンスガイド』を参照してください。

ECS 3.2 Designer のサポート

ECS 3.2 Designer が HP-UX 11.00 と 11.11 でサポートされます。

その他

□ \$AGENT_USER

設定済みのアプリケーションにユーザー名をハードコーディングする代わりに、\$AGENT_USER 変数でユーザー名を設定することができます。これによって、常に OVO エージェントと同じユーザーで、アプリケーションを実行することができます。

□ その他の新しい変数

以下の変数を使うと、メッセージの中でテンプレート名、条件名、条件番号を使うことができます。これらの変数は、ログファイルのモニター、SNMP トラップのインターセプト、OVO メッセージインターセプトで使うことができます。

- \$CONDITION_NAME
- \$CONDITION_NUMBER
- \$TEMPLATE_NAME

これらの変数を、たとえばカスタムメッセージ属性に指定しておくことで、一致したテンプレートや条件番号を素早く知ることができ、現在の設定を改良する場合に役立ちます。

注記 これらの変数は、Advanced Monitoring とモニターエージェントでは使用されません。

□ HTTPS ノード用の新しい opctemplate 出力

opctemplate のリスト形式は、HTTPS ノード用に変更されました。
たとえば、HTTPS ノードに対して、次のコマンドを実行します。

```
opctemplate -l
```

すると、出力は以下の形式で表示されます。

```
'configsettings'  'OVO settings'      enabled
'le'              'Cron (10.x/11.x HP-UX)'  enabled
'le'              'OSSPI-HPUX-BadLogs_1'  enabled
'le'              'OSSPI-HPUX-Boot_1'    enabled
```

DCE ノードの場合は、従来の形式のままです。

```
LOGFILE "perftest"      enabled
LOGFILE "tobi-test"    enabled
LOGFILE "dynamic-log"  enabled
LOGFILE "readbegin"    enabled
LOGFILE "close-test"   enabled
```

注記 HTTPS エージェントでの opctemplate は、ovdeploy のラッパーとしてだけ機能します。ただし、フレキシブル管理サーバー (MoM) 環境で OVO を動作している場合には、opctemplate がポリシーとして mgrconf ファイルをリストすることはありません。

□ HTTPS エージェントではファイルパーミッションは変更されない

opcdeploy または ovdeploy を使って HTTPS 管理対象ノードに配布されるファイルのパーミッションは、配布後も元のパーミッションと同じです。

opcdeploy または opctranm を使って DCE エージェントに配布した場合には、パーミッションは 600 に変更されます。これらのファイルは、適切なパーミッションを設定した後でないと、管理対象ノードシステムで実行することができません。パーミッションを変更するには、opcdeploy または opctranm を、対応する chmod と共に呼び出します (または、opctranm トラック (truck) ファイルで定義します)。

日本語、韓国語、簡体字中国語、スペイン語のローカライズサポート

OVO 8 から、以下の言語のローカライズサポートが行われるようになりました。

- 日本語
- 韓国語
- 簡体字中国語
- スペイン語

このサポートの範囲は言語ごとに異なります。各言語のサポート内容を以下の表にまとめています。

表 1-6 ローカライズされたソフトウェアとオンラインヘルプ

ロケール	英語	日本語	韓国語	簡体字中国語	スペイン語
Java UI とオンラインヘルプ	○	○	○	○	○
Motif UI とオンラインヘルプ	○	○			

表 1-6 ローカライズされたソフトウェアとオンラインヘルプ (続き)

ロケール		英語	日本語	韓国語	簡体字中国語	スペイン語
マンページ		○				
インストール		○	○	○	○	○
HTTPS エージェントメッセージカタログ	イベントアクション	○	○	○	○	○
	組み込み Performance Agent	○				
DCE エージェントメッセージカタログ	イベントアクション	○	○			
	組み込み Performance Agent	○	○			
エンコーディング/データベースのキャラクタセット		ISO-885915 WE8ISO8859P15	Shift-Jis JA16SJIS	eucKR KO16KSC5601	hp15CN ZHS16CGB231280	ISO-885915@euro WE8ISO8859P15

表 1-7 ローカライズされたマニュアル

ロケール	英語	日本語	韓国語	簡体字中国語	スペイン語
<i>OVO 管理サーバー インストールガイド</i>	○	○			
<i>OVO コンセプトガイド</i>	○	○	○	○	
<i>OVO システム管理リファレンスガイド</i>	○	○	○	○	
<i>OVO Java GUI オペレータガイド</i>	○	○	○	○	○
<i>HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド</i>	○	○	○	○	
<i>DCE エージェント コンセプトと設定ガイド</i>	○	○			
<i>Service Navigator コンセプトと設定ガイド</i>	○	○	○	○	
<i>Firewall Concepts and Configuration Guide</i>	○				
<i>Tracing Concepts and User's Guide</i>	○				
<i>Metrics for HP OpenView Performance Agent and HP OpenView Operations Agent</i>	○				
<i>HP OpenView Performance Agents Metrics Help Text</i>	○	○			
<i>OVO Reporting and Database Schema</i>	○				
<i>OVO Entity Relationship Diagrams</i>	○				
<i>OVO ソフトウェア リリースノート</i>	○	○			

表 1-7 ローカライズされたマニュアル (続き)

ロケール	英語	日本語	韓国語	簡体字 中国語	スペイン 語
<i>OVO Application Integration Guide</i>	○				
<i>OVO Developer's Reference</i>	○				
<i>Security Advisory Guide</i>	○				

注記 下記の Web サイトを定期的に調べ、ローカライズされたマニュアルの最新版を入手してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

Service Navigator で構成情報を動的に変更

OVO/UNIX Service Engine のプログラミングが可能になりました。これにより、たとえば Service Navigator で構成情報を動的に変更することができます。

詳細は、以下の場所にあるホワイトペーパー『*Getting Started with XML/Perl Programming for the OVO Service Engine*』を参照してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

変更された機能

本項では、OVO 7.1 から変更された既存の機能をリストします。

OVO 管理サーバーのインストール方法

OVO 管理サーバーのインストールは、以前に比べてはるかに簡単になりました。ovoinstall ユーティリティによって、インストールのすべての手順のガイドが示されます。

注記 OVO は、Software Distributor UI を使って、または swinstall コマンド行を直接呼び出してインストールしないでください。

HP-UX では、集中デポサーバーの概念はサポートされなくなりました。ただし、ネットワークの NFS 応答時間が短い場合には、NFS でマウントされたファイルシステムを使って、OVO/UNIX ソフトウェアをインストールすることができます。

OVO 管理サーバーへの情報の設定

OVO 管理サーバーの設定では、opcsvinfo 設定ファイルを使わなくなりました。

管理サーバーの設定は、OpenView の新しい基本コンポーネントに基づき、ovconfget(1) と ovconfchg(1) を使って行うようになっていきます。

たとえば、変数 OPC_DIRECT_ACKN_LIMIT の値を 1 に設定する場合は、次のようにします。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_DIRECT_ACKN_LIMIT 1
```

詳細は、『*HP OpenView Operations HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド*』を参照してください。

変数がノードの設定の中で明示的に設定されていない場合は、次のコマンドを実行したときに空の文字列が返されます。

```
opcragt -get_config_var <name_space>:<variable_name> <node>
```

それでもそのノードでは、デフォルト値がある場合には、そのデフォルト値が使われます。DCE ノードでは上と同じコマンドを実行すると、使われているデフォルトの設定値が表示されます。

プロセスを指定して特定の値を設定する場合の opcragt の構文は、HTTPS エージェントと DCE エージェントで違います。

HTTPS の場合は、次のような構文になります。

```
opcragt -set_config_var eaagt.opcacta:MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=100 <nodename>
```

この場合、指定した値は名前空間 eaagt.opcacta 内のアクションエージェント opcacta のみに設定されます。

DCE 管理対象ノードの場合は、次のような構文になります。

```
opcragt -set_config_var 'MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS(opcacta)=100' <nodename>
```

HTTPS 管理対象ノードへの情報の設定

OVO HTTPS エージェントでは、設定ファイル `opcinfo` と `nodeinfo` を使用しなくなりました。ローカル側の HTTPS エージェントの設定は、新しい OpenView 基本コンポーネント `ovconfget(1)` と `ovconfchg(1)` を使って行なわれます。詳細は、『*HP OpenView Operations HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド*』を参照してください。

変数がノードの設定の中で明示的に設定されていない場合は、次のコマンドを実行したときに空の文字列が返されます。

```
opcragt -get_config_var <name_space>:<variable_name> <node>
```

それでもそのノードでは、デフォルト値がある場合には、そのデフォルト値が使われます。DCE ノードでは上と同じコマンドを実行すると、使われているデフォルトの設定値が表示されます。

プロセスを指定して特定の値を設定する場合の `opcragt` の構文は、HTTPS エージェントと DCE エージェントとは異なります。

HTTPS エージェントの場合は、次のような構文になります。

```
opcragt -set_config_var eaagt.opcacta:MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=100 <nodename>
```

この場合、指定した値は名前空間 `eaagt.opcacta` 内のアクションエージェント `opcacta` のみに設定されます。

DCE 管理対象ノードの場合は、次のような構文になります。

```
opcragt -set_config_var 'MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS(opcacta)=100' <nodename>
```

指示文パラメータに渡される OVO メッセージ変数

指示文インタフェースにパラメータとしてメッセージ変数を渡す処理のデフォルト動作が変更になりました。

以前は、変数がオリジナルメッセージの属性に置き換わっていました。たとえば、次のように呼び出したとします。

```
opcmsg msg_t=hello
```

このとき、`<$MSG_MSG>` は、[条件] ウィンドウの [属性の設定] エリアに指定されている値、たとえば「"This is a hello message."」に置き換わります。

以前の動作に戻したい場合は、`OPC_SET_MSGVARS_FROM_ORIGMSG` に `TRUE` を設定します。

例:

すべてのエージェントプロセスに対して以前の動作に変更する場合:

```
ovconfchg -ns eaagt -set OPC_SET_MSGVARS_FROM_ORIGMSG TRUE
```

`opcmsgi` プロセスだけに対して以前の動作に変更する場合:

```
ovconfchg -ns eaagt.opcmsgi -set OPC_SET_MSGVARS_FROM_ORIGMSG TRUE
```

リモートアクションの許可

OVO 8 で、リモートアクションの実行許可が改善されました。リモートにある HTTPS ノードからの自動アクションは特に指定しなくても可能ですが、リモートにある DCE 管理対象ノードからの自動アクションは指定しないとできません。SPI の検出が動作するようにするには、DCE 管理対象ノードまたは SPI ノードグループ内のすべてのノードが OVO 管理サーバーシステム上でアクションを実行できるよう、明示的に許可する必要があります。

詳細は、『HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』の「リモートアクションの許可」セクションを参照してください。

HTTPS 管理対象ノードのポリシー

ポリシーは暗号化をやめ、署名を付けるようになりました。そのため、その内容は直接読むことができるようになっていました。また、同じ種類のテンプレートは、1つのファイルにすべてをまとめるのではなく、同じディレクトリの下に異なるファイルとして保存されるようになりました。

ポリシーヘッダーは XML の形式で 1つのファイル (UUID_header.xml) に、またポリシー本体は、それとは別のファイル (UUID_data) に保存されます。ポリシーヘッダーには、基本としてポリシー本体の情報も含まれています。テンプレートの内容を OVO 7 のときと同じように表示したい場合は、何もしないで単に UUID_data を開いてください。ポリシーが新しく保存されるようになったディレクトリは、次のとおりです。

nodeinfo のテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/configsettings/
ログファイルのテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/le/
MoM のテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/mgrconf/
モニターのテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/monitor/
opcmsg のテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/msgi/
SNMP トラップのテンプレート	\$OvDataDir/datafiles/policies/trapi/

サービスエンジンへのリモートアクセスは不可能

デフォルトでは、サービスエンジンへのリモートアクセスは無効になっています。

サービスエンジンへリモートアクセスができるようにするには、次のように構成情報を変更します。

1. /etc/services ファイルに次の行を追加します。

```
opcsvcterm 7278/tcp # Service engine remote access
```

2. /etc/inetd.conf ファイルに次の行を追加します。

```
opcsvcterm stream tcp nowait root /opt/OV/bin/OpC/opcsvcterm opcsvcterm
```

3. 次のようにして、inetd プロセスを再起動します。

```
inetd -c
```

ローカル管理表領域

OVO で使うデータベースは、以前のディクショナリ管理表領域ではなく、Oracle のローカル管理表領域を使って作成されるようになりました。

エラーロギング

OVO 8.x では、OpenView の共通ロギング機能を使っています。このため、エラー情報のロギング先は、従来の opccerror ファイルから次のファイルに変わりました。

バイナリ \$OvDataDir/log/System.bin

ASCII テキスト \$OvDataDir/log/System.txt

この場所は、HTTPS エージェントと HTTPS 管理サーバーで共通です。詳細は、ovlogdump(1) のマンページを参照してください。

トレース機能

OVO 8.x で OpenView の共通トレース機能を使うようになりました。詳細は、『*Tracing Concepts and User's Guide*』を参照してください。

OVO-SunMC 統合キット

OVO-SunMC 統合キットは、OVO/UNIX SPI CD に収録されて出荷されるようになりました。管理サーバーのデポからは取り除かれています。

OVO-SunMC 統合キットの詳細は、OVO/UNIX SPI CD のリリースノートを参照してください。

AIX、HP-UX、Linux、Sun Solaris、Tru64、および Microsoft Windows 用のデフォルトテンプレート

AIX、HP-UX、Linux、Sun Solaris、Tru64、および Windows 用のデフォルトテンプレートは、OVO 8 には添付されていません。この機能は、Smart Plug-ins for Operating Systems (OS-SPI) に置き換えられました。OS-SPI は定期的にアップデートされ、次々にリリースされる OpenView SPI CD で配布されます。

注記 OS-SPI には、専用のリリースノートが付属しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

注記 サポートされているその他の OVO 7.x DCE プラットフォーム (Novell Netware、MPE/iX、ptx、Reliant、IRIX など) 用のインストールメンテーションは、これまでと同様に、OVO/UNIX の一部として提供されます。

ポリシーやアプリケーションの名前の付け方やグループの分け方は、一貫性を保ち、重複を避けるために、SPI 標準に合わせてあります。

OS-SPI は、HTTPS エージェントと DCE エージェントの両方に対して、できる限り同一のインストールメンテーションを提供します。

注記 OS-SPI が OVO の機能と同等の機能、またはそのスーパーセットを提供する場合には、既存の OS-SPI バージョンが使用されます。この場合には、実際のテンプレートの条件やコマンド行パラメータは、完全には同じではない可能性があります。

表 1-8 に、新しい OS-SPI インストールメンテーションの名前と、OVO/UNIX 7.x で従来使われていた名前との対応を示します。

表 1-9 に、新しい OS-SPI ポリシーの名前と、OVO/UNIX 7.x で従来使われていたテンプレート名との対応を示します。

表 1-10 に、新しい OS-SPI アプリケーション名と、OVO/UNIX 7.x で従来使われていた名前との対応を示します。

ご使用のシステムの既存のインストールメンテーションと元のファイルのコピーの名前を変更し、表 1-8、表 1-9、表 1-10 に示す OS-SPI で使われている名前と一致するようにしてください。

表 1-8 OS-SPI インストルメンテーションの対応表

プラットフォーム	種類	OVO/UNIX 7.x での インストルメンテーション名	OS-SPI の インストルメンテーション名
AIX	アクション	mailq_pr.sh	osspi_mailqpr.sh
		ana_disk.sh	osspi_anadisk.sh
		sh_procs.sh	osspi_shprocs.sh
	コマンド	opcdf	osspi_df.sh
		opclpst	osspi_lpst.sh
		opcps	osspi_ps.sh
	モニター	cpu_mon.sh	osspi_cpuutil.sh
		disk_mon.sh	osspi_diskutil.sh
		errpt_fmt.sh	osspi_errptfmt.sh
		opcfwtmp	osspi_fwtmp
		proc_mon.sh	osspi_pentmon.sh
	HP-UX	アクション	mailq_pr.sh
ana_disk.sh			osspi_anadisk.sh
sh_procs.sh			osspi_shprocs.sh
コマンド		opcdf	osspi_df
		opclpst	osspi_lpst
		opcps	osspi_ps
OVPA コマンド		anycmd.sh	osspi_anycmd.sh
		perfcmd.sh	osspi_perfcmd.sh
		cfgfile.sh	osspi_cfgfile.sh
モニター		cpu_mon.sh	osspi_cpuutil.sh
		disk_mon.sh	osspi_diskutil.sh
		opcfwtmp	osspi_fwtmp
		openpres	osspi_npres
		proc_mon.sh	osspi_pentmon.sh

表 1-8 OS-SPI インストルメンテーションの対応表 (続き)

プラットフォーム	種類	OVO/UNIX 7.x での インストルメンテーション名	OS-SPI の インストルメンテーション名
Linux	アクション	mailq_pr.sh	osspi_mailqpr.sh
		ana_disk.sh	osspi_anadisk.sh
		sh_procs.sh	osspi_shprocs.sh
	コマンド	opcdf	osspi_df.sh
		opclpst	osspi_lpst.sh
		opcps	osspi_ps.sh
	モニター	cpu_mon.sh	osspi_cpuutil.sh
		disk_mon.sh	osspi_diskutil.sh
		opcfwtmp	osspi_fwtmp
		proc_mon.sh	osspi_pentmon.sh
Solaris	アクション	mailq_pr.sh	osspi_mailqpr.sh
		ana_disk.sh	osspi_anadisk.sh
		sh_procs.sh	osspi_shprocs.sh
	コマンド	opcdf	osspi_df.sh
		opclpst	osspi_lpst.sh
		opcps	osspi_ps.sh
	OVPA コマンド	anycmd.sh	osspi_anycmd.sh
		perfcmd.sh	osspi_perfcmd.sh
		cfgfile.sh	osspi_cfgfile.sh
	モニター	cpu_mon.sh	osspi_cpuutil.sh
		disk_mon.sh	osspi_diskutil.sh
		opcfwtmp	osspi_fwtmp
		proc_mon.sh	osspi_pentmon.sh
		vcs_monitor.sh	osspi_vcsmon.sh

表 1-8 OS-SPI インストルメンテーションの対応表 (続き)

プラットフォーム	種類	OVO/UNIX 7.x での インストルメンテーション名	OS-SPI の インストルメンテーション名
Tru64 UNIX	アクション	mailq_pr.sh	ossapi_mailqpr.sh
		ana_disk.sh	ossapi_anadisk.sh
		sh_procs.sh	ossapi_shprocs.sh
	コマンド	opcdf	ossapi_df.sh
		opclpst	ossapi_lpst.sh
		opcps	ossapi_ps.sh
	モニター	cpu_mon.sh	ossapi_cpuutil.sh
		disk_mon.sh	ossapi_diskutil.sh
		opcfwtmp	ossapi_fwtmp
		proc_mon.sh	ossapi_pentmon.sh
Windows	アクション	なし	
	コマンド	itodiag.exe	winossapi_windiag.exe
		itouuser.exe	winossapi_winuser.exe
		itokill.exe	winossapi_prockill.exe
		itosdown.exe	winossapi_shutdown.exe
		itoreg.exe	winossapi_winreg.exe
		opcprfls.exe	winossapi_perfobj.exe
		itoreg.cfg	winossapi_winreg.cfg
		itomserv.exe	winossapi_confserv.exe
	mf_app.bat	winossapi_mf_app.bat	
モニター	なし		

注記 itoproc.exe バイナリは OVO Windows エージェントの一部として出荷されません。このバイナリは、以前は OVO のデフォルトのインストルメンテーションに含まれていました。

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
注記： ポリシーが属するテンプレートグループを調べるには、OVO レポートの [テンプレートの要約] を使って、レポートの出力内でポリシー名を検索します。たいていのポリシーは複数のテンプレートグループに割り当てられています。この OVO レポートを使用するには、OVO 管理者用 GUI で [アクション -> ユーティリティ -> レポート ...] を選択します。	
AIX テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Audit Log (AIX)	OSSPI-AIX-AuditLog_1
Bad Logs (AIX)	OSSPI-AIX-BadLogs_1
Kernel Logs (AIX)	OSSPI-AIX-KernelLogs_2
Logins (AIX)	OSSPI-AIX-Logins_1
Su (AIX)	OSSPI-AIX-Su_1
Syslog (AIX)	OSSPI-AIX-syslog_1
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
AIX with HACMP テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Audit Log (AIX)	OSSPI-AIX-AuditLog_1
Bad Logs (AIX)	OSSPI-AIX-BadLogs_1
HACMP logfile (AIX)	OSSPI-HACMP_Log_1
Kernel Logs (AIX)	OSSPI-AIX-KernelLogs_2
Logins (AIX)	OSSPI-AIX-Logins_1
Su (AIX)	OSSPI-AIX-Su_1
Syslog (AIX)	OSSPI-AIX-syslog_1
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
Debian Linux テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Auth (Debian Linux)	OSSPI-Linux-authlog_1
Kernel (Debian Linux)	OSSPI-linux-debian_kernellog_1
Logins (Linux)	OSSPI-Linux-Logins_2
Syslog (Debian Linux)	OSSPI-Linux-syslog_2
Inetd	OSSPI-Linux_inetdproc_2
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_2
Syslogd	OSSPI-syslogproc_2
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
HP-UX テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Bad Logs (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-BadLogs_1
Boot (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Boot_1
Cron (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Cron_1
Kernel Logs (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Dmesg_2
Logins (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Logins_1
Mailqueue (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-mailqueue_2
Su (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Su_1
Syslog (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-syslog_2
Syslog (ServiceGuard)	OSSPI-MCSG-Syslog_1
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
Management Server テンプレートグループ	
opcmgs(1 3)	OSSPI-opcmgs_3
Cron (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Cron_1
Su (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Su_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_1
SNMP Traps (NNM 7.01) SNMP ECS Traps	NNM 7.01 に対応するバージョンで置き換えられる。 OVO プラットフォーム用に用意される。
Su (Solaris)	OSSPI-SOL-Su_1
Syslog (Solaris)	OSSPI-SOL-syslog_2
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
MC/SG Physical Management Server テンプレートグループ	
opcmgs(1 3)	OSSPI-opcmgs_3
Cron (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Cron_1
Su (10.x/11.x HP-UX)	OSSPI-HPUX-Su_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
SC/HA Physical Management Server テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Bad Logs (Solaris)	OSSPI-SOL-BadLogs_1
Cron (Solaris)	OSSPI-SOL-Cron_1
Logins (Solaris)	OSSPI-SOL-Logins_1
Su (Solaris)	OSSPI-SOL-Su_1
Syslog (Solaris)	OSSPI-SOL-syslog_2
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
Solaris テンプレートグループ	
opcmmsg(1 3)	OSSPI-opcmmsg_3
Bad Logs (Solaris)	OSSPI-SOL-BadLogs_1
Cron (Solaris)	OSSPI-SOL-Cron_1
Engine Log (SC)	OSSPI-SC-EngineLog_1
Engine Log (VCS)	OSSPI-VCS-EngineLog_1
Engine Notify Log (VCS)	OSSPI-VCS-EngineNotifyLog_1
Logins (Solaris)	OSSPI-SOL-Logins_1
Su (Solaris)	OSSPI-SOL-Su_1
Syslog (Solaris)	OSSPI-SOL-syslog_2
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
SuSE Linux テンプレートグループ	
opcmgs(1 3)	OSSPI-opcmgs_3
Kernel Messages (SuSE)	OSSPI-linux-suse_kernellog_1
Logins (Linux)	OSSPI-Linux-Logins_2
Messages (SuSE)	OSSPI-linux-suse_messages_1
Inetd	OSSPI-Linux_inetdproc_2
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_2
Syslogd	OSSPI-syslogproc_2
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
Tru64 UNIX テンプレートグループ	
opcmgs(1 3)	OSSPI-opcmgs_3
Cron (Digital Unix)	OSSPI-cronproc_1
Logs (Digital Unix)	OSSPI-Tru64-Logins_1
Lplog (Digital Unix)	OSSPI-Tru64-printlog_1
OS Msgs (Digital Unix)	OSSPI-Tru64_messages_1
SIA Log (Digital Unix)	OSSPI-Tru64-BadLogs_1 と OSSPI-Tru64-Su_1
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
swap_util	OSSPI-procutil_1
VCS Physical Management Server テンプレートグループ	
opcmgs(1 3)	OSSPI-opcmgs_3
Application (VCS)	OSSPI-VCS-ApplicationServiceLog_1

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
Bad Logs (Solaris)	OSSPI-SOL-BadLogs_1
Cron (Solaris)	OSSPI-SOL-Cron_1
Disk (VCS)	OSSPI-VCS-DiskServiceLog_1
DiskGroup (VCS)	OSSPI-VCS-DiskGroupLog_1
DiskReservation (VCS)	OSSPI-VCS-DiskReservationLog_1
ElifNone (VCS)	OSSPI-VCS-ElifNoneServiceLog_1
Engine	OSSPI-VCS-EngineLog_1
Engine Shadow	OSSPI-VCS-EngineShadowLog_1
Engine Shadow Error	OSSPI-VCS-EngineShadowErrorLog_1
FileNone (VCS)	OSSPI-VCS-FileNoneServiceLog_1
FileOnOff (VCS)	OSSPI-VCS-FileOnOffServiceLog_1
FileOnOnly (VCS)	OSSPI-VCS-FileOnOnlyServiceLog_1
IP (VCS)	OSSPI-VCS-IPServiceLog_1
IPMultiNIC (VCS)	OSSPI-VCS-IPMultiNICServiceLog_1
Logins (Solaris)	OSSPI-SOL-Logins_1
Mount (VCS)	OSSPI-VCS-MountServiceLog_1
MultiNICA (VCS)	OSSPI-VCS-MultiNICAServiceLog_1
NFS (VCS)	OSSPI-VCS-NFSServiceLog_1
NIC (VCS)	OSSPI-VCS-NICServiceLog_1
Phantom (VCS)	OSSPI-VCS-PhantomServiceLog_1
Process (VCS)	OSSPI-VCS-ProcessServiceLog_1
Proxy (VCS)	OSSPI-VCS-ProxyServiceLog_1
ServiceGroupHB (VCS)	OSSPI-VCS-ServiceGroupHBSERVICELog_1
Share (VCS)	OSSPI-VCS-ShareServiceLog_1
Su (Solaris)	OSSPI-SOL-Su_1
Syslog (Solaris)	OSSPI-SOL-syslog_2
Volume (VCS)	OSSPI-VCS-VolumeServiceLog_1
Inetd	OSSPI-inetdproc_1
MailQueueLength	OSSPI-mailqueue_2
Sendmail	OSSPI-mailproc_1
Syslogd	OSSPI-syslogproc_1

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
cpu_util	OSSPI-cpuutil_1
disk_util	OSSPI-diskutil_1
had	OSSPI-VCS-had_1
hashadow	OSSPI-VCS-Hashadow_1
proc_util	OSSPI-procutil_1
swap_util	OSSPI-swapmon_2
vmsa_server	OSSPI-vmsa-server_1
vxconfigd	OSSPI-vxconfigd_1
Windows 2000/2003 テンプレートグループ	
opcmsg(1 3)	WINOSSPI-opcmsg
dflt_ApplEvLog (2000)	WINOSSPI-Logon_ApplInfo
	WINOSSPI-NetworkConfig_ApplInfo
	WINOSSPI-ADS_Replication_ApplInfo
dflt_DNSEvLog (NT)	WINOSSPI-ADS_DNSServ_FwdAllInformation
	WINOSSPI-ADS_DNSServ_FwdAllWarnError
dflt_DirectoryEvLog (2000)	WINOSSPI-ADS_FwdAllInformationDS
	WINOSSPI-ADS_FwdAllWarnErrorDS
	WINOSSPI-ADS_ReplcationActivites
dflt_FileReplicationEvLog (2000)	WINOSSPI-ADS_FwdAllInformationFRS
	WINOSSPI-ADS_FwdAllWarnErrorFRS
dflt_SecEvLog (NT)	WINOSSPI-Logon_SecInfo
	WINOSSPI-Process_SecInfo
	WINOSSPI-SecEvLog_Operations
	WINOSSPI-ADS_PrivilegedObjects
dflt_SysEvLog (NT)	WINOSSPI-SCM_Sysinfo
	WINOSSPI-NetLogon_SysInfo
dflt_cpu_util_NT	WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_Win2k_PrivilegedTime
	WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_Win2k_ProcessorTime
	WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_Win2k_UserTime

表 1-9 OS-SPI テンプレート / ポリシーの対応表 (続き)

テンプレート名	OS-SPI のポリシー名
Windows NT テンプレートグループ¹	
opcmsg(1 3)	WINOSSPI-opcmsg
dflt_ApplEvLog (NT)	WINOSSPI-Logon_ApplInfo WINOSSPI-NetworkConfig_ApplInfo WINOSSPI-ADS_Replication_ApplInfo
dflt_SecEvLog (NT)	WINOSSPI-Logon_SecInfo WINOSSPI-Process_SecInfo WINOSSPI-SecEvLog_Operations WINOSSPI-ADS_PrivilegedObjects
dflt_SysEvLog (NT)	WINOSSPI-SCM_Sysinfo WINOSSPI-NetLogon_SysInfo
dflt_cpu_util_NT	WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_NT4_PrivilegedTime WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_NT4_ProcessorTime WINOSSPI-SysMon_CpuSpikeCheck_NT4_UserTime
dflt_disk_util_NT	WINOSSPI-SysMon_DiskBusyCheck_AvgDiskQueue WINOSSPI-SysMon_DiskBusyCheck_DiskTime WINOSSPI-SysMon_DiskFullCheck_FreeMB WINOSSPI-SysMon_DiskFullCheck_PercentageFreeSpace

1. Microsoft Windows NT オペレーティングシステムは、Microsoft 社によるサポートが終了しています。現在のところ、これらのポリシーを Windows OS-SPI で提供しておりますが、開発継続の予定はありません。

表 1-10 OS-SPI アプリケーションの対応表

OVO/UNIX 7.x での アプリケーション名	OS-SPI での アプリケーショングループ	OS-SPI での アプリケーション名
GlancePlus アプリケーショングループ		
Start gpm	Unix OS SPI\HP Performance Products\HP Glance	GPM (Motif)
Start glance		Glance (Ascii)
List Processes	Unix OS SPI\HP Performance Products\ Common Applications	List processes
List Versions		List Versions
Tail Status Files		Tail Status Files
Config ttd.conf		Configure ttd.conf
NT ツール アプリケーショングループ		
リブート取り消し	Windows OS SPI\Microsoft Windows Core\ システム	Cancel Shutdown
CPU 負荷		CPU Load
LM セッション		List Sessions
プロセス抹消		Kill Process
リブート		Shutdown
Reg ビューアー		Show Registry Key
サービス表示		List Services
サービス開始		Start Service
サービス停止		Stop Service
診断	Windows OS SPI\Microsoft Windows Core\ 情報	Get System Overview
導入済ソフトウェア		Installed Software
ジョブ状況		Job Status
ローカルユーザー		Local User
メモリーロード		Memory Information
PerfMon オブジェクト		Perfmon Objects
共有資源		Shares
サーバーの設定		Server Config
サーバー統計情報		Server Stats
ドライバ表示		Show Drivers
ユーザー表示		User List
使用中の共有資料	Used Shares	
ワークステーション統計情報	Workst Stats	

表 1-10 OS-SPI アプリケーションの対応表 (続き)

OVO/UNIX 7.x での アプリケーション名	OS-SPI での アプリケーショングループ	OS-SPI での アプリケーション名
NetBios セッション	Windows OS SPI\Microsoft Windows Core\ ネットワーキング	NetBios Sessions
TCP/IP 状態		Show TCP/IP Connections
OV Performance アプリケーショングループ		
Start Perf Agt	Unix OS SPI\HP Performance Products\HP OVPA	Start OVPA
Stop Perf Agt		Stop OVPA
Restart Perf Agt		Restart Perf Agt
Restart PA Servers		Restart PA Servers
Reactivate alarmdef		Reactivate alarmdef
Config parm		Configure parm
Check parm		Check parm
Config perflbd.rc		Configure perflbd.rc
Config alarmdef		Configure alarmdef
Check alarmdef		Check alarmdef
Start extract		Start extract
Start utility		Start utility
Config ttd.conf	Unix OS SPI\HP Performance Products\ Common Applications	Configure ttd.conf
List Versions		List Versions
Tail Status Files		Tail Status Files
List Processes		List Processes
Start pv	Unix OS SPI\HP Performance Products\HP OVPM	OVPM Console
Start pvalarmd		Start pvalarmd
Stop pvalarmd		Stop pvalarmd
ツール アプリケーション		
ディスク容量	すべてのプラットフォームの Admin グループと Operator グループの下の "OS Tools"	Disk Space
プロセス	すべてのプラットフォームの Admin グループと Operator グループの下の "OS Tools"	Processes
UN*X ツール アプリケーショングループ		
SMIT (AIX)	Unix OS SPI\AIX\AIX Admin Tools\OS Tools	SMIT (AIX)
ASCII SAM	Unix OS SPI\HPUX\HPUX Admin Tools\OS Tools	ASCII SAM
Motif SAM		Motif SAM

表 1-10 OS-SPI アプリケーションの対応表 (続き)

OVO/UNIX 7.x での アプリケーション名	OS-SPI での アプリケーショングループ	OS-SPI での アプリケーション名
印刷状況	すべてのプラットフォームの Admin グループと Operator グループの下の "OS Tools"	Print Status
VERITAS アプリケーショングループ		
VERITAS CSCM	Unix OS SPI\Veritas\Veritas Admin Tools	VERITAS CSCM
VERITAS VMSA		VERITAS VMSA

以下のアプリケーショングループは置き換えられて、廃止されました。

- GlancePlus
- Jovw
- OV Performance
- レポート
- VERITAS

廃止されたアプリケーショングループ内のアプリケーションの他に、以下のアプリケーションも廃止されました。

アプリケーション	ラベル
/Net Activity/Interface Statistics	: I/F 統計
/OV Services/OV CDP View	: CDP ビュー

以下のアプリケーションは、名前が変更され、改良されました。

アプリケーション	新しいラベル
/Net Config/Addresses	: アドレス (ノード) アドレス (インタフェース)
/Net Config/Routing Table	: ルーティング (ノード) ルーティング (インタフェース)
/Net Config/ARP Cache	: ARP キャッシュ (ノード) ARP キャッシュ (インタフェース)

HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit で変更された機能

本項では、HP OpenView Operations for UNIX Developer's Toolkit バージョン 7.1 から変更された既存の機能をリストします。

OVO 8 で変更されたサーバー API `opcapp_start()` 関数の動作

関数 `opcapp_start()` は VPO 6.0 から廃止されましたが、互換性のためだけに残されています。この関数ではなく、代わりに関数 `opcappl_start()` を使うようにしてください。このとき、関数名に 'l' の字が追加されている点に注意してください。

関数 `opcapp_start()` の動作が変更され、アプリケーションを実行する前に、ターゲットノードで実行ユーザー名とパスワードが強制的にチェックされるようになりました。これは、実行ユーザー名が変更されて、データベースに格納されているアプリケーションの実行ユーザー名と異なる可能性があるからです。OVO/UNIX 7.x 以前のバージョンではチェックは行なっていませんでしたが、セキュリティを強化するために変更されました。

この変更のために、新しい構成パラメータも追加されました。

`OPC_OMIT_PWD_CHECK_FOR_APP_START`

このパラメータに `TRUE` を設定すると、OVO/UNIX 8 よりも前の、セキュリティが強化されていない動作に戻ります。このように設定することは推奨しませんが、この設定を必要とするアプリケーションに対応できるようパラメータを実装しています。

`OPC_OMIT_PWD_CHECK_FOR_APP_START` パラメータの設定は、パラメータ設定を実際に必要とするアプリケーションのためだけに行ってください。これを行うには、以下のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc.<appl_name> -set OPC_OMIT_PWD_CHECK_FOR_APP_START TRUE
```

新しい統合アプリケーションの場合には特に、代わりに関数 `opcappl_start()` を使ってください。

アプリケーションを別のユーザーで実行する必要がない限り、一般的には、ユーザー名とパスワードの設定は不要です。`OPCDTYPE_APPL_CONFIG` 構造体に設定されている実行ユーザー名を変更していない限り、ターゲットノードでのアプリケーションの実行には、データベースで指定されている実行ユーザーが使用されます。実行ユーザー名を変更すると、ユーザーの確認が行われ、パスワードの指定も必要になります。

サポートが中止された機能

本項では、OVO のこのリリースでサポートが中止された機能をリストします。

□ サポートが中止された管理サーバーのプラットフォーム

- HP-UX 10.20
- Sun Solaris 7

□ サポートが中止された OVO A.07.x DCE エージェントのプラットフォーム

- HP-UX 10.20
- Linux カーネル 2.2 のすべての派生製品
- Novell NetWare 4.x
- Tru64 UNIX 4.0x (4.0 F/G を除く)
- Microsoft Windows NT 4.0

□ サポートが中止された Java UI のプラットフォーム

- HP-UX 10.20
- Sun Solaris 7
- Microsoft Windows NT と Windows 98

□ C-2 セキュリティ

OVO は C-2 のガイドラインに準拠していると認証されていません。OVO のセキュリティ機能の概要については、『OVO システム管理リファレンスガイド』の第 12 章「OVO のセキュリティ」を参照してください。

注記 OVO A.08.10 は、現在、共通基準の EAL-2 を取得するために NIAP の審査を受けています。2005 年 10 月に認証が得られる予定です。詳細は、下記の URL を参照してください。

http://niap.nist.gov/cc-scheme/in_evaluation.html

□ 設定ファイル opcinfo と nodeinfo

OVO HTTPS エージェントは、設定ファイル opcinfo と nodeinfo を使わなくなりました。ローカル HTTPS エージェントの構成は、新しい OpenView 基本コンポーネント ovconfget(1) と ovconfchg(1) を使って行なわれます。詳細は、『HP OpenView Operations HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

□ opcsvinfo 設定ファイル

OVO 管理サーバーは、opcsvinfo 設定ファイルを使わなくなりました。管理サーバーの構成は、新しい OpenView 基本コンポーネント ovconfget(1) と ovconfchg(1) を使って行なわれます。

❑ **opcerror**

OVO では、OpenView の共通ロギング機能を使うようになりました。そのため、エラー情報は opcerror ファイルではなく、\$OvDataDir/log/System.bin (バイナリ形式) と \$OvDataDir/log/System.txt (ASCII テキスト形式) ログファイルに記録されるようになっています。この場所は、HTTPS エージェントと管理サーバーで共通です。詳細は、ovlogdump(1) のマンページを参照してください。

❑ **OV Advanced Security**

OV Advanced Security (OVAS) は、OVO のこのバージョンでは提供されません。

OVO/UNIX 7.1 から移行する前に、Java UI とすべての DCE エージェントに対して OVAS 機能を完全に無効化する必要があります。

❑ **opcdbreorg**

Oracle データベースの保守プログラム opcdbreorg は不要になりました。Database Extend Management が local になったためです。

❑ **Windows の HTTPS エージェントへ接続するための仮想ターミナルアプリケーション**

HTTPS Windows 管理対象ノードへ接続するための標準の仮想ターミナルアプリケーションは、OVO/UNIX には付属していません。

このような接続を行なうために設計された他社製のアプリケーションがいくつかあります。

まだサポートされない機能

□ HTTPS エージェントのプラットフォーム

以下のプラットフォーム向け HTTPS エージェントは現在開発中です。また、その提供予定時期は次のとおりです。

Tru64 バージョン 5.0、5.1、5.1A、5.1B - 2005 年 第 3 四半期、TruCluster のサポート - 2005 年 第 4 四半期

□ UTF8 文字セット

OVO/UNIX 8 は、UTF8 を OVO 管理サーバーと Oracle データベースで使うことができる文字セットとしてサポートしません。サポートしているエンコーディングと文字セットを 58 ページの表 2-3 「認定エンコーディングとキャラクタセット」に示します。

□ OVO 管理サーバー間の HTTPS 通信

複数の OVO/UNIX 8 管理サーバー間でのメッセージやデータの通信は、現時点では、DCE RPC をベースにしています。OVO/UNIX 管理サーバー間の HTTPS 通信は 2006 年上半期にリリース予定です。

□ ユーザー定義の認証局

OVO/UNIX は、外部の認証局やカスタマイズした認証局をサポートしません。

□ MoM 環境での OVO 管理サーバー間のメッセージ属性の同期処理

現状では、OVO メッセージ属性（たとえば、メッセージの重要度、メッセージテキスト、カスタムメッセージ属性）が変わった場合に、他の OVO 管理サーバーとの同期は行われていません。

□ ホスト名の最大長は 256 文字

OVO/UNIX では 256 文字より長いホスト名には未対応です。

サポートされない機能

□ ユーザー/パスワード認証方式を使う HTTP プロキシ

代わりに以下の方法のいずれかを使用できます。

- HTTP プロキシは、特定の IP アドレスまたはドメイン範囲から特定のデスティネーションポートへの権限のないリクエストを許可する必要があります。
- HTTP プロキシを追加して、OVO アプリケーションからの権限のないリクエストを許可し、ユーザー/パスワード情報をメインの HTTP プロキシに引き継ぐ必要があります。

□ フェイルオーバー、フォールバック、および HTTPS プロキシ

OVO は、1 つの HTTPS エージェントに対して 1 つの HTTP プロキシしかサポートしませんが、HTTPS エージェントごとに異なる HTTP プロキシを指定することが可能です。

□ system 以外のアカウントでの HTTPS Windows エージェントの実行

ovswitchuser コマンドは、Windows 用の HTTPS エージェントではサポートされません。Windows 用の HTTPS エージェントは、SYSTEM アカウントで実行する必要があります。唯一の例外は、インストールサーバーとして使われる管理対象ノードです。

□ HTTPS エージェントから DCE エージェントへの変換

通常は、OVO 8 HTTPS エージェントを DCE エージェントに直接変換することはできません。HTTPS エージェントを完全に削除してから、新しく DCE エージェントをインストールする必要があります。

なお、最も一般的なインストール方法である、Motif の管理者用 GUI を使ったエージェントのインストールでは、HTTPS エージェントのインストール前に自動的に DCE エージェントを削除するようになっています。

次回の OVO メジャーリリースでのサポート中止予定

以下の機能は、次回の OVO のメジャーリリースでサポートが中止される予定です。
次回のメジャーリリースは、2005 年下半期を予定しています。

注記 当社はお客様からのフィードバックを歓迎いたします。本項にリストされた機能を、次回のメジャーリリースでも当社が継続してサポートすることを望まれる場合は、当社の営業またはサポート担当までご連絡ください。

❑ 管理サーバーのプラットフォーム

以下の管理サーバーのバージョンのサポート中止を予定しています。

- HP-UX 11.0、11.11 (HP-UX 11.23 と 11.31 はサポートする予定)
- Sun Solaris 8 (Solaris 9 と 10 はサポートする予定)

❑ 管理対象ノードのプラットフォーム

すべての DCE ベースと NCS ベースの OVO A.07.x エージェントのサポート中止を予定しています。

❑ Java UI

Java UI は、以下のプラットフォームでは、サポートを中止する予定です。

- HP-UX 11.0 と 11.11
- Sun Solaris 8
- Windows 2000

❑ Motif Operator UI

Motif Operator UI は、OVO の次のリリース向けに開発と拡張を行いません。これは、新機能が Java UI にのみ実装されることを意味します。Motif Operator UI は保守体制に入り、OVO の将来のリリースでサポートが中止される可能性があります。

❑ 従来の OVO エージェントとの下位互換性

次の OVO メジャーリリースでは、DCE A.07.x エージェントの下位互換性がサポートされない可能性があります。A.08.x HTTPS エージェントのみがサポートされます。

❑ OVO DCE と HTTPS の互換ラッパー

HTTPS エージェント用の DCE 互換ラッパーのサポート中止を計画しています。これには、以下が含まれます。

- opcagt (ovc で置き換える予定)
- opctemplate (ovpolicy で置き換える予定)

また、opcdeploy などの、OVO 管理サーバー用のラッパーのサポート中止も予定しています。

□ その他

以下の廃止を予定しています。

- インストールメディアとしての *CD-ROM*

次の OVO メジャーリリースは、インストールメディアとして CD-ROM ではなく、DVD (Digital Versatile Disk) を使って出荷する予定です。

- 式 *<S>* と *<nS>*

テンプレートで使われているパターンマッチ用の式 *<S>* と *<nS>* は、将来のリリースでは廃止を予定しています。

このバージョンの概要

次回の OVO メジャーリリースでのサポート中止予定

2 管理サーバーと Java UI のインストール要件

管理サーバーのハードウェアとソフトウェアの要件

OVO をインストールする前に、管理サーバーとして使用するシステムが『OVO 管理サーバー インストールガイド』の第 1 章にリストされているハードウェアとソフトウェアの要件を満たしていることを確認してください。特に、インストールが必要なソフトウェアパッケージとオペレーティングシステムのパッチがすべてインストールされていることを確認してください。

表 2-1 最新の OVO/UNIX 管理サーバーパッチ

パッチ名称	HP-UX 上の OVO	Solaris 上の OVO
統合サーバー A.08.14	PHSS_33579	ITOSOL_00447

インストール要件についての詳細は、使用しているオペレーティングシステムのバージョンに対応した OVO/UNIX インストール要件の情報ファイルを参照してください。インストール要件の情報ファイルは、OVO/UNIX CD1 の Required_OS_Patch_Lists ディレクトリに格納されています。

注記 HP-UX 11.23 PA-RISC 用の ovo.info.HP-UX.B.11.23.txt ファイルの場所は、11 ページの「HP-UX 11.23 PA-RISC システムへの OVO/UNIX 8.1x のインストール」を参照してください。

HP-UX 11.0 の場合 ovo.info.HP-UX.B.11.00.txt

HP-UX 11.11 の場合 ovo.info.HP-UX.B.11.11.txt

注記 Oracle 10g や NNM 7.5 を使用する場合には、上記以外にも要件があります。Oracle 10g と NNM 7.5 のインストールマニュアルも参照してください。

OVO/UNIX のインストール方法の詳細は、『OVO 管理サーバー インストールガイド』の第 2 章を参照してください。既知の問題と回避策については、本書の第 7 章「既知の問題と回避策」を参照してください。

注記 OVO/UNIX は、HP-UX ハードパーティション (nPartitions) や仮想パーティション (vPars) へのインストールをサポートしていません。HP は近い将来に HP-UX パーティションで OVO/UNIX をサポートするよう取り組んでいます。

以下の readme ファイルに、OVO/UNIX メディア CD の内容と、製品およびマニュアルが格納されている場所についての説明があります。

/READMEHPUX_PA-RISC.txt

/READMEHPUX__PA-RISC_Jpn.txt

警告 OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO/UNIX 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO/UNIX 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

警告 /etc/MANPATH ファイルを編集して、MANPATH 変数に以下の OVO ディレクトリを追加してください。

/opt/OV/man/

注記 管理サーバー上で PATH 変数に以下の OVO/UNIX ディレクトリを設定しておく作業がはかどります。

/opt/OV/bin、/opt/OV/bin/OpC、/opt/OV/bin/Perl/bin、/opt/OV/bin/OpC/utills

注記 OVO/UNIX を日本語環境にインストールする場合でも、ベースとなる Network Node Manager と UNIX OS-SPI のインストールダイアログは英語で表示されます。

重要 HTTPS Java GUI を使用される場合は、OVO/UNIX A.08.14 サーバーパッチで提供される新機能を使用するために、OVO/UNIX のインストール後、opcuihttps ファイルを、/opt/OV/contrib/OpC/ から /opt/OV/bin/OpC/ へ必ずコピーしてください。

高可用性環境

表 2-2 に、OVO/UNIX 管理サーバーがサポートする高可用性環境を示します。

表 2-2 サポートされている高可用性環境

管理サーバーのプラットフォーム	高可用性アプリケーション	サポートされているバージョン
HP-UX 11.00、11.11	MC/Service Guard	11.14、11.15、および 11.16
	Veritas Cluster	3.5
HP-UX 11.23 PA-RISC	MC/Service Guard	11.16
Solaris	Sun Cluster	3.0 および 3.1
	Veritas Cluster	3.5 および 4.0

OVO 8 HTTPS エージェントも 7.x DCE エージェントも、高可用性環境で動作することも高可用性環境を管理することもできます。

OVO/UNIX 管理サーバー上の認定エンコーディングとキャラクタセット

表 2-3 に、OVO/UNIX 管理サーバーと Oracle データベースのホストシステムに設定する必要がある認定エンコーディングとキャラクタセットの詳細を示します。

表 2-3 認定エンコーディングとキャラクタセット

言語変数/キャラクタセット	エンコーディング OVO/UNIX ノードの キャラクタセット	HP-UX 言語変数 LANG	Solaris の言語変数 LANG と LC_ALL	Oracle データベースの コードセット NLS_LANG
英語	ISO-885915	C、 en_US.iso88591、 en_US.iso885915@euro、 en_GB.iso88591、 en_US.iso885915@euro	C、 en_US.iso88591、 en_US.iso885915@euro、 en_GB.iso88591、 en_US.iso885915@euro	WE8ISO8859P15
スペイン語	ISO-885915	es_ES.iso885915@euro	es_ES.iso885915-euro	WE8ISO8859P15
日本語	Shift-Jis	ja_JP.SJIS	ja_JP.PCK	JA16SJIS
韓国語	EUC	ko_KR.eucKR	ko、 korean、 ko_KR.EUC	KO16KSC5601
簡体字中国語	GB2312	zh_CN.hp15CN	zh、zh_CN.EUC	ZHS16CGB231280
繁体字中国語	BIG5	zh_TW.big5	zh_TW.BIG5	ZHT16BIG5

ドイツ語やフランス語など、他のロケールもサポートされています。

Java UI をサポートしているプラットフォーム

表 2-4 最新の JavaGUI クライアントパッチ

パッチ名称	HP-UX 上の OVO	Solaris 上の OVO
JavaGUI クライアント A.08.14	PHSS_33627	ITOSOL_00451

OVO/UNIX には、すべての MS Windows プラットフォーム用の JRE 1.4.2_09 がバンドルされています。

他のすべてのプラットフォームについては、必要な Java Runtime バージョンを入手する必要があります。

表 2-5 サポートマトリックス - Java UI

Java Runtime	タイプ	Linux Red Hat 9.0	Windows 2000	Windows 2003	Windows XP	HP-UX 11.0、11.11、11.23 (PA-RISC)	Solaris 8、9、10	MacOs
JRE 1.4.2_09	アプリケーション	○ ¹	○	○	○	○	○	○
JRE Plug-in 1.4.2_09	Internet Explorer 5.5、6	N/A	○	○	○	N/A	N/A	N/A
JRE Plug-in 1.4.2_09	Safari 1.2.3	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	○
	Netscape Navigator	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
JRE Plug-in 1.4.2_09	Mozilla 1.7	○ ¹	○	○	○	○	○	○

1. Sun の JRE

クラスタ対応のサポート状況

表 2-6 クラスタ機能をサポートしているプラットフォーム

クラスタ機能をサポートしている プラットフォーム	エージェント ¹	サーバー ²	
		HP-UX 11.00/11.11	HP-UX 11.23 PARISC
MC/SG			
11.13	DCE エージェントのみ		
11.14	○	○	
11.15	○	○	
11.16	○	○	○
Sun Cluster			
3.0	○		
3.1	○		
Veritas Cluster Server			
2.0	○		
3.5	○	○	
4.0			
4.1	2005 年 12 月 予定		
Microsoft Cluster			
2000	○		
2003	DCE エージェントのみ		
Red Hat Enterprise Linux			
AS 2.1	○		
AS 3.0	○		

1. クラスタを構成している各物理ノードでエージェントを実行します。
2. OVO 管理サーバーはパッケージとして切り替え可能です。

3 HTTPS エージェントのインストール要件

本章では、HTTPS エージェントの前提条件となる次の要件について説明します。

- HTTPS エージェントのハードウェア要件
- HTTPS エージェントのソフトウェア要件

OVO をインストールする前に、HTTPS 管理対象ノードのプラットフォームとして適切なハードウェアが用意されていることを確認してください。ハードウェア要件の詳細は、63 ページの「HTTPS エージェントのハードウェア要件」を参照してください。

OVO をインストールする前に、HTTPS 管理対象ノードのプラットフォームとして適切なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。ソフトウェア要件の詳細は、以下の表で説明します。

- 64 ページの「HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア要件」
- 66 ページの「Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア要件」
- 68 ページの「Linux HTTPS エージェントのソフトウェア要件」
- 70 ページの「Microsoft Windows HTTPS エージェントのソフトウェア要件」
- 71 ページの「AIX HTTPS エージェントのソフトウェア要件」

HTTPS エージェントをサポートしているプラットフォーム

OVO 8 で新しい HTTPS エージェントソフトウェアが利用できるようになり、OVO 管理サーバーと以下の管理対象ノードとの間の通信の安全性が飛躍的に高まりました。

表 3-1 OVO Media Kit に付属の OVO 8 HTTPS エージェントのバージョンと最新バージョン

管理対象ノードの プラットフォーム	HTTPS エージェントのバージョン							
	Core Agent		EventAction		組み込み パフォーマンス		OVO Accessories	
	OVO 8.10 CD	最新	OVO 8.10 CD	最新	OVO 8.10 CD	最新	OVO 8.10 CD	最新
PA-RISC 版 HP-UX 11.0、11.11、 11.23	A.08.10	A.08.12	A.08.10	A.08.13	A.08.10	A.08.10	A.08.10	A.08.11
Itanium IA64 版 HP-UX 11.22、11.23	A.08.10	A.08.12	A.08.10	A.08.13	A.08.10	A.08.10	A.08.10	A.08.11
Solaris 8、9、10	A.08.10	A.08.12	A.08.10	A.08.13	A.08.10	A.08.10	A.08.10	A.08.11
Microsoft Windows 2000、XP Professional、 Server 2003	A.08.10	A.08.12	A.08.10	A.08.13	A.08.10	A.08.10	A.08.10	A.08.11
Linux (カーネル 2.4) 表 3-4 を参照	A.08.10	A.08.12	A.08.10	A.08.13	A.08.10	A.08.10	A.08.10	A.08.11
IBM AIX 5.1、5.2、5.3	N/A	A.08.12	N/A	A.08.12	N/A	A.08.10	A.08.10	A.08.11

注記 Tru64 用 HTTPS エージェントが利用可能になりました。
 Linux kernel 2.6 のサポートは 2005 年第 4 四半期を予定しています。

注記 エージェントの最新バージョンは、次の Web サイトから得られます。
<http://openview.hp.com/sso/ecare/getsupportdoc?docid=OVO-PATCHES>

HTTPS エージェントのハードウェア要件

OVO をインストールする前に、管理対象ノードで使用するオペレーティングシステムが以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

ディスク容量

最大 100 MB (プラットフォームによって異なります)。

(ソフトウェアの初期インストール時には、最大で 200 MB 必要です。)

HTTPS エージェントのソフトウェア要件

OVO をインストールする前に、HTTPS 管理対象ノードのプラットフォームに適切なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。要件の詳細は以下の表にまとめてあります。

- 64 ページの表 3-2 「HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ」
- 66 ページの表 3-3 「Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ」
- 68 ページの表 3-4 「Linux HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ」
- 70 ページの表 3-5 「Microsoft Windows HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ」
- 71 ページの表 3-6 「AIX HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ」

HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア要件

表 3-2 HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

サポートされている HP-UX プラットフォーム <ul style="list-style-type: none"> PA-RISC 版 HP-UX の場合 : 11.0、11.11、11.23 Itanium IA64 版 HP-UX の場合 : 11.23 	
必要なソフトウェア <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> インターネットサービス SD パッケージ : InternetSrvcs.INETSRVCS-RUN <input type="checkbox"/> LAN/9000 SD パッケージ : Networking.NET-RUN <input type="checkbox"/> MIB モニタリング用の SNMP エージェント (オプション) HP-UX 11.x 以降用の SD パッケージ : OVSNMPAgent <input type="checkbox"/> 母国語サポート (NLS) パッケージ (オプション) SD パッケージ : OS-Core.NLS-AUX <input type="checkbox"/> MIB-I または MIB II OVO の MIB モニタリング機能には、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。 	
カーネルの設定 特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。	
サポートされている高可用性環境 <ul style="list-style-type: none"> MC/ServiceGuard 11.14、11.15、11.16 Veritas Cluster 3.5 	
オペレーティングシステムのパッチ	
HP-UX 11.0 PA-RISC の場合	
HWE1100	Hardware Enablement と Critical Patch バージョン B.11.00.0303.4 (2003 年 3 月版) 以降
QPK1100	Quality Pack for HP-UX 11.0 バージョン B.11.00.60.4 (2003 年 3 月版) 以降
PHSS_26945	HP aC++ -AA ランタイムライブラリ (aCC A.03.37)
PHSS_28869	ld(1) と linker ツールの累積パッチ
PHCO_28425	libc の累積パッチ

表 3-2 HP-UX HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

PHCO_29108	pthread ライブラリの累積パッチ
PHCO_28505	管理対象ノードを NIS で制御する場合にだけ必要です。
PHCO_28482	tbl(1) の累積パッチ (マンページのフォーマットに問題がある場合にだけ必要)
HP-UX 11.11 PA-RISC の場合	
HWEnable11i	Hardware Enablement バージョン B.11.11.0306.4 (2003 年 6 月版) 以降
GOLDBASE11i	Gold Base Patch for HP-UX 11.i バージョン B.11.11.0306.4 (2003 年 6 月版) 以降
PHSS_26946	HP aC++ -AA ランタイムライブラリ (aCC A.03.37)
PHSS_28871	ld(1) と linker ツールの累積パッチ
PHNE_28568	s700_800 11.11 ONC/NFS の一般リリース / パフォーマンスパッチ
PHCO_27950	tbl(1) の累積パッチ (マンページのフォーマットに問題がある場合にだけ必要)
HP-UX 11.23 IA64 の場合	
HP-UX 11.23 用の OVO HTTPS エージェントは、IA64 ではネイティブの 32 ビットアプリケーションとして動作します。64 ビットの API は用意されていません。	
PHSS_31086	libunwind ライブラリの累積パッチ

Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア要件

表 3-3 Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

<p>サポートされている Solaris SPARC プラットフォーム</p> <p>Solaris 8、9、10</p>
<p>Sun Solaris に必要なソフトウェア</p> <p>□ MIB</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、HP OpenView プラットフォームの <code>snmpd</code>、あるいは、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p> <p>□ MIB-I または MIB II</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p>
<p>カーネルの設定</p> <p>Solaris 8 には、特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。</p> <p>Solaris 9 では、少なくとも以下のカーネルパラメータを設定してください。</p> <pre>semsys:seminfo_semmni=30 semsys:seminfo_semmns=200 semsys:seminfo_semmsl=100</pre>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <ul style="list-style-type: none">• Sun Cluster 3.0、3.1• Veritas Cluster 3.5

表 3-3 Solaris HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

オペレーティングシステムのパッチ	
Solaris 8 の場合	
108434-13	SunOS 5.8: C++ 用 32 ビット共有ライブラリのパッチ
108528-23	SunOS 5.8: カーネルアップデートパッチ
108993-25	SunOS 5.8: LDAP2 クライアント、libc、libthread、および libnsl ライブラリのパッチ
109147-25	SunOS 5.8: Linker のパッチ
111293-04	SunOS 5.8: /usr/lib/libdevinfo.so.1
Solaris 9 の場合 パッチは不要です。	
Solaris 10 の場合 パッチは不要です。	

Linux HTTPS エージェントのソフトウェア要件

表 3-4 Linux HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

<p>サポートされている Linux (Intel x86 版) プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none">• Debian: 3.0、3.0r1、3.0r2• Mandrake 9.2• RedFlag Professional Server 4.0• Red Hat: 8.0、9、RHEL-AS/ES/WS 2.1、3、3 U3 (AMD64/EM64T)• SuSE: 8.0、8.1、8.2、9、SuSE 9.1 (x86)、SUSE Enterprise Server 8• Turbolinux 8 Server、Turbolinux Enterprise Server 8 (日本語環境のみ) <p>サポートされているディストリビューションバージョンには、パッチは不要です。</p>
<p>Linux に必要なソフトウェア</p> <p><input type="checkbox"/> Red Hat Package Manager (RPM)</p> <p>Debian システムにインストールする必要があります。</p> <p><input type="checkbox"/> SNMP デーモン (オプション)</p> <p>ソフトウェアを OVO 管理サーバーからリモートでインストールする場合は、SNMP デーモン (snmpd) を起動しておく必要があります。これによって、OVO 管理サーバーが、Linux 管理対象ノードのノードタイプを自動的に判断できるようになります。MIB 変数のモニタリングを行う場合にも、SNMP デーモンを起動しておく必要があります。</p> <p><input type="checkbox"/> MIB-I または MIB II</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p>
<p>カーネルの設定</p> <p>特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。</p>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux - Advanced Server 2.1 / 3.0

表 3-4 Linux HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

<p>サポートされているカーネル / libs: カーネル: 2.4</p> <p>Red Hat 9.0 には、glibc バージョン 2.3.2 以降が必要です。</p> <p>セキュリティや機能のアップデートを目的としたディストリビューションバージョン固有のカーネルアップデートは、カーネルのメジャーバージョンが同じである場合に限り、ディストリビューション Web サイトからインストールしても構いません。</p> <p>ディストリビューションバージョン固有の glibc アップデートは、glibc のメジャーバージョンが同じである場合に限り、ディストリビューションサイトからインストールしても構いません。</p> <p>Red Hat Advanced Server Linux (Red Hat Enterprise Linux AS/ES/WS) のカーネルと glibc については、Red Hat が Advanced Server 用として認証しておらずサポートも行っていないバージョンにアップデートすることはサポートされていません。</p> <p>カーネルの設定</p> <p>特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。</p>
<p>RH AS/ES/WS 3.0 の場合</p> <p>RPM データベースの問題に対応した RPM パッケージのアップデートバージョン (rpm-4.2.1-4.4.i386.rpm 以降) をインストールしておく必要があります。</p> <p>また、root ユーザー用に、環境変数 RPM_FORCE_NPTL を設定しておく必要があります。</p> <p>詳細は、次のドキュメントを参照してください。</p> <p>https://rhn.redhat.com/errata/RHEA-2004-010.html</p>

Microsoft Windows HTTPS エージェントのソフトウェア要件

表 3-5 Microsoft Windows HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

<p>サポートされている Microsoft Windows (Intel x86 版) プラットフォーム</p> <p>Windows 2000 (SP3 ~ SP6 を含む)</p> <p>XP Professional (SP1 と SP2 を含む)</p> <p>2003 Server (SP1 を含む)</p>	
<p>ソフトウェア要件</p> <p>□ FTP</p> <p>FTP サービスを起動しておく必要があります (FTP からエージェントパッケージをインストールする時に必要になります)。また、FTP のホームディレクトリは、FTP サービスから読み書きできるようにパーミッションを設定しておく必要があります。ただし、Administrator アカウントを使って FTP サービスを提供している場合は、anonymous FTP アクセスを許可しないように設定する必要があります。</p> <p>□ SNMP サービス</p> <p>OVO の検出機能やその他の SNMP 機能を使う予定があれば、SNMP サービスを起動しておく必要があります。</p> <p>□ MIB-I または MIB II</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p>	
<p>サポートされている高可用性環境</p> <ul style="list-style-type: none"> MS Cluster Server 	
<p>オペレーティングシステムのパッチ</p>	
<p>Windows 2000 の場合</p>	
Service Pack	Service Pack 3 以降をサポートしている Service Pack
msvcp60.dll	Microsoft の他の製品によってすでにインストールされていることがよくあります。インストールされていない場合は、MS インストール CD の support/tools セクションからこの DLL をインストールしてください。
<p>Windows XP Professional の場合</p> <p>パッチは不要です。</p>	
<p>Windows Server 2003 の場合</p> <p>パッチは不要です。</p>	

AIX HTTPS エージェントのソフトウェア要件

表 3-6 AIX HTTPS エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

サポートされている AIX プラットフォーム	
<ul style="list-style-type: none"> AIX: 5.1、5.2、5.3 (英語ロケールと日本語ロケール) 	
制限事項	
AIX5.3 OS が 64 ビットカーネルで動作している POWER 5 ハードウェアまたは HACMP クラスタ構成になっている場合はサポートしません。	
必要なソフトウェア	
OVO 8.1 管理サーバーから AIX エージェントをインストールするには、管理サーバーで、デポと一緒に提供された下記のファイルを入れ替える必要があります。	
ソースファイル名 : opcxinst_bbc.hpux	
ターゲットファイル名 : opcxinst_bbc	
次のコマンドを実行します。	
<code>cp opcxinst_bbc.hpux /opt/OV/bin/OpC/agtinstall/opcxinst_bbc</code>	
カーネルの設定	
特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。	
サポートされている高可用性環境	
なし	
OS-SPI サポート	
必要なパッチ	PHSS_33106
オペレーティングシステムのパッチ	
AIX 5.1 の場合	
パッチレベル 7	
AIX 5.2 の場合	
パッチレベル 4	
AIX 5.3 の場合	
パッチレベル 0	

HTTPS エージェントのインストール要件
AIX HTTPS エージェントのソフトウェア要件

4 DCE エージェントのインストール要件

本章では、OVO 7 DCE エージェントの前提条件となる次の要件について説明します。

- DCE エージェントのハードウェア要件
- DCE エージェントのソフトウェア要件

OVO をインストールする前に、DCE¹ 管理対象ノードのプラットフォームとして適切なハードウェアが用意されていることを確認してください。ハードウェア要件の詳細は、76 ページの「DCE エージェントのハードウェア要件」を参照してください。

OVO をインストールする前に、DCE 管理対象ノードのプラットフォームとして適切なソフトウェアがインストールされていることを確認してください。ソフトウェア要件の詳細は、以下の表にまとめてあります。

- 78 ページの「HP-UX PA-RISC DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 80 ページの「HP-UX Itanium DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 81 ページの「Solaris DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 84 ページの「Linux DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 87 ページの「Microsoft Windows DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 92 ページの「AIX DCE エージェントのソフトウェア要件」
- 94 ページの「Tru64 UNIX DCE エージェントのソフトウェア要件」

1. 本書では、OVO 7.x エージェントを DCE エージェントと呼びます。これは、以下のプロトコルを使うエージェントを含む、HTTPS エージェント以外のすべての OVO エージェントのことを指します。

- 分散コンピューティング環境 (DCE)
- ネットワークコンピューティングシステム (NCS)
- SunRPC

DCE エージェントのバージョン

警告 OVO/UNIX 7.1 管理サーバーに DCE エージェントの新しいパッチレベルをすでにインストールしている場合は、OVO/UNIX 8 Media Kit に付属している DCE エージェントパッケージをインストールしないでください。

OVO/UNIX 8 へアップグレードする場合は、OVO/UNIX 7.1 にインストールされていた DCE エージェントが、OVO/UNIX 8 に付属しているバージョンよりも前のバージョンかどうかに関係なく、そのまま残されます。

OVO/UNIX 8 Media Kit に付属のものより新しい OVO 7.x DCE エージェントパッチが入手可能です。最新のパッチを入手するには、後述する URL を参照してください。

注記 OVO/UNIX 7.x と OVO/UNIX 8 の管理サーバーには、「同じ」OVO 7.x DCE エージェント用パッチをインストールすることができます。

OVO/UNIX 7.10 からアップグレードした場合でない限り、Software Distributor の Installed Products Database に DCE エージェントの実際のバージョン (パッチレベル) は記録されていません。そのため、エージェントにインストールされていたものよりバージョンの古いパッチをインストールしてダウングレードすることがないように、注意してください。インストールされているバージョンは、`opcversion -a` コマンドで表示できます。

エージェントコンポーネントの最新のパッチは、次の Web サイトから入手できます。Web サイトの情報を参考にして、エージェントの最新のパッチレベルを入手するようにしてください。

<http://openview.hp.com/sso/ecare/getsupportdoc?docid=OVO-PATCHES>

OVO/UNIX 8.1 に付属している DCE エージェントのバージョン (パッチレベル) と現時点で入手可能な最新のパッチレベルを、75 ページの表 4-1 「OVO 8.1 HP-UX Media Kit に付属の OVO 7 DCE エージェントのバージョンと 最新バージョン」に示します。

システムに現在インストールされている DCE エージェントのバージョンは、OVO 管理サーバー上で `opcversion` ユーティリティを使って調べることができます。

例:

```
/opt/OV/bin/OpC/agtinstall/opcversion -a
```

出力は次のような形式で表示されます。

```
dec/alpha/unix51A+:  
A.07.10V5.1, P5.1, 5.1  
opc_version: A.07.23  
comm_version: 2.6.5.0  
perf_version: A.07.21
```

```
hp/ia64/hp-ux11_32:  
A.07.10 11.22, 11.23  
opc_version: A.07.23  
comm_version: 2.6.5.0  
perf_version: A.07.21
```

注記 opcversion -a コマンドは、LINUX 管理対象ノード上では正常に動作しません。次のコマンドを使えば、プラットフォームの種類に関係なくエージェントのバージョンを調べることができます。

```
opcragt -agent_version <node_name>
```

表 4-1 OVO 8.1 HP-UX Media Kit に付属の OVO 7 DCE エージェントのバージョンと最新バージョン

管理対象ノードの プラットフォーム	DCE エージェントのバージョン					
	メッセージ /アクション		通信		組み込み パフォーマンス	
	OVO 8.1 CD	最新	OVO 8.1 CD	最新	OVO 8.1 CD	最新
PA-RISC 版 HP-UX 11.0、11.11、11.23	A.07.25	A.07.28.1	A.07.14 2.6.5.0	A.07.16	A.07.21	A.07.27
Itanium IA64 版 HP-UX 11.22、11.23	A.07.25	A.07.28	A.07.14 2.6.5.0	A.07.17	A.07.21	A.07.27
Solaris 2.6、7、8、9	A.07.25	A.07.31	A.07.14 2.6.5.0	A.07.17	A.07.21	A.07.27
Microsoft Windows 2000、 XP Professional、Server 2003	A.07.25	A.07.30	A.07.13 2.6.4.0	A.07.17	A.07.21	A.07.27
Linux (カーネル 2.4) 表 4-8 を参照	A.07.25	A.07.31	A.07.14 2.6.5.0	A.07.16	A.07.21	A.07.27
IBM AIX 4.3.1、4.3.2、4.3.3、5.1、5.2、 5.3	A.07.25	A.07.29	A.07.14 2.6.5.0	A.07.17	A.07.21	A.07.27
Tru64 Tru64 4.0F、4.0G、5.1A、5.1B	A.07.23	A.07.29	A.07.14 2.6.5.0	A.07.17	A.07.21	A.07.27
OpenVMS for Alpha	該当なし	A.07.23	該当なし			
OpenVMS for Integrity	該当なし	A.07.23	該当なし			

DCE エージェントのハードウェア要件

OVO DCE エージェントをインストールする前に、管理対象ノードとして使用するシステムが以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

表 4-2 OVO DCE エージェントに必要なディスク容量

プラットフォーム	必要なディスク容量 ¹
PA-RISC 版 HP-UX	28 MB
Itanium 版 HP-UX	47 MB
Sun Solaris (SPARC)	65 MB <ul style="list-style-type: none">• NCS - 10 MB• DCE - 20 MB— OVO エージェント用に 10 MB— HP Lightweight DCE ソフトウェア用に 10 MB
Linux	33 MB
Microsoft Windows インストールサーバー	ローカルドライブ インストール時には、FTP ディレクトリが含まれているドライブに、35 MB の空きディスク容量が一時的に必要になります。 NTFS ディスク NTFS フォーマットのディスクに、合計で 65 MB の空きディスク容量が必要です。 <ul style="list-style-type: none">• エージェントファイルのインストール用に 50 MB• 管理対象ノードに転送されるエージェントパッケージ用に 15 MB
Microsoft Windows 管理対象ノード	ローカルドライブ インストール時には、FTP ディレクトリが含まれているドライブに、35 MB の空きディスク容量が一時的に必要になります。 NTFS ディスク エージェントファイルのインストールに、NTFS フォーマットの最初のディスク (通常は、c:¥) に、50 MB の空きディスク容量が必要です。
AIX	60 MB
Tru64 UNIX	35 MB TruCluster システムの場合は、各ノードにこのディスク容量が必要です。

1. ソフトウェアのインストール時には、ここに示したディスク容量の約 2 倍の容量が必要です。

表 4-3 OVO DCE エージェントが必要とする追加 RAM

プラットフォーム	必要な追加 RAM
Linux	20 MB
Microsoft Windows	15 MB

表 4-4 管理対象ノードで重要なカーネルパラメータ

パラメータ	説明	最小値
<i>nfile</i>	オープンファイルの最大数	20 ¹
<i>semms</i>	必要なセマフォの数	20
<i>shmmax</i>	共有メモリーの最大値	不要
<i>msgmni</i>	メッセージキューの数	不要
<i>nfilelocks</i>	ファイルロックの数	10

- この数値はいくつかの要因によって変わります。通常はプロセスごとに「20」で十分です。しかし、ログファイルエンキャプスレータによって多くのログファイルが設定されていると、その分だけ多くのファイル記述子が必要になります。通常は1つのログファイルに1つのファイル記述子が必要ですが、管理対象ノードでプロセスが起動されるアクションでは、ファイル記述子を追加する必要があります。

HP-UX PA-RISC DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-5 HP-UX PA-RISC DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

サポートされている HP-UX プラットフォーム	
HP-UX 11.0、11.11、11.23、11.23PI	
HP-UX に必要なソフトウェア	
<input type="checkbox"/> インターネットサービス SD パッケージ: InternetSrvcs.INETSRVCS-RUN	
<input type="checkbox"/> LAN/9000 SD パッケージ: Networking.NET-RUN	
<input type="checkbox"/> 母国語サポート (NLS) パッケージ (オプション) SD パッケージ: OS-Core.NLS-AUX	
<input type="checkbox"/> MIB モニタリング用の SNMP エージェント (HP-UX 11.0 と 11.11 にだけ必要) HP-UX 11.x 以降用の SD パッケージ: OVSNMPIAgent	
<input type="checkbox"/> DCE/9000 カーネルスレッドのサポート (HP-UX 11.0 にだけ必要) HP-UX 11.0 DCE-KT-Tools の SD パッケージ 注記: HP-UX Application Software CD-ROM で提供される DCE-KT-Tools には、OVO の実行に必要なカーネルスレッドのランタイムライブラリが含まれています。この製品をインストールするには、SD-UX の swinstall GUI を起動して、ソフトウェアビューを [Start with Products] に変更し、[DCE-KT-Tools] を選択します。DCE-KT-Tools は、HP-UX OS と同時にライセンスされています。	
カーネルの設定	
注記: 組み込みパフォーマンスコンポーネントでパフォーマンスメトリックを監視する場合は、カーネルパラメータ max_thread_proc の値を次のように増やしてください。 $\text{min} + (\text{Number_of_Templates} * 2)$	
サポートされている高可用性環境	
<input type="checkbox"/> MC/ServiceGuard 11.11 ~ 11.16 <input type="checkbox"/> Veritas Cluster 3.5、4.0	
オペレーティングシステムのパッチ	
PA-RISC 版 HP-UX 11.0 の場合	
QPK1100	Quality Pack for HP-UX 11.0 バージョン B.11.00.54.7 (2001 年 9 月版) 以降
PHCO_28425	s700_800 11.00 libc 累積パッチ

表 4-5 HP-UX PA-RISC DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステム
のパッチ (続き)

PA-RISC 版 HP-UX 11.11 の場合	
GOLDBASE11i	Gold Base Patches for HP-UX 11.i バージョン B.11.11.0306.4 (2003 年 6 月版)
PHSS_26946	HP aC++ -AA ランタイムライブラリ (aCC A.03.37)
PHSS_26560	ld(1) と linker ツールの累積パッチ
PHNE_28568	s700_800 11.11 ONC/NFS の一般リリース / パフォーマンスパッチ

HP-UX Itanium DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-6 HP-UX Itanium DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

<p>サポートされている HP-UX プラットフォーム</p> <p>HP-UX 11.22、11.23</p>
<p>HP-UX に必要なソフトウェア</p> <p>HP-UX Itanium DCE エージェントソフトウェアは、OVO A.07.10 Media Kit には含まれていませんが、Web サイトからダウンロード可能です。</p> <ul style="list-style-type: none">❑ DCE RPC DCE RPC バージョン 1.7 以降。SD パッケージ: DCE-Core.DCE-CORE-RUN 注記: OVO は、HP-UX 11.x オペレーティングシステムで提供される DCE バージョンをサポートしています。DCE は HP-UX オペレーティングシステムに含まれていますが、オプション製品として単独でインストールする必要があります。❑ インターネットサービス SD パッケージ: InternetSrvcs.INETSRVCS-RUN❑ LAN/9000 SD パッケージ: Networking.NET-RUN❑ 母国語サポート (NLS) パッケージ (オプション) SD パッケージ: OS-Core.NLS-AUX
<p>カーネルの設定</p> <p>注記: 組み込みパフォーマンスコンポーネントでパフォーマンスメトリックを監視する場合は、カーネルパラメータ <code>max_thread_proc</code> の値を次のように増やしてください。 <code>min + (Number_of_Templates * 2)</code></p>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <ul style="list-style-type: none">❑ MC/ServiceGuard 11.14.01 (HP-UX 11.22 の場合)、11.15 ~ 11.16 (HP-UX 11.23 の場合) アプリケーションパッケージモニタリング (opcapm) はサポートされません。❑ Veritas Cluster 3.5

Solaris DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-7 Solaris DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

<p>サポートされている Sun Solaris プラットフォーム</p> <p>Solaris 2.6、7、8、9、10</p>
<p>Sun Solaris に必要なソフトウェア</p> <p><input type="checkbox"/> 通信ソフトウェア</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>NCS</i> OVO GUI で通信タイプとして NCS を選択したにもかかわらず、管理対象ノードで NCS バージョン 1.5.1 が見つからないと、OVO は、OVO エージェントソフトウェアをインストールする時に、11bd と 1b_admin をインストールします。• <i>DCE</i> サポートされている DCE パッケージ: IBM DCE 3.1、HPlwdce 1.1.x、DASCOM DCE 1.1.x 通信タイプとして DCE RPC (TCP または UDP) を設定したにもかかわらず、サポートされている DCE パッケージが管理対象ノードにインストールされていない (または動作していない) 場合は、HPlwdce (HP Lightweight DCE ランタイムバージョン 1.1) がインストールされ、設定されます。 <p><input type="checkbox"/> ARPA/Berkeley サービス</p> <p><input type="checkbox"/> MIB</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、HP OpenView プラットフォームの snmpd、あるいは、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p>
<p>カーネルの設定</p> <p>以下のカーネルパラメータに必要最小値を設定します。</p> <pre>semsys:seminfo_semmni=30</pre> <pre>semsys:seminfo_semmap=15 (プラットフォームで有効な場合)</pre> <pre>semsys:seminfo_semmns=200</pre> <pre>semsys:seminfo_semmsl=100</pre> <p>カーネルパラメータの値は、/etc/system ファイルを使って調べたり変更したりできます。</p>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <p><input type="checkbox"/> Sun Cluster 3.0、3.1</p> <p><input type="checkbox"/> Veritas Cluster 3.5</p>

表 4-7 Solaris DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ
(続き)

オペレーティングシステムのパッチ	
OVO Sun Solaris 管理対象ノードには、以下のパッチが必要です。これらのパッチは、Web サイト www.sunsolve.sun.com から入手できます。	
Sun Solaris 管理対象ノードにインストールしてはいけないパッチについての情報は、この表の最後にある「Sun Solaris の OS パッチに伴う問題」の項を参照してください。	
Solaris 2.6 の場合	
107733-09	SunOS 5.6: Linker のパッチ
105591-11	SunOS 5.6: C++ 用共有ライブラリのパッチ
106429-02	SunOS 5.6: /kernel/drv/mm のパッチ
105181-29	SunOS 5.6: カーネルアップデートパッチ
105210-38	SunOS 5.6: libaio、libc、watchmalloc のパッチ
105568-23	SunOS 5.6: /usr/lib/libthread.so.1 のパッチ
105633-59	OpenWindows 3.6: Xsun のパッチ
106841-01	OpenWindows 3.6: Keytables のパッチ
106842-09	SunOS 5.6: Solaris 2.6 のユーロ通貨サポート用機能パッチ
105181-16 105210-24 105568-14	通信に DCE を使うマルチプロセッサシステムについては、これらのパッチがインストールされていることを必ず確認してください。
Solaris 7 の場合	
106950-15	SunOS 5.7: Linker のパッチ
106327-10	SunOS 5.7: C++ 用 32 ビット共有ライブラリのパッチ
107544-03	SunOS 5.7: /usr/lib/fs/ufs/fsck のパッチ
106541-17	SunOS 5.7: カーネルアップデートパッチ
106980-17	SunOS 5.7: libthread のパッチ
Solaris 8 の場合	
109147-09	SunOS 5.8: Linker のパッチ
108434-03	SunOS 5.8: C++ 用共有ライブラリのパッチ
108827-11	SunOS 5.8: libthread のパッチ
Solaris 9 の場合	
パッチは不要です。	

表 4-7 Solaris DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ
(続き)

Solaris 10 の場合	
パッチは不要です。	
Sun Solaris の OS パッチに伴う問題	
101327-04 101327-05	<p>バージョンが -04 または -05 のパッチ 101327 がインストールされている Sun Solaris 管理対象ノードに OVO をインストールしようとする、次のメッセージが出て失敗します。</p> <pre>tar xof...core dump</pre> <p>この問題は次のいずれかの方法で解決できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 古いパッチを削除する• バージョンが -06 以降のパッチをインストールする <p>Sun Solaris システムにインストールされている現在のパッチを調べるには、次のように入力します。</p> <pre>showrev -p</pre>

Linux DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-8 Linux DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ

サポートされている Linux (Intel x86 版) プラットフォーム				
本表の後半にある詳細なリストを参照してください。				
Pentium 版 Linux に必要なソフトウェア				
<p>❑ DCE RPC</p> <p>OVO DCE エージェントパッケージと共に提供されます。</p>				
<p>❑ 一般的なパッケージ</p> <p>次のパッケージをすべてのプラットフォームにインストールする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bash と gawk 				
<p>❑ Red Hat Package Manager (RPM)</p> <p>Debian システムの場合にインストールされている必要があります。</p>				
<p>❑ SNMP デーモン (オプション)</p> <p>ソフトウェアを OVO 管理サーバーからリモートでインストールする場合は、SNMP デーモン (snmpd) を起動しておく必要があります。これによって、OVO 管理サーバーが、Linux 管理対象ノードのノードタイプを自動的に判断できるようになります。MIB 変数のモニタリングを行う場合にも、SNMP デーモンを起動しておく必要があります。</p>				
言語	OS とバージョン	パッケージ	カーネル	glibc
英語	Red Hat 7.1	compat-libstdc++ glibc	2.4.x (x ≥ 2)	2.2.2
	Red Hat 7.2		2.4.x (x ≥ 7)	2.2.4
	Red Hat 7.3		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	Red Hat 8.0		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.93
	Red Hat 9.0		2.4.x (x ≥ 20)	2.3.2-27.9.7
	Red Hat EL 2.1 ¹		2.4.x (x ≥ 9)	2.2.4
	Red Hat EL 3 ²		2.4.21	2.3.2

表 4-8 Linux DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ
(続き)

英語	SuSE 7.2	compat glibc	2.4.x (x ≥ 4)	2.2.2
	SuSE 7.3		2.4.x (x ≥ 10)	2.2.4
	SuSE 8.0		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	SuSE 8.1、 8.2	compat-2002 glibc	2.4.x (x ≥ 19)	2.2.5-161
	SuSE Enterprise Server 8.0		2.4.x (x ≥ 19)	2.2.5
	SuSE 9.0		2.4.x (x ≥ 21)	2.3.x (x ≥ 2)
	Debian 3.0	libstdc++2.9-glibc2.1 libc6	2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	Debian 3.0 r1、 3.0 r2	libstdc++2.9-glibc2.1 libc6	2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	Mandrake 9.2	libstdc++2.10	2.4.x (x ≥ 22)	2.3.2
	RedFlag Professional Server 4.0	libstdc++-3.2-2.96.110 libgcc-3.2-7	2.4.x (x ≥ 20-8)	2.2.93-5
サポートされている高可用性環境				
<input type="checkbox"/> Red Hat Enterprise Linux - Advanced Server 2.1 / 3.0 サポートされているディストリビューションバージョンには、パッチは不要です。				
Itanium 版 Linux				
IA64 Linux 上の OVO DCE エージェントは、エミュレーションモードで動作します。				
注記 : Kernel version 2.4.18-e.47 ~ e.54 では、Itanium 版 RHEL 2.1 エージェントの動作に支障が出ます。RedHat から入手できる Kernel パッチ 2.4.18-e.56 を使用してください。				

表 4-8 Linux DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

<ul style="list-style-type: none"> RH EL-AS 2.1, RH EL-AS 3 (U2 および U3* のパッチ適用済み) <p>* オペレーティングシステムの問題により、Itanium 用の Red Hat Enterprise Linux 3 Update 3 が適用済のシステムへ OVO エージェントをインストールできません。 この問題を解決するには、https://bugzilla.redhat.com/bugzilla/show_bug.cgi?id=137452 を参照し、指示に従ってください。32-bit bash も必要です。Media Kit に bash-2.05b-29.0.3.i386.rpm パッケージを収録しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> RedHat Enterprise Linux 4 (x86 版) RedHat Enterprise Linux 4 (AMD64/EM64T 版) RedHat Enterprise Linux 3 update 4 (Itanium 版) SUSE 9.1 (x86 版) SUSE Enterprise Server 9 (AMD64/EM64T 版) SUSE Enterprise Server 9 (Itanium 版)

1. Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS 2.1
2. Red Hat Enterprise Linux AS、ES、および WS 3.0

表 4-9 Linux DCE エージェントのソフトウェア、設定およびオペレーティングシステムのパッチ (日本語版の追加)

言語	OS とバージョン	パッケージ	カーネル	glibc
日本語	Red Hat 7.1	compat-libstdc++ glibc	2.4.x (x ≥ 2)	2.2.2
	Red Hat 7.2		2.4.x (x ≥ 7)	2.2.4
	Red Hat 7.3		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	Red Hat 8.0		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.93
	Red Hat 9		2.4.x (x ≥ 18)	2.2.93
	TurboLinux 7.0 Workstation	libstdc++-compat	2.4.x (x ≥ 5)	2.2.3
	TurboLinux 7.0 Server	libstdc++-compat	2.4.x (x ≥ 9)	2.2.4
	TurboLinux 8 Server	libstdc++-compat	2.4.x (x ≥ 18)	2.2.5
	Turbolinux 8 Enterprise Server	compat-libstdc++ glibc	2.4.x (x ≥ 19)	2.2.3

Microsoft Windows DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-10 Windows DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ

<p>サポートされている Windows プラットフォーム</p> <p>Microsoft Windows 2000、XP Professional、Server 2003</p>
<p>OVO 管理サーバーの要件</p> <p>OVO 管理サーバーが以下の要件を満たしていることを確認してください。</p> <p>□ カーネルパラメータ <code>maxfiles</code></p> <p>カーネルパラメータ <code>maxfiles</code> を、次のように設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• <i>Windows 管理対象ノードが 35 台以下の場合</i> Windows 管理対象ノードが 35 台以下の場合、『OVO 管理サーバー インストールガイド』の説明に従って、カーネルパラメータ <code>maxfiles</code> を設定します。• <i>Windows 管理対象ノードが 36 台以上の場合</i> Windows 管理対象ノードが 36 台以上の場合、次の計算式を使って <code>maxfiles</code> の値を増やします。 $3 * \text{Number_of_additional_NT_nodes} + 15$
<p>Windows インストールサーバーの要件</p> <p>Windows インストールサーバーを使う場合は、インストールサーバーがドメインコントローラとして設定されていることを確認してください。</p>
<p>Windows 管理対象ノードの要件</p> <p>OVO 管理対象ノードが以下の要件を満たしていることを確認してください。</p>

表 4-10 Windows DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

ソフトウェア要件	
<input type="checkbox"/> FTP FTP サービスを起動しておく必要があります (FTP からエージェントパッケージをインストールする時に必要になります)。また、FTP のホームディレクトリは、FTP サービスから読み書きできるようにパーミッションを設定しておく必要があります。ただし、Administrator アカウントを使って FTP サービスを提供している場合は、anonymous FTP を許可しないように設定する必要があります。	
<input type="checkbox"/> 管理サーバーの名前 管理対象ノードから管理サーバー名を解決できる必要があります。これは、ping コマンドを使って確認できます。	
<input type="checkbox"/> スケジュールサービス スケジュールサービスが無効になっていないこと (インストール時に必要になります)。	
<input type="checkbox"/> TCP/IP サービス TCP/IP サービスが動作していて、自動的に起動できるようになっている必要があります。	
<input type="checkbox"/> RPC サービス RPC サービス (Remote Procedure Call Service) が動作していて、自動的に起動できるようになっている必要があります。	
<input type="checkbox"/> SNMP サービス OVO の検出機能やその他の SNMP 機能を使う予定があれば、SNMP サービスを起動しておく必要があります。	
<input type="checkbox"/> DHCP サービス OVO では管理対象ノードの識別に IP アドレスを使っているため、DHCP (Windows クライアント用の動的アドレスサービス) は無効にしておく必要があります。	
サポートされている高可用性環境	
<input type="checkbox"/> MS Cluster Server	
オペレーティングシステムのパッチ、Service Pack、および要件	
Pentium 用 Windows 2000 の場合	
Service Pack	Service Pack なし、または Service Pack 1、2、3、4
msvcp60.dll	Microsoft の他の製品によってすでにインストールされていることがよくあります。インストールされていない場合は、MS インストール CD の support/tools セクションに用意されているこの DLL をインストールしてください。
Pentium 用 Windows XP の場合	
Service Pack	Service Pack なし、または Service Pack 1、2

表 4-10 Windows DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ (続き)

<p>Windows XP Service Pack 2 ファイアウォールの設定</p>	<p>Windows XP SP2 が適用済のノードを VPO 登録ノードに追加するときには、以下の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードの [ノードの変更 ...] ダイアログを開きます。 2. [通信オプション ...] ダイアログを開きます。 3. [通信タイプ] エントリーを [DCE RPC (UDP)] から [DCE RPC (TCP)] へ変更します。 <p>Windows XP SP2 が適用済のノードへインストールサーバー経由でエージェントをインストールする場合は、以下の手順を実行する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ノードで [Windows ファイアウォール] を開きます。 2. [例外] タブをクリックします。 3. [ファイルとプリンタの共有] オプションを選択します。 <p>エージェントのインストールが完了した後は、[例外] タブに以下のエントリーが追加されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> [x] HP OpenView Black Box Communication Broker [x] HP OpenView Control Agent RPC Server [x] HP OpenView Performance Collector <p>エージェントを正常に動作させるには、これらの設定を既定のままにしておく必要があります。</p> <p>これらの手順は、『OVO Unix Firewall Whitepaper』の将来のバージョンにも記載される予定です。</p>
<p>Pentium 用 Windows Server 2003 の場合</p>	
<p>Service Pack</p>	<p>Service Pack なし、または Service Pack 1</p>
	<p>パッチは不要です。</p>
<p>64-bit Itanium 用 Windows Server 2003 の場合</p>	
<p>Service Pack</p>	<p>Service Pack なし、または Service Pack 1</p>
	<p>パッチは不要です。</p>
	<p>IA64 システムで仮想ターミナル (PC) アプリケーションを起動するときには、「HP ITO account」ユーザーで実行する必要があります。完全修飾されたユーザーログイン方式 (ユーザー名とパスワードを指定) を使用することも可能です。IA64 システムでは、パスワードなしのユーザー切り替えはできません。</p>
	<p>HP インストールサーバーによるエージェントのインストール方法は、IA64 システムでは使用できません (ノードだけでなくインストールサーバーに対しても)。</p>
<p>Windows Server 2003 64-bit AMD64/EM64T の場合</p>	

表 4-10 Windows DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムのパッチ (続き)

	AMD64/EMT64T プロセッサ上で動作する、x86 モードの Windows 2003 サーバーをサポートします。
<p>Itanium 用 Windows Server 2003 の場合</p> <p>Windows OVO DCE エージェントは、Microsoft Windows Server 2003 の 64 ビットバージョンに対応しています。ただし、IA64 Windows 上のエミュレーションモードでの動作となります。</p> <p>メモリリークを止めるために、Microsoft からの追加 HotFix を適用する必要があります。</p> <p>エージェントの実行時において、以下の制限事項があります。</p> <p>仮想ターミナル (PC)</p> <p>仮想ターミナル (PC) アプリケーションは、IA64 システムで起動する際には「HP ITO account」ユーザーで実行するか、完全修飾されたユーザーログイン方式 (ユーザー名とパスワードを指定) を使用します。通常は、IA64 システムでパスワードなしのユーザー切り替えはできません。</p> <p>HP インストールサーバー</p> <p>HP インストールサーバーによるエージェントのインストール方法は、IA64 システムでは使用できません。</p> <p>ファイル処理関係</p> <p>エージェントはサイズが 2GB を超えるファイルを処理できません。これは主に、ログファイルエンキャプスレータで 2GB を超えるファイルを読み取れないといった影響が出る可能性があります。ログファイルがこのサイズを超えると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>ファイル <...> をシークできません。System Error Number: 131(83) - (OpC20-70)</p> <p>レジストリ関係</p> <p>エージェント用のレジストリのエントリは以下のツリーにあります。</p> <p>HKLM¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Hewlett-Packard¥....</p> <p>以下のオリジナルパスを使って、レジストリにアクセスするには、アクセスするアプリケーションも 32 ビットエミュレーションモードで動作させる必要があります。</p> <p>HKLM¥SOFTWARE¥Hewlett-Packard¥...</p> <p>たとえば、VisualBasic スクリプトの mgmt_sv.vbs が該当します。</p> <p>このようなスクリプトは、以下にあるスクリプトエンジンを使って実行させる必要があります。</p> <p>%SYSTEMROOT%¥SysWOW¥64</p> <p>wscript.exe または cscript.exe を使うことになります。</p> <p>PATH 変数で検索される標準のスクリプトエンジンを使うと、スクリプトはおそらく正しく動きません。</p> <p>詳細は、Microsoft 文書番号 305097 「64 ビットバージョンの Windows でシステム レジストリを表示する方法」を参照してください。</p> <p>http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;[LN];305097</p>	

表 4-10 Windows DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ (続き)

Itanium 用 Windows Server 2003 の場合 (続き)

OVO エージェントに影響がある Microsoft Windows Server 2003 64 ビットバージョンの問題

エージェントプロセスが外部プロセスを起動すると、メモリー使用量が増加することがあります。

この問題には、修正プログラムがあります。Microsoft 文書番号 822961 「32 ビット プロセスで *CreateProcess* 関数を呼び出しても別の 32 ビット プロセスが正しく起動されない」で公開されています。

[http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;\[LN\];822961](http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;[LN];822961)

OVO エージェントを Windows Server 2003 64 ビットバージョンにインストールする前に、この HotFix を適用することを強くお勧めします。

AIX DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-11 AIX DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ

<p>サポートされている AIX プラットフォーム</p> <p>AIX 4.3.1、4.3.2、4.3.3、5L 5.1、5L 5.2、5L 5.3</p>
<p>AIX に必要なソフトウェア</p> <p>OVO をインストールする前に、AIX システムに以下のソフトウェアがインストールされていることを確認してください。</p> <p>□ 通信ソフトウェア</p> <p>OVO がサポートしている通信タイプは、NCS RPC と DCE RPC です。</p> <p>AIX 管理対象ノードで DCE RPC を使う場合の要件</p> <p>通信タイプが DCE RPC の場合は、以下のソフトウェアをインストールしておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• AIX 用の DCE <p>バージョン 4.2.x までの AIX オペレーティングシステムでは、オペレーティングシステムと一緒に DCE が提供されます。バージョン 4.3 以降の AIX オペレーティングシステムでは、DCE を独立した製品として別途購入する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• AIX 4.3 上のファイルセット <p>AIX 4.3 の DCE RPC の場合は、以下のファイルセットのうちいずれか 1 つをインストールする必要があります。</p> <pre>dce.client.core.rte 2.1 dce.client.rte 2.1 dce.client.core.rte.admin 2.1</pre> <p>AIX 管理対象ノードで NCS RPC を使う場合の要件</p> <p>通信タイプが NCS RPC の場合は、NCS Runtime パッケージ bos.net.ncs をインストールしておく必要があります。</p> <p>NCS の確認やインストールには、以下のコマンドを使用します。</p> <pre>lslpp -l <package> installp -s <package></pre> <p>□ ARPA/Berkeley サービス</p> <p>□ MIB-I または MIB II</p> <p>OVO の MIB モニタリング機能には、MIB-I (RFC 1156) または MIB-II (RFC 1158) に準拠した SNMP ベースのエージェントソフトウェアが必要です。</p>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <p>AIX 4.3.3、4.4.1、4.5、4.5 ES、5L 5.1</p>

表 4-11 AIX DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ (続き)

オペレーティングシステムのパッチ	
AIX 4.3.1 管理対象ノードには、以下のパッチが必要です。これらパッチの入手については、IBM に問い合わせてください。	
PTF: U455996	bos.up バージョン 4.3.1.1 Base Operating System Uniprocessor Runtime
PTF: U453884	bos.mp バージョン 4.3.1.1 Base Operating System Multiprocessor Runtime
注記: モニターエージェント (opcmona) が mbstowcs () サブルーチンでクラッシュする問題を解決するには、少なくとも次の改訂版の OS パッチをシステムにインストールする必要があります。	
4.3.3.89 (AIX 4.3) の場合	bos.rte.libc
4.3.3.80 (AIX 4.3) の場合	bos.rte.libpthreads
5.x (AIX 5L) の場合	ML-03

Tru64 UNIX DCE エージェントのソフトウェア要件

表 4-12 Tru64 UNIX DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ

<p>サポートされている Tru64 UNIX プラットフォーム</p> <p>Tru64 4.0F、4.0G、5.1A、5.1B</p>
<p>カーネルの設定</p> <p>特別な設定は不要です。デフォルトの設定で問題ありません。</p> <p>setup ツールを使うと、システムパラメータの確認と変更ができます。</p> <p>注記: エージェントを非 root ユーザーで動作させながら、組み込みパフォーマンスコンポーネントでパフォーマンスメトリックを監視する場合は、カーネルパラメータ <code>max_threads_per_user</code> の値を次のように増やしてください。</p> <pre>default + (Number_of_Templates * 2)</pre>
<p>必要なソフトウェア</p> <p>OVO をインストールする前に、Tru64 UNIX 管理対象ノードに以下のソフトウェアがインストールされていることを確認してください。</p> <p>❑ Tru64 UNIX 管理対象ノードに必要なパッチ</p> <p>Tru64 UNIX 管理対象ノードにはパッチ <code>CXXREDIST632V11.tar</code> が必要です。</p> <p>次のようにして、インストールされている <code>libcxx</code> が V60300001 より古いかどうかを確認してください。</p> <pre>nm /usr/lib/cmplrs/cxx/libcxxx.so grep libcxxx_V</pre> <p>システム上のイメージ内に <code>_libcxxx_V60300001</code> というシンボルがある場合は、このパッチをインストールする必要はありません。</p> <p>次の FTP パッチサイトから、最新バージョンをダウンロードすることができます。</p> <pre>ftp://ftp.compaq.com/pub/products/C-CXX/tru64/cxx/</pre> <p>❑ 基本ネットワークサービス</p> <p><code>OSFCLINET4xxx</code> 基本ネットワークサービス。xxx の値は、オペレーティングシステムの種類によって異なります。</p>

表 4-12 Tru64 UNIX DCE エージェントのソフトウェア、設定、およびオペレーティングシステムの
パッチ (続き)

<p>□ DCE ランタイムキット</p> <p>注記: DCE ランタイムキット ソフトウェアは、通信タイプとして DCE を選択した場合にだけ必要です。</p> <p>注記: TruCluster にインストールされている OVO DCE エージェントは、DCE 通信タイプを使用しなければなりません。NCS は、TruCluster OVO 7 管理対象ノードではサポートされていません。</p> <p>注記: OVO では、Tru64 UNIX オペレーティングシステムで提供される DCE バージョンをサポートしています。Tru64 UNIX オペレーティングシステムのバージョン 5.0A まではレイヤード製品 CD に DCE が含まれていますが、DCE はオプション製品として別途インストールする必要があります。</p> <p>□ パッケージ: OSFINCLUDExxx</p> <p>Tru64 UNIX ノードで実行可能プログラムを作成するためには、標準ヘッダーファイルパッケージ OSFINCLUDExxx が必要です。xxx の値は、オペレーティングシステムの種類によって異なります。</p>
<p>サポートされている高可用性環境</p> <p>TruCluster 4.0F、4.0G、5.1A、5.1B</p>

- **日本語ベースシステム**

IOSJPBASE4xxx 日本語ベースシステム。このシステムは、Tru64 UNIX を日本語環境で実行する管理対象ノードにのみ必要です。

5 HTTPS エージェントのリソース要件とパフォーマンス

本章では、HTTPS エージェントと DCE エージェントの動作の違いと、エージェントをインストールする際の留意事項を説明します。

OVO HTTPS エージェントとの協調動作をより円滑にするための新しい共有コンポーネントが OpenView に導入されました。そのため HTTPS エージェントに対するシステムの要求も、DCE エージェントに比べて高くなっています。ただし通常は、どのプラットフォームの HTTPS エージェントに対しても、システムパラメータをオペレーティングシステムのデフォルト値よりも高く設定する必要はありません。

詳細については、『*HP OpenView Operation HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド*』と『*HP OpenView Operations for UNIX Performance Guide for OVO/UNIX 8.10*』も参照してください。これらのマニュアルは以下の Web サイトからダウンロード可能です。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/ (英語)

HTTPS エージェントと DCE エージェントの比較

□ ディスク容量

HTTPS エージェントには、DCE エージェントが使用するディスク容量の約 2 倍のディスク容量が必要です。ただし、同じシステムに他の OpenView 製品をインストールした場合には、既存の共有コンポーネントが使用されます。

□ メインメモリーの使用率

HTTPS エージェントの場合は、エージェントを起動する時に DCE エージェントの場合より 2 ~ 3 倍大きいメインメモリーが必要です。しかし、実行中に必要となるメインメモリーの容量については、DCE エージェントと HTTPS エージェントでほとんど違いはありません。

既知の問題

ovconfd プロセスが増大し、ついにはプロセス当たりのメインメモリーの使用量が HP-UX オペレーティングシステムのデフォルト値 (64 MB) を超えてしまうことがあります。この問題が発生するかどうかは、インストールする設定データの量と、設定情報の転送頻度によって決まります。

大量の設定データを頻繁に配布する場合 (たとえば、毎日 5 MB を配布するなど) には、HP-UX システムのカーネルパラメータ maxdsiz を 128 MB 以上に設定する必要があります。

□ オープンファイルのハンドル数、セマフォの数、共有メモリー

DCE エージェントと HTTPS エージェントの間に大きな違いはありません。

□ プロセスの数

HTTPS エージェントを構成するプロセスの数は、DCE エージェントよりも 1 つ多くなっています。違いは、次のとおりです。

- DCE エージェントの場合 : rpcd (DCE デーモン)、opcctl
- HTTPS エージェントの場合 : ovbbccb (rpcd に相当)、ovconfd、ovcd (opcctl に相当)

□ CPU の使用率と全体のパフォーマンス

opcmona、opccl、opcmsgi といったインターセブタプロセスのスループットについては、DCE エージェントと HTTPS エージェントの間に大きな違いはありません。

HTTPS エージェントのメッセージ転送は、SSL 暗号化のデフォルト使用などが原因で、DCE エージェントの場合より時間がかかります。ただし、ピーク時の処理要求を減らす手段として、たとえば、短時間のうちに大量のメッセージを送信する場合はブロックモード転送を使う、といったような最適化が実装されています。

HTTPS エージェントへ設定情報を配布する場合は、DCE エージェントの場合に比べて時間がかかります。特に、インストールメンテーション (従来は、アクション/コマンド/モニターと呼ばれていました) の転送には数分かかることもあり、その差は歴然としています。この問題は、次のリリースで改善が予定されています。

HTTPS エージェントバイナリのインストールには、DCE エージェントの場合よりも時間がかかります。これは、OpenView の新しい共有コンポーネントをインストールする必要があるためです。ただし、共有コンポーネントを最初の製品で一度インストールしておけば、別の OpenView 製品を追加したときに、その共有コンポーネントを使用できるというメリットがあります。

OVO 7.x エージェントと OVO 8 エージェントに関連した管理サーバーコンポーネントの比較

□ メインメモリーの使用率

OVO/UNIX 8 管理サーバーには、OVO/UNIX 7.x 管理サーバーの場合に比べて約 2 ~ 3 倍のメインメモリーが必要です。必要なメインメモリーの量が増加したのは、いくつかのプロセス (ovcd、ovbbccb、opcbbcdist、opcmsgbrb、opccsad、ovcs) が追加されたことと、Oracle 9.2 が Oracle 8.1.7 に比べて多くのメインメモリーを必要とするようになったことが主な原因です。

□ オープンファイルのハンドル数、セマフォの数、共有メモリー

OVO/UNIX 7.x と OVO/UNIX 8 に共通なプロセスについては、大きな違いはありません。しかし、Oracle 9.2 が 8.1.7 に比べてたくさんのメインメモリーを必要とすることと、OVO/UNIX 8 に新しいプロセスがいくつか追加されたことにより、OVO/UNIX 8 にはより多くのメインメモリーが必要です。

□ プロセスの数

OVO/UNIX 8 管理サーバーには、HTTPS エージェントとの協調動作を円滑にするための新しいプロセスがいくつか追加されています。具体的には、ovcd、ovbbccb、ovcs、opcbbcdist、opcmsgbrb、opccsad がその新しいプロセスに該当します。これ以外のプロセスはすべて、OVO/UNIX 7.x と 8 で共通です。

□ CPU の使用率と全体のパフォーマンス

OVO/UNIX 8 では、HTTPS エージェントから受信したメッセージの処理と、HTTPS エージェントへ設定データを配布する処理のために、CPU の使用率が OVO/UNIX 7.x に比べて少しだけ増えています。この増加は、データ転送に SSL 暗号化を使うことが主な原因です。

HTTPS エージェントのリソース要件とパフォーマンス

OVO 7.x エージェントと OVO 8 エージェントに関連した管理サーバーコンポーネントの比較

6 最終段階でのドキュメントの変更

常に、次の Web サイトにある最新版の OVO/UNIX マニュアルを確認してください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

以降の項に、OVO/UNIX マニュアルやオンラインヘルプにまだ反映されていない説明を示します。

『OVO 管理サーバー インストールガイド』

Oracle 環境変数

HP-UX 用のインストールガイドで、87 ページの「OVO ソフトウェアの再設定」の項の手順 3 には、次のような説明があります。

「変数 `ORACLE_BASE` と `ORACLE_HOME` をエクスポートします。その方法は、58 ページの「Oracle データベースをインストールする前に」を参照してください。」

Oracle データベースを正しく構成するには、すべての Oracle 環境変数をエクスポートする必要がありますので、以下のように変更する必要があります。

「すべての `oracle` 変数をエクスポートします。その方法は、58 ページの「Oracle データベースをインストールする前に」を参照してください。」

また、Sun Solaris 用のインストールガイドでも同様の変更が必要です。

『OVO システム管理リファレンスガイド』

追加の opc パラメータ

パラメータ OPC_NOTIF_WHEN_DUPLICATE TRUE と OPC_TT_WHEN_DUPLICATE TRUE は、まだ OVO/UNIX ドキュメントに説明がありません。以下に説明します。

- キーワード: OPC_NOTIF_WHEN_DUPLICATE

説明: 「重複するメッセージの除外」を有効にしていると、各メッセージに対してローカルな自動アクションが起動されますが、通知サービスは一度しか起動されません。これは ovconfchg を使って変更できるようになりました。

```
OPC_NOTIF_WHEN_DUPLICATE TRUE
OPC_TT_WHEN_DUPLICATE TRUE
```

重複カウンタを含む 16 番目のパラメータで、重複情報をインタフェースに渡します。最初のメッセージの場合、またはこの機能が有効になっていない場合には、カウンタは 0 です。

型 / 単位: 論理値

デフォルト: FALSE

適用開始リリース: A.06.09

- キーワード: OPC_TT_WHEN_DUPLICATE

説明: メッセージが、他のメッセージと重複している場合でも、トラブルチケットに渡します。OPC_NOTIF_WHEN_DUPLICATE も参照してください。

型 / 単位: 文字列

デフォルト: FALSE

適用開始リリース: A.06.09

ログのみのメッセージ

「ログのみのメッセージ」の定義が『OVO システム管理リファレンスガイド』から欠落しています。次回の改訂時に以下の定義を追記する予定です。

ログのみのメッセージは、サーバーへのログのみメッセージとも言い、OVO/UNIX 管理サーバーで次のように処理されます。

- トラブルチケットには転送されません。
- OVO/UNIX 管理サーバーによる自動アクションを起動することはありません。
- メッセージはメッセージ関連で使用できます。ログのみのメッセージは、拡張メッセージキーを定義でき、これによりアクティブメッセージのブラウザからメッセージを受諾できます。

すべてのクラスタノードのエージェントタイプ (DCE または HTTPS) を同時に変更

OVO/UNIX で仮想ノードを使うには、すべてのノード (物理ノードおよび仮想ノード) で同じプラットフォームタイプ (DCE または HTTPS) を使う必要があります。

アップグレードの際にエージェントタイプを DCE から HTTPS へ変更する場合は、すべてのノードの変更を短時間（数分以内）のうちに完了させる必要があります。また、移行した後は、すべてのエージェントが同じタイプになっている必要があります。

opcragt の機能を強化

OVO/UNIX の opcragt に、サブエージェント ID の値として番号か名前で指定できるようになりました。動作は、使用されている通信タイプが HTTPS か DCE かによって異なります。

• HTTPS 通信タイプの場合

subagent id 引数に名前が指定されると、選択ノードが直接処理されます。subagent id に番号を指定するには、subagt_aliases ファイルに subagent id から name へのマッピング情報が記述されている必要があります。

• DCE 通信タイプの場合

subagent id に番号が指定されると、status や start/stop コマンドが直接呼び出されます。subagent id に名前を指定するには、subagt_aliases ファイルにその名前から番号へのマッピング情報が記述されている必要があります。

subagt_aliases ファイルには、デフォルトで次の 3 つの番号と名前のマッピング情報が定義されています。

- (0 -> AGENT)
- (1 -> EA)
- (12 -> CODA)

subagt_aliases ファイルは以下にあります。

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/subagt_aliases
```

番号と名前のマッピング情報が必要なときに、その定義が記述されていない場合、以下のエラーメッセージが表示されます。

DCE ノードの場合

```
Can't find information for subagent id '< sugagent_id >' searching in  
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/subagt_aliases. (OpC40-340)
```

必要に応じて、マッピング情報を手動で subagt_aliases ファイルに追加できます。

HTTPS ノードの場合

```
サブエージェント XXX:  
サブエージェントは登録されていません
```

使用例

□ サブエージェントのステータスを照会する例

```
opcragt -id CODA <dce_node_name> または <https_node_name>  
Node <dce_node_name>:  
OVO 管理対象ノードのステータス :  
-----  
Control Agent           /opt/OV/bin/OpC/opcctla      (7052) が起動されています。  
Message Agent           /opt/OV/bin/OpC/opcmgsa      (7059) が起動されています。  
BBC Local Location Broker /opt/OV/bin/llbserver        (7060) が起動されています。  
サブエージェント 12:
```

```
Performance Agent      /opt/OV/bin/coda -redirect (7062) が起動されています。  
Done.
```

```
Node <https_node_name>:
```

```
OVO 管理対象ノードのステータス :
```

```
-----
```

```
OV Control              ovcd                (12338) が起動されています。  
OV Communication Broker ovbbccb            (12339) が起動されています。  
OV Config and Deploy   ovconfd            (12342) が起動されています。  
サブエージェント CODA:  
OV Performance Core    coda                (12345) が起動されています。  
Done.
```

□ ノードのサブエージェントの起動例

```
opcragt -start -id CODA <dce_node_name> または <https_node_name>
```

```
Node <dce_node_name>:
```

```
Starting OpC services...Done.
```

```
Node <https_node_name>:
```

```
Starting OpC services...Done.
```

管理サーバーで扱える言語変数の種類

管理サーバー上の OVO Motif GUI では、LANG 変数の設定値として以下の表に示すものがサポートされています。また、OVO がこれらの言語で動作することも確認されています。

注意 英語版 OVO をインストールして、その Motif GUI のテキスト入力フィールドに日本語、韓国語、簡体字中国語、または繁体字中国語の文字を入力する場合は、データベースで制限されている数より多くの文字を入力できてしまいます。しかしその場合は OVO からエラーメッセージが出て、入力文字数を減らすように注意されます。

表 6-1 OVO Motif GUI に対して設定可能な LANG 変数の値 – HP-UX の場合

言語	LANG の値
チェコ語	cs_CZ.iso88592
英語	C C.iso88591 C.iso885915
フランス語	fr_FR.iso88591 fr_FR.iso885915@euro
ドイツ語	de_DE.iso88591 de_DE.iso885915@euro
イタリア語	it_IT.iso88591 it_IT.iso885915@euro
日本語	ja_JP.SJIS
韓国語	ko_KR.eucKR
ロシア語	ru_RU.iso88595
簡体中国語	zh_CN.hp15CN
繁体字中国語	zh_TW.big5
スペイン語	es_ES.iso88591 es_ES.iso885915@euro

OVPA の情報

製品 CD に収録されている『OVO システム管理リファレンスガイド』に OVPA の情報が記載されていますが、その情報は最新のものではありません。

対処方法

次に示す HP OpenView の Web ページから最新版 (英語版) をダウンロードしてください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

ダウンロードする際は、[1. Product] ボックスで [Operations for UNIX] を選択した後、[2. Version] ボックスで [8.x] を選択してください。入手可能なドキュメントの一覧が [4. Select the product manual title, then click the "Open" button or the "Download" button] ボックスに表示されます。

MoM 環境の設定

MoM 環境設定の以下の説明は、まだ『OVO システム管理リファレンスガイド』に記述されていません。

- MoM 環境では、470 ページと 484 ページにある以下の文章を MoM 環境用に変更します。

「次のファイルをチェックします。

```
/etc/opc/OV/share/conf/OpC/respmgrs/msgforw/escmgr]
```

上記の内容を、次の文章で置き換えます。

「次のファイルをチェックします。

```
/etc/opc/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/respmgrs/msgforw
```

```
/etc/opc/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/respmgrs/escmgr]
```

- 二次 OVO/UNIX 管理サーバー用の証明書処理についての説明は、『OVO システム管理リファレンスガイド』には含まれていません。MoM 環境を設定する前に、証明書に関する MoM での留意事項について、『HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド』を参照してください。

『Service Navigator コンセプトと設定ガイド』

サービス属性の動的設定に関連する変更

サービス属性を動的に設定する場合には、以下の変更点に留意してください。

- 74 ページの以下の行

```
cp /opt/OV/OpC/examples/progs/opccustproc1 /opt/OV/bin/OpC
```

```
cp /opt/OV/OpC/examples/progs/libopccustproc1.sl /opt/OV/lib
```

これらのコマンドで使われる /opt/OV/OpC/examples/progs/opccustproc1 と /opt/OV/OpC/examples/progs/libopccustproc1.sl を、次の値で置き換えます。

```
/opt/OV/contrib/OpC/opccustproc/libopccustproc1.sl
```

- ページ 80、81、86 では、

'STN' キーワードが 'DSA' に変更になったため、すべての opcmmsg(1|3)STN を、opcmmsg(1|3)DSA で置き換える必要があります。

また、それに伴って、80 ページの以下のエントリも変更します。

— new_stn_upload.tar を dsa_upload.tar に変更

— /tmp/new_stn を /tmp/dsa に変更

— new_stn.idx を dsa.idx に変更

- 85 ページの以下の行

```
ovconfchg -ovrg <management_server> -ns opc -set OPC_CUSTPROC1_LOG TRUE
```

上記の行を以下の行で置き換えます。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_CUSTPROC1_LOG TRUE
```

Service Navigator のアップグレード方法

「Service Navigator のアップグレード方法」セクションに、OVO/UNIX 管理サーバーを起動および停止する手順の記載が漏れていました。Service Navigator のアップグレードにあたっては、以下に示す手順に従ってください。

Service Navigator をバージョン 7.xx から 8 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. サービスステータスのログ機能が有効で、サービスステータスのログを移行したい場合は、次のようにします。

- a. 次のように入力して、すべてのサービスステータスログをダウンロードします。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsvcdwn -file /tmp/svclogs
```

- b. ダウンロードデータをテープまたは別のシステムに保存します。

2. サービスとサービスログのリポジトリファイルをテープまたは別のシステムに保存します。

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opcsvcm/services
```

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opcsvcm/loggings
```

- 『OVO 管理サーバー インストールガイド』の手順に従って、OVO 管理サーバーを OVO/UNIX 8 にアップグレードします。

注記 Service Navigator は、OVO/UNIX 8 管理サーバーのインストール中に自動的にインストールされます。

- サービスステータスログをダウンロードしてある場合は、次のように入力してアップロードします。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsvcupl /tmp/svclogs
```

- 次のコマンドで OVO/UNIX 管理サーバーを停止します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsv -stop
```

- サービスとサービスログのリポジトリファイルを管理サーバー上の元の場所へ復元します。

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opcsvcm/services
```

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/opcsvcm/loggings
```

- 次のコマンドで OVO/UNIX 管理サーバーを起動します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsv -start
```

- 次のように入力して、設定とサービスの割り当てを確認します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsvservice -list
```

```
/opt/OV/bin/OpC/opcsvservice -operators
```

- オペレータ用 OVO Java GUI を OVO/UNIX 8 にまだアップグレードしていない場合は、アップグレードします。

サービスへのユーザープロファイルの割り当て

『Service Navigator コンセプトと設定ガイド』では、ユーザープロファイルをサービスへ割り当てるための説明がされていません。ユーザープロファイルをサービスへ割り当てるには、OVO/UNIX 管理サーバーでコマンド行ツール ovconfchg を使います。次のコマンドを実行します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPCSVC_CONSIDER_PROFILES TRUE
```

注記 新しいユーザープロファイルの割り当てを現在動作中の Java GUI セッションに反映させるには、[設定の再ロード] を実行します。

『Java GUI オペレータガイド』

JavaGUI Client のパッチ A.08.14 によって改良された機能がありますが、これらの機能について、『Java GUI オペレータガイド』やオンラインヘルプにはまだ説明がありません。

表 6-2 JavaGUI パッチ A.08.14

パッチ名称	管理サーバープラットフォーム	
	HP-UX	Solaris
JavaGUI Client A.08.14	PHSS_33627	ITOSOL_00451

最新の JavaGUI Client で改良された機能は以下のとおりです。

□ Java UI メッセージブラウザのカラム内容の整列

多くのメッセージフィールドでは数値を含むことができます。その数値表示を見やすくするため、カラム内容を整列する機能が追加されました。メッセージブラウザ内のメッセージカラムのヘッダでポップアップメニューを使って、カラム内容を整列し直すことができます。整列は、左揃え、右揃え、中央揃えが選択できます。111 ページの図 6-1 を参照してください。

□ メッセージブラウザのポップアップメニューからブラウザレイアウトのカスタマイズが可能

従来は、ブラウザのレイアウトをカスタマイズする機能は、メインメニューから実行していました ([表示: メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ ...])。ブラウザのレイアウトをカスタマイズする操作効率を向上させるために、メッセージブラウザから直接実行できるようになりました。この機能は、メッセージブラウザ内のメッセージカラムのヘッダでポップアップメニューを使って実行できます。111 ページの図 6-1 を参照してください。

□ メッセージフィールドのソート機能を数値にまで拡張

メッセージのソートは辞書式順序で行われていたために、数値だけのフィールドでは正しい順序でソートされないことがありました。今回はこれが改良されて数値だけで構成されるメッセージフィールドを、正しい順序でソートできるようになりました。111 ページの図 6-1 を参照してください。

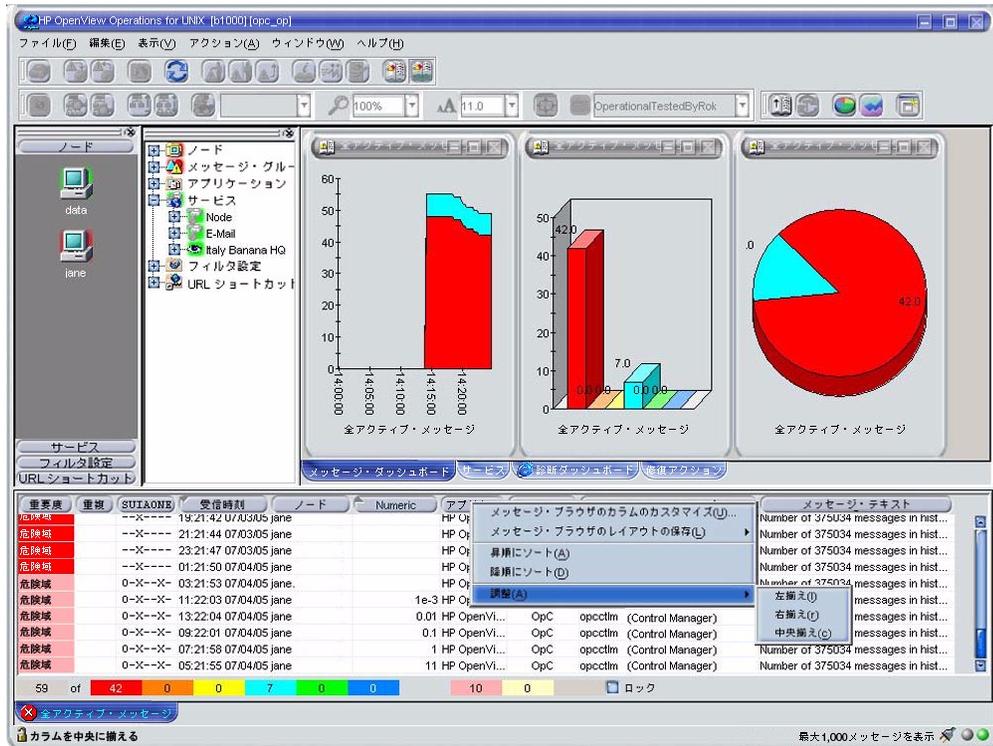
数値は整数でも浮動小数点数値でもかまいません。また、科学的表記法も許されます。メッセージフィールドの値の例は、次のとおりです。

982374 (整数)

123.045 (浮動小数点)

10e-2 (科学的表記法)

図 6-1 Java GUI の改良された機能



□ Java UI でプロキシ認証が可能

Java UI では、組み込み Web ブラウザ用にプロキシが設定できるようになりました。この設定は、[表示設定] ダイアログの [組み込み Web ブラウザの設定] タブで行うことができます。

図 6-2 プロキシ認証



□ Java UI の新しいショートカット キーの追加

Java UI に以下の新しいショートカット キーが追加されました。

- CTRL + TAB / CTRL + SHIFT + TAB* (次 / 前のワークスペースタブまで移動)
- F6 / SHIFT + F6* (次 / 前のペインまで移動)
- CTRL + / CTRL -* (すべてのグラフとカスタムマップをズームイン / ズームアウト)
- CTRL + F6 / CTRL + SHIFT + F6* (次 / 前の内部ウィンドウまで移動)
- ALT + ENTER* (選択した 1 つのメッセージと複数のサービスのプロパティダイアログの表示)
- DEL* (メッセージの受諾 (確認ダイアログ付き))
- CTRL + DEL* (選択したメッセージの受諾)
- ALT + ENTER* (選択したサービスのプロパティの表示)
- CTRL + S* (コンソール設定の保存)
- CTRL + F* (オブジェクトの検索)
- CTRL + U* (新しい URL ショートカットの追加)
- ALT + ENTER* (選択したメッセージのプロパティの表示)
- CTRL + W* (選択したメッセージの所有)
- CTRL + I* (選択したメッセージの所有解除)
- CTRL + N* (選択したメッセージに注釈を追加)
- CTRL + M* (選択したメッセージの編集)
- CTRL + P* (選択したメッセージの印刷)
- F1* (ヘルプ -> 目次)
- F5* (再表示)

□ アニメーション GIF イメージをカスタマイズ可能

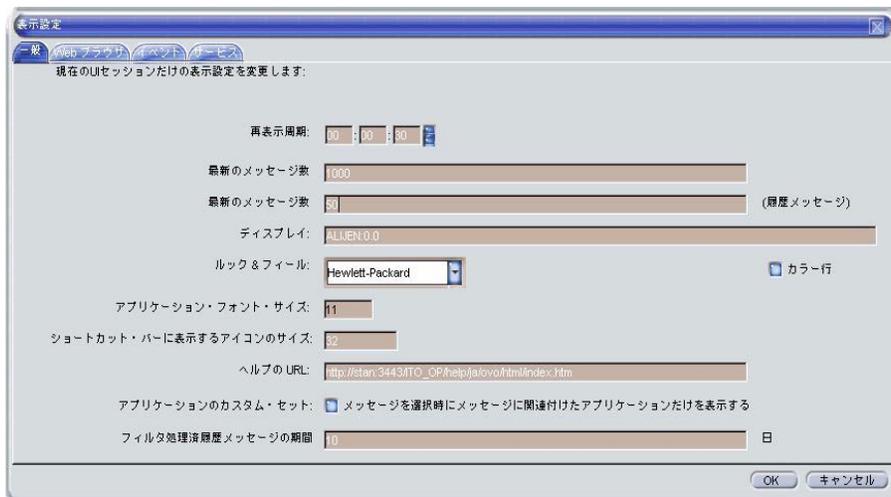
時間がかかる履歴のロード中に表示されるアニメーション "Lumberjack" GIF イメージは、カスタムイメージで置き換えることができるようになりました。イメージを置き換えるには、置き換えるイメージを "customImg.gif" という名前でユーザーのホームディレクトリに格納してください。

□ アクティブメッセージブラウザと履歴メッセージブラウザで別々にメッセージ数を指定可能

Java UI はメッセージブラウザにロードされるメッセージのデフォルトの個数を制限することができます。従来は、すべてのメッセージブラウザについて、1つの制限数しか設定できませんでしたが、今回から、アクティブメッセージブラウザと履歴メッセージブラウザのそれぞれに異なるメッセージ数が設定できるようになりました。

いずれのメッセージ数も、[表示設定] ダイアログの [一般] タブで設定できます。

図 6-3 最新履歴メッセージの個数



□ グローバルな Java UI プロパティファイルを使用可能

管理サーバーの構成ツールを使って、Java UI のグローバル設定を有効にして構成することができます。

Java UI のグローバル設定を有効にするには、OVO/UNIX 構成データベース内の変数

OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_WIN と OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_UNIX を以下のように設定します。

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_WIN <win_shared_location>
```

```
ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_UNIX  
<unix_shared_location>
```

Windows システムで動作する Java UI クライアントは、グローバルな設定を

OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_WIN 変数で指定された場所から読み取りますが、それ以外のシステムで動作するクライアントは、グローバルな設定を OPC_JGUI_GLOBAL_SETTINGS_UNIX 変数で指定された場所から読み取ります。

共有フォルダーの場所は、ローカルパス、リモートパス、または HTTP プロトコルの URL(文字列 'http:' で始まる)のいずれかで指定できます。

グローバルな設定は、その管理サーバーに接続されているすべての Java UI クライアントに適用されます。

□ 使用中のグローバル Java UI 設定を保存

Java UI のグローバルな設定が有効にされていても、すべてのユーザーで共有可能な構成ファイルの作成や変更を行うことができるようになりました。以下の制限があります。

- opc_adm ユーザーは、いつでも設定を保存することが許可されています。
- OPC_JGUI_CONF_ALLOWED_USERS 変数にコロンで区切ったリストを指定して、設定の保存が許可されるオペレータを定義します。

許可されたユーザーは設定ファイルを、グローバル設定ファイルに影響を与えることなく、ホームディレクトリに保存することができます。これらの Java UI 設定を、共通的に使うために共有の場所にコピーすることができます。

OPC_JGUI_CONF_ALLOWED_USERS 変数の設定例は以下のとおりです。

```
/opt/OV/bin/ovconfchg -ovrg server -ns opc -set ¥  
OPC_JGUI_CONF_ALLOWED_USERS user:custom_user_2
```

□ 履歴メッセージのローディングをキャンセル可能

履歴メッセージは、アクティブメッセージとは異なり、opcuiwww プロセスでキャッシュされません。メッセージは履歴ブラウザを開くたびにデータベースからダウンロードすることが必要となり、時間がかかります。メッセージブラウザがローディングを行っていると、Java GUI を他の作業のために使うことができません。また、ローディングプロセスは、進行状況が表示されないため、どれ位の時間がかかるか予測できません。

今回のリリースから、Java GUI を終了するのではなく、履歴ブラウザでローディングをキャンセルする機能が追加されました。

□ 選択したメッセージから新しい履歴フィルターを作成するためのポップアップとメニュー項目

Java GUI には、選択したメッセージ用の新しい履歴フィルターを作成するための項目が追加されました。この項目には以下のいずれかの方法を使ってアクセスできます。

- 選択したメッセージ上で右クリック (項目をポップアップ)
- メインメニューで、[アクション : メッセージ] を選択

□ メッセージブラウザのカラム内や[メッセージのプロパティ]ダイアログボックス内の URL をハイパーリンクとして表示

OVO/UNIX Java UI は、メッセージブラウザのカラムに URL をハイパーリンク付きで表示できるようになりました。ただし、フラグ、重要度、および「受信時刻」や「送信時刻」のような時刻に関連するフィールドはハイパーリンク表示できません。

また、[メッセージのプロパティ]ダイアログボックス内のメッセージ、指示、および注釈のテキスト項目でも、URL をハイパーリンク付きで表示することができます。

URL テキストが、ハイパーリンクとして表示されるには、"http://" で始まっている必要があります。

□ Java GUI のフィールドに [転送マネージャ] を追加

Java GUI には、[転送マネージャ] フィールドが用意されました。[メッセージブラウザのカラムのカスタマイズ]ダイアログでこのフィールドが選択されていれば、[メッセージのプロパティ]ダイアログとメッセージブラウザに表示されます。[転送マネージャ]カラムの整列やソート順序などを指定したブラウザ設定を保存することも可能です。

7 既知の問題と回避策

本章では、OVO ソフトウェアですでに知られている問題で、現時点までに解決できなかったものについて説明します。また、必要に応じて、推奨する回避策を示します。

重要 本書に記載の回避策では、最新のパッチレベルの状態が反映されています。最新の機能や修正を確実に利用するには、最も新しいパッチをインストールすることを強くお勧めします。

特定の問題を調べる前に、以下の項を読んでおかれるようにお勧めします。

- 28 ページの「変更された機能」
- 50 ページの「まだサポートされない機能」
- 51 ページの「サポートされない機能」
- 48 ページの「サポートが中止された機能」

注記 OVO/UNIX をインストールする前に、本章の全体を読んでください。

注記 OVO/UNIX の既知の問題と回避策の最新情報は、次の Web サイトで公開しています。

<http://support.openview.hp.com/support/> (英語)

Oracle データベースのインストールと設定

注記 Oracle 9 のバージョン 9.2.0.2 以降をすべてサポートしています。ただし、バージョン 9.2.0.4 は、問題が起きることがあります。バージョン 9.2.0.4 を使用している場合は、バージョン 9.2.0.6 へアップデートすることをお勧めします。

1. 症状 QXCR1000206911

ovoinstall: ORA-12500 メッセージが出力されて、ローカルエージェントのインストールが失敗する

インストール中またはインストール後に、コマンド行またはログファイル (/var/opt/OV/log/System.txt) に以下のエラーメッセージが表示されます。

```
" データベース・エラー: ORA-12500: TNS:listener failed to start a dedicated server process (OpC50-15) "
```

対策

次のいずれかの作業を行ってください。

- インストールされている Oracle を Oracle 9.2.0.3 以降にアップグレードする。
- ファイル initopenview.ora 内のパラメータ PROCESSES の値を次のように増やす。

```
set PROCESSES = 200
```

PROCESSES パラメータの値を増やしても解決しない場合は、initopenview.ora ファイルに次のようにパラメータ設定します。

```
_attach_count_slack = 2000
```

2. 症状 QXCR1000200753

System.txt 内に多数の「ORA-00054 resource busy」メッセージが現われる

System.txt ファイルに、「ORA-00054 resource busy」文字列を含む次のようなエラーメッセージが繰り返し現われます。

```
0: INF: Fri May 20 15:44:49 2005: opcannoadd (5307/1): [chk_sqlcode.scp:95]: Database:
ORA-00054: resource busy and acquire with NOWAIT specified
0: INF: Fri May 20 15:45:29 2005: opcannoadd (6591/1): [chk_sqlcode.scp:95]: Database:
ORA-00054: resource busy and acquire with NOWAIT specified
0: INF: Fri May 20 15:45:51 2005: opcannoadd (6644/1): [chk_sqlcode.scp:95]: Database:
ORA-00054: resource busy and acquire with NOWAIT specified
```

対策

このメッセージはプロセスがデータベースリソースにアクセスできないことを示しています。プロセスがデータベースリソースにアクセスできないと、時間をおいて再試行します。このようなメッセージが繰り返して出力される場合には、コマンドまたはプロセスのステータスをチェックしてください(特に、エラーメッセージ内で示されているコマンドまたはプロセス)。

管理サーバーのアップグレード/移行

注記 OVO 8 では、OVO A.07.1x およびそれ以降のパッチバージョンからの移行だけがサポートされません。OVO 8 管理サーバーのホスト用として選択したシステムに、これより前のバージョンの OVO がインストールされている場合には、そのインストールされた製品を完全に削除し、openview データベースインスタンスも削除する必要があります。

警告 OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO/UNIX 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO/UNIX 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

注記 OVO/UNIX を日本語環境にインストールする場合でも、ベースとなる Network Node Manager と UNIX OS-SPI のインストールダイアログは英語です。

アップグレードデータのアップロード処理

アップグレードデータのアップロード処理が OVO/UNIX 7 から OVO/UNIX 8 で大幅に変更になりました。OVO/UNIX 7 では、初期のデフォルトをロードしてから、次のコマンドでカスタムデータをアップロードしていました。

```
opccfgupld -replace -subentity
```

OVO/UNIX 8 でのアップグレード手順は、次のコマンドを使用して、ダウンロードしておいたデータをアップロードするようになりました。

```
opccfgupld -add -subentity
```

これにより、ある設定に関して、ダウンロードしておいた以前の設定で OVO/UNIX 8 のデフォルトが置き換わることはなく、存在していなかったサブエンティティのみが追加されることを意味しています。

以下に示す設定が、OVO/UNIX 7 で変更されていても、ダウンロードしたカスタムデータではなく OVO/UNIX 8 のデフォルトになります。

- アプリケーショングループのデータ (ラベルと詳細 - 割当ては維持されます)
- 管理サーバーである管理対象ノード (HTTPS エージェントにする必要があるためです)
- メッセージグループ (ラベルと詳細)
- ノードデフォルト
- ノードグループのデータ (ラベルと詳細のみ)

- 登録ノード階層。A.08.11 サーバーパッチを適用すると、コマンド `opccfgupld -add -subentity` は、登録ノードにまだないすべてのノードを正しいノードレイアウトグループにアップロードすることに注意してください。登録ノード階層は、管理サーバーノードを除き保持されます。
- テンプレートのデフォルトと既存の条件
- デフォルトユーザー (`opc_adm`、`opc_op`、`netop`、`itop`) の主要なデータ
- データベース保守の設定とリセット (監査しない、履歴のダウンロード)
- 管理サーバーのリセット (監査設定、重複の除外設定、サーバー MSI 設定、同時に実行できる分配の数)
- トラブルチケットシステムのパスのリセット (トラブルチケットなし)

必要な対処

`-replace` オプションを指定してアップロードした場合に問題となるであろうデータは、管理サーバーノードとすべてのクラスタノードです。したがって、`-add -subentity` を指定してデータをアップロードしてから、それらの管理対象ノードを除外するという条件で、`-replace -subentity` を指定してアップロードすることができます。

1. ダウンロードのインデックスファイルをコピーします (`<download-directory>/$LANG/*.idx`)。たとえば、次のように行います。

```
cp /tmp/cfgdwn/C/cfgdwn.idx /tmp/cfgdwn/C/nonodes.idx
```

2. コピーしたインデックスファイルを修正します。インデックスファイルから登録ノードのセクションを削除します。削除対象は以下の行から

```
ENTITY NODE_BANK
```

ノードデフォルトの前のセミコロン (;) までのすべてです。

```
;
```

```
ENTITY NODE_DEFAULTS *
```

さらに、`CONTENTS *` 行があれば、その行も削除対象です。

3. これで、設定をアップロードできます。`-index` オプション付きで次のコマンドを実行します。

```
opccfgupld -replace -subentity
```

例:

```
opccfgupld -replace -subentity -configured -index ¥  
/tmp/cfgdwn/C/nonodes.idx /tmp/cfgdwn
```

回避策

1. 症状 QXCR1000196910

MoM: OVO/UNIX サーバーとエージェントを OVO/UNIX 8 にアップグレードした後に、respmgrs ファイルをアップデートする必要がある

MoM 環境を OVO/UNIX 7 から OVO/UNIX 8 にアップグレードして、一部のエージェントを HTTPS エージェントに変更した場合は、次のことを考慮する必要があります。つまり、OVO/UNIX 8 管理対象ノードは OVO/UNIX 7 管理サーバーと通信できないので、エラーが発生することがあります。

対策

OVO/UNIX 7 サーバーと OVO/UNIX 8 サーバーが混在している環境では、次の 2 種類の allnodes ファイルを配布する必要があります。

- OVO/UNIX 7 および OVO/UNIX 8 管理サーバーを含む allnodes ファイル。
- OVO/UNIX 8 管理サーバーだけを含む allnodes.bbc ファイル。

OVO/UNIX 7 管理サーバーは HTTPS エージェントからの HTTPS トラフィックを処理できないため、HTTPS エージェントに配布する担当マネージャファイルに OVO/UNIX 7 管理サーバーが記述されていないことが非常に重要です。

また、次のような担当マネージャテンプレートに記述されているすべての管理サーバーに以下の条件があります。

```
/etc/op/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/respmgrs/allnodes.bbc
```

- a. 登録ノードに追加されている必要がある
- b. HTTPS に対応している必要がある (OVO/UNIX 7 以前のバージョンであってはならない)
- c. 登録ノードにコア ID が存在する必要がある

詳細は、『*HTTPS エージェント コンセプトと設定ガイド*』で allnodes.bbc という言葉を検索して調べてください。

2. 症状 QXCR1000200001

ovoremove は、アップグレードしたシステム上の一部のファイルセットを削除できない

OVO/UNIX 7.x から 8.x にアップグレードしたシステムで ovoremove を実行しても、いくつかのファイルセットが残る場合があります。

対策

ovoremove -f コマンドを使って、インストールされているファイルセットを削除します。すでにこの問題が発生していてコマンドを使用できない場合には、OVO CD1 から ovoremove -f を実行してください。

OVO/UNIX 7.10 システムのファイルセットが残っている場合は、以下のコマンドを実行して削除します。

```
swlist -l | grep -i -e ITO -e OVO  
swremove <product1> <product2> ...
```

3. 症状

エージェントタイプが認識できないノードは、設定情報のアップロード時に無視される

設定データを OVO/UNIX 管理サーバーにアップロードするときに、管理サーバーにインストールされていないエージェントプラットフォームタイプを持つ管理対象ノード、たとえば、DCE エージェントについて、エラーが表示されます。

対策

これは仕様どおりです。

しかし、既存の管理対象ノードプラットフォームのノード設定情報が失われることを避けるには、その対応する OVO/UNIX エージェントプラットフォームを OVO/UNIX 管理サーバーにインストールして、opccfgupld(1m) をもう一度実行してください。現在の DCE エージェントプラットフォームは、CD2 にあります。

```
/OV_DEPOT/HPOvOrpcClients.depot
```

デポをインストールするには、CD2 をマウントし、root ユーザーで以下のコマンドを実行してください。

```
swinstall -x mount_all_filesystems=false -s <mount point>/¥
OV_DEPOT/HPOvOrpcClients.depot ¥*
```

4. 症状 NSMbb70296

OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 にアップグレードしても、廃止されたアプリケーショングループが存在している

OVO 07.10 から OVO 8 にアップグレードしても、いくつかの廃止されたアプリケーショングループが [登録アプリケーション] に存在しています。たとえば、[MetaFrame ツール] です。通常、これらのアプリケーショングループは、新しい製品で置き換えられます。廃止されたグループの OVO アプリケーションは動作しない場合があります。カスタマイズを行っていない場合には、これらのアプリケーショングループは削除できます。しかし、これらのグループにアプリケーションを追加している場合には、廃止されたグループを削除する前に、これらのアプリケーションを適切な OVO 8 のアプリケーショングループに移動してください。

OS-SPI で使われる新しいアプリケーショングループの詳細については、44 ページの表 1-10 「OS-SPI アプリケーションの対応表」を参照してください。

以下のアプリケーショングループが置き換えられ、廃止されました。

- GlancePlus
- Jovw
- OV Performance
- レポート
- VERITAS

以下のアプリケーションも、提供されなくなりました。

アプリケーション	ラベル

/Net Activity/Interface Statistics	: I/F 統計
/OV Services/OV CDP View	: CDP ビュー

対策

アプリケーションを削除するには、以下の手順を実行します。

- a. アプリケーションまたはアプリケーショングループを右クリックします。
- b. [削除...] を選択します。

5. 症状 NSMbb70285

OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 にアップグレードしても、[VPO 状態] アプリケーションが存在する

OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 にアップグレードしても、登録アプリケーションに 1 つの [OVO 状態] アプリケーションと、1 つの [VPO 状態] アプリケーションが残されます。

対策

[VPO 状態] アプリケーションを削除するには、以下の手順を実行します。

- a. [VPO 状態] アプリケーションを右クリックします。
- b. [削除] を選択します。

6. 症状 QXCR1000196891

OVO/UNIX 7 から OVO/UNIX 8 への移行のための Service Navigator Value Pack 要件

OVO/UNIX 7.x の opcsvinfo ファイルにリストされているパラメータは Service Navigator Value Pack で使われるので、OVO/UNIX 8.x の OVconf、ovrg サーバー、名前空間 opc に移行する必要があります。

対策

次の 2 つの必要なパラメータを作り直します。

```
OPCSVCM_MSGSVSNAME_DEFAULT
```

```
OPCSVCM_FILESYSTEM_SOCKET
```

作り直すために次のコマンドを実行します。

```
cadmactivate -d
```

```
cadmactivate
```

7. 症状 QXCR1000139398

OVwModifySubmap: 「サブマップへのパーミッションがありません。」のエラーメッセージ

OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 へアップグレードした後で初めて Motif GUI を起動すると、Motif GUI を起動したシェルの stderr に以下のエラーメッセージが表示されます。

```
OVwModifySubmap: サブマップへのパーミッションがありません。
```

対策

このエラーメッセージは、無視してかまいません。

OVO 8.0 からの管理サーバーのアップグレード / 移行

注記 OVO 8 では、OVO A.07.1x およびそれ以降のパッチバージョンからの移行だけがサポートされません。OVO 8 管理サーバーのホスト用として選択したシステムに、これより前のバージョンの OVO がインストールされている場合には、そのインストールされた製品を完全に削除し、openview データベースインスタンスも削除する必要があります。

警告 OVO 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

OVO/UNIX 管理サーバーの新規インストール

注記 OVO 8 では、クリーンシステムへのインストールと、OVO A.07.x からの移行だけがサポートされます。OVO 8 管理サーバーのホスト用として選択したシステムに、これより前のバージョンの OVO がインストールされている場合には、そのインストールされた製品を完全に削除し、openview データベースインスタンスも削除する必要があります。

警告 OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

注記 ovoinstall は、CD のマウントポイントから実行しないでください。

注記 OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 へ移行する前に、Java UI とすべての DCE エージェントの OVAS 機能を完全に無効にする必要があります。

注記 OVO/UNIX を日本語環境にインストールする場合でも、ベースとなる Network Node Manager と UNIX OS-SPI のインストールダイアログは英語です。

注記 Hummingbird Exceed を使う場合には、XDMCP には Exceed XDMCP Query を設定してください。

新規インストール

HP-UX 11.0 システムの場合

1. 『管理サーバーインストールガイド(HP-UX)』の説明に従って、DCE-KT-TOOLS とその他必要なソフトウェアパッケージのすべてをインストールします。
2. 以下のコマンドを使って、OVO CD4 のパッチバンドル 1 をインストールします。

```
# swinstall -x autoreboot=true -x patch_match_target=true -s ¥  
<CD mount point>/patches_HPUX11.00_1.depot
```

3. システムをリブートした後、以下のコマンドを使って、OVO CD4 のデポ 2 にあるパッチバンドル 2 をインストールします。

```
# swinstall -x autoreboot=true -x patch_match_target=true -s ¥  
<CD mount point>/patches_HPUX11.00_2.depot
```

4. インストールガイドに従って、OVO のインストールを継続します。

HP-UX 11.11 システムの場合

1. 『管理サーバーインストールガイド(HP-UX)』の説明に従って、必要なソフトウェアパッケージをインストールします。
2. 以下のコマンドを使って、OVO CD5 のパッチバンドル 1 をインストールします。

```
# swinstall -x autoreboot=true -x patch_match_target=true -s ¥  
<CD mount point>/patches_HPUX11.11.depot
```

3. インストールガイドに従って、OVO のインストールを継続します。

インストール時の問題の回避策

1. 症状 QXCR1000281779

opclib: AutoPass 5.02 GUI 機能の呼び出しが動作しない

opclib は AutoPass 5.02 と連動できません。検索パスに JRE がないのが原因です。

対策

現時点では有効な回避策がありません。

2. 症状 QXCR1000213326

ovoinstall: 台湾用に推薦の NLS で誤ったテキストが出力される

台湾語環境への OVO/UNIX 管理サーバーのインストール時に、NLS_LANG として GBK を推薦しているにもかかわらず、BIG5 を使用するべきである旨のメッセージが表示されます。

対策

上述のメッセージは無視して、NLS_LANG は GBK でインストールしてください。

3. 症状 QXCR1000202026

CC マウントで ovoinstall を実行中に expr エラーが発生する

ovoinstall でのディスクスペースチェック中に、expr エラーが表示されます。

対策

この問題はファイルシステムのローカルマウント (lofs) が理由で発生します。該当のファイルシステムに対するディスクスペースの計算が正しくないことと、エラーが表示されるという外見上の問題を除いて、このエラー表示は無視してかまいません。

4. 症状 QXCR1000195500

/var/opt がシンボリックリンクの場合には、OVO/UNIX 管理サーバーのインストールが失敗する

ディレクトリ /var/opt/OV または /var/opt がシンボリックリンクの場合には、OVO/UNIX 管理サーバーのインストールは失敗します。

対策

/var/opt/OV と /var/opt は、ローカルディレクトリである必要があります。

5. 症状 QXCR1000202915

OVO 管理サーバーのインストール後に ovtrcd が実行されていない

OVO 管理サーバーのインストールが終わった後に、ovtrcd が実行されていません。

対策

次のコマンドを使って、ovtrcd を手動で起動します。

```
/opt/OV/lbin/xpl/trc/ovtrcd
```

6. 症状 QXCR1000135085

swverify のエラーメッセージ

swverify で、既にインストール済みのソフトウェアに対して多くのエラーがレポートされます。

対策

これらのエラーメッセージは、無視してかまいません。

7. 症状 QXCR1000199175

OVO/UNIX のインストールが NIS 環境で失敗する

ypbind (NIS バインダプロセス) が実行されていて、NIS 環境が設定されていない場合には、opcgrp グループが作成されず、OVO/UNIX サーバーのインストールは失敗します。

対策

NIS または NIS+ を使う予定がある場合には、OVO/UNIX サーバーをインストールするシステムでは、NIS 環境または NIS+ 環境を正しく構成して、NIS プロセスまたは NIS+ プロセスを実行しておく必要があります。または、OVO/UNIX サーバーのインストールを開始する前に、ypbind や rpc.nisd などのすべての NIS プロセスまたは NIS+ プロセスを停止しておく必要があります。

8. 症状 QXCR1000225221

ovoinstall スクリプトで HP-UX 11.23 PA-RISC システムにインストール時にローカルエージェントがインストールされない

HP-UX 11.23 PA-RISC システムに OVO/UNIX サーバーをインストールしても、ローカルエージェントは自動的にインストールされません。

対策

OVO/UNIX サーバーのインストール後、ローカルエージェントを OVO 管理者の GUI を使ってインストールする必要があります。

HA 環境への OVO/UNIX 管理サーバーの新規インストール

ヒント OVO/UNIX 管理サーバーをクラスタ環境にインストールする場合は、インストール前に、『OVO DCE エージェント コンセプトと設定ガイド』の「クラスタ環境での OVO 管理サーバーの管理」の章を参照してください。クラスタ環境で OVO/UNIX を使う場合の概念や使用方法、トラブルシューティング等の情報が記載されています。

注記 OVO/UNIX 8 では、クリーンシステムへのインストールと、OVO/UNIX 7.1 以降のバージョンからの移行だけがサポートされます。OVO/UNIX 8 管理サーバーのホスト用として選択したシステムに、これより前のバージョンの OVO/UNIX がインストールされている場合には、そのインストールされた製品を完全に削除し、openview データベースインスタンスも削除する必要があります。

注記 ovoinstall は、CD のマウントポイントから実行しないでください。

警告 OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO/UNIX 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO/UNIX 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

注記 OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 へ移行する前に、Java UI とすべての DCE エージェントの OVAS 機能を完全に無効にする必要があります。

注記 OVO/UNIX を日本語環境にインストールする場合でも、ベースとなる Network Node Manager と UNIX OS-SPI のインストールダイアログは英語です。

1. 症状 AutoPass

HA 環境のサーバーへのライセンスパスワードのインストール

OVO/UNIX 8 には OVO AutoPass コンポーネントが統合されていて、そのライセンスを管理しています。このコンポーネントによってライセンスパスワードがインストールされ、検査され、管理されます。このパスワードは、通常、HA 環境の共有されない場所に格納されます。また、AutoPass は、仮想 IP アドレスではなく、ローカル IP アドレスを使用します。したがって、OVO のライセンスパスワードはすべてのクラスタノードごとに取得して、各クラスタノードにインストールする必要があります。

対策

HA 環境の場合には、すべてのクラスタノードの物理 IP アドレスに対応して OVO のライセンスパスワードを要求、取得して、そのパスワードを該当するクラスタノードにインストールしてください。

2. 症状 QXCR1000237219

VCS 3.5 環境下の OVO 8.10 でフェイルオーバーが発生する

A.08.11 管理サーバーのパッチまたはその後継パッチをインストールしていない OVO 8.10 では、VERITAS Cluster 3.5 (Maintenance Pack 1 または 2 を使用) 環境下で OVO 構成フェーズ中に、フェイルオーバーが発生します。

対策

OVO 管理サーバーをインストールして構成するときにサーバーパッチをインストールしていなかった場合には、以下の手順を実行して、フェイルオーバーを回避する必要があります。

- a. HA リソースグループの OVO 管理サーバーを、次のコマンドを使って停止します。

```
/opt/OV/bin/ovharg_config ov-server -stop <hostname>
```

分離型管理サーバー構成では、次のコマンドも実行します。

```
/opt/OV/bin/ovharg_config ov-oracle -stop <hostname>
```

- b. 構成ユーティリティを開始します。

```
/opt/VRTSvcs/bin/haconf -makerw
```

- c. リソースを変更します。

```
/opt/VRTSvcs/bin/hares -modify ov-application CleanProgram"/opt/OV/lbin/ovharg -stop ov-server"
```

分離型管理サーバー構成では、次のコマンドも実行します。

```
/opt/VRTSvcs/bin/hares -modify ov-oracle-application CleanProgram  
"/opt/OV/lbin/ovharg -stop ov-oracle"
```

- d. 構成ユーティリティを終了します。

```
/opt/VRTSvcs/bin/haconf -dump -makero
```

- e. OVO 管理サーバーを HA リソースグループとして起動します。

```
/opt/OV/bin/ovharg_config ov-server -start <hostname>
```

分離型管理サーバー構成で、次のコマンドも実行します。

```
/opt/OV/bin/ovharg_config ov-oracle -start <hostname>
```

注記

上記の手順は、opccnfig を実行したときに OVO 8 管理サーバーパッチをインストールしていなかった場合にだけ、実行する必要があります。opccnfig の実行時に A.08.11 または後継の管理サーバーパッチをインストールしていた場合には、この手順に従う必要はありません。ただし、opccnfig を実行した後で、管理サーバーパッチをインストールしても、問題は解決しません。

HA 環境での OVO/UNIX 管理サーバーのアップグレード

ヒント OVO/UNIX 管理サーバーをクラスタ環境にインストールする場合は、インストール前に、『OVO DCE エージェント コンセプトと設定ガイド』の「クラスタ環境での OVO 管理サーバーの管理」の章を参照してください。クラスタ環境で OVO/UNIX を使う場合の概念や使用方法、トラブルシューティング等の情報が記載されています。

注記 OVO/UNIX 8 では、クリーンシステムへのインストールと、OVO/UNIX 7.1 およびそのパッチバージョンからの移行だけがサポートされます。OVO/UNIX 8 管理サーバーのホスト用として選択したシステムに、これより前のバージョンの OVO/UNIX がインストールされている場合には、そのインストールされた製品を完全に削除し、openview データベースインスタンスも削除する必要があります。

警告 OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、HTTPS エージェントをインストールする必要があります。OVO/UNIX 8 管理サーバーシステムには、DCE/NCS エージェントをインストールしないでください。DCE/NCS エージェントを OVO 管理サーバーシステムにインストールすると、システムにダメージを与える恐れがあります。

HTTPS エージェントを OVO/UNIX 7 管理サーバーシステムにインストールしないでください。OVO/UNIX 7 は、HTTPS エージェントと通信することができません。HTTPS エージェントのインストールを試行するとシステムにダメージを与える恐れがあります。

注記 ovoinstall は、CD のマウントポイントから実行しないでください。

注記 OVO/UNIX 7.1 から OVO/UNIX 8 へ移行する前に、Java UI とすべての DCE エージェントの OVAS 機能を完全に無効にする必要があります。

注記 OVO/UNIX を日本語環境にインストールする場合でも、ベースとなる Network Node Manager と UNIX OS-SPI のインストールダイアログは英語です。

1. 症状 QXCR1000139026

ノードタイプ (DCE または HTTPS) を変更するときはすべてのクラスタノードを変更する必要がある

OVO/UNIX 8 で仮想ノードを使う場合には、すべてのノード (物理ノードと仮想ノード) が同じプラットフォームタイプ (DCE / HTTPS) である必要があります。

DCE から HTTPS へのアップグレード時には、エージェントタイプの変更を極めて短い時間内 (数分以内) に行う必要があります。

注記 すべてのエージェントタイプは移行後も同じである必要があります。

管理サーバーの実行時

1. 症状 QXCR1000280623

デフォルトのテンプレート SNMP Traps (NNM 7.5) が見つからない

注記 この問題は NNM 7.5 を使っている場合にだけ発生します。

サーバーのインストールが正常に終了した後で、すべてのデフォルトのテンプレートがインストールされ、[デフォルト]テンプレートグループにアップロードされます。その中で1つのテンプレートは次の名前を持っています。

SNMP Traps (NNM 7.01)

このテンプレートはインストール後にローカルエージェントノードに割り当てられて分配される管理サーバーのテンプレートグループにも含まれています。

対策

カスタマイズしていない標準の OVO/UNIX トラップテンプレートだけを使っていた場合には、下記に示す手順で、新しいテンプレートを生成し、そのテンプレートを NNM 7.5 トラップをインターセプトするノードに割り当てます。

カスタマイズした OVO/UNIX トラップテンプレートを使っている場合には、下記に示す手順で、新しいテンプレートを生成し、そのテンプレートに新しいトラップ条件を手作業で追加します。

標準およびカスタマイズした OVO/UNIX トラップテンプレートについて、次のように新しいテンプレートを生成します。

- a. 次のコマンドを実行します。

```
# if [ -z "$LANG" ]  
then  
export LANG=C  
fi
```

- b. 次のファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。

```
/etc/opt/OV/share/conf/$LANG/trapd.conf
```

次の2つのコマンドを入力します。

```
# cd /tmp  
# cp /etc/opt/OV/share/conf/$LANG/trapd.conf .
```

- c. 次のように入力して、ovtrap2opc スクリプトを実行します。

```
# /opt/OV/bin/OpC/utils/ovtrap2opc -agtmsi_divert -svmsi_divert ¥  
-msgtype trapd.conf "SNMP 7.5 Traps" NNM7.5_SNMP_TRAPS
```

標準の OVO/UNIX トラップテンプレートを使っている場合には、以下の手順で生成したテンプレートと置き替える必要があります。

- a. スクリプトからこのテンプレートをデータベースにアップロードするかどうかについてプロンプトが表示されたら、次のように応答します。

y

- b. この新しいテンプレートを適切なノードに割り当てます。適切なノードとは、通常は、OVO エージェントがインストールされていて NNM 7.5 が動作中のノードと、管理サーバーです。
- c. 新しいテンプレートを上記のノードに分配します。

カスタマイズした OVO/UNIX トラップテンプレートを使っている場合には、以下の手順で既存のトラップテンプレートを新しいデータでアップデートする必要があります。

- a. スクリプトからこのテンプレートをデータベースにアップロードするかどうかについてプロンプトが表示されたら、次のように応答します。

n

- b. カスタマイズしたトラップテンプレートを次の手順でダウンロードします。
 1. [アクション：サーバー -> 設定のダウンロード -> テンプレート ...]
[ダウンロードするテンプレートを選択] ウィンドウが表示されます。
 2. [選択したテンプレート] をチェックします。
 3. カスタマイズしたトラップテンプレートを選択します。
 4. このテンプレートを矢印ボタンを使って、[選択したテンプレート] リストボックスに移動させます。
 5. [OK] をクリックして、テンプレートをダウンロードします。
- c. ダウンロードが終了したら、ovtrap2opc ツールを使って生成した新しい trap.dat ファイルの新しいトラップ条件を、元の trap.dat ファイルに追加します。

trap.dat ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

```
/var/opt/OV/share/tmp/OpC_appl/cfgdwn
```

[設定データのダウンロード] ウィンドウで、パスの確認を行います。

次の場所にある新しく生成された trap.dat ファイルで、新しいトラップ番号を調べます。

```
/var/opt/OV/share/tmp/OpC_appl/snmp_7.5/$LANG/TEMPLATES/TRAP/trap.dat
```

カスタマイズした trap.dat ファイルに条件テキストを追加し、保存します。

- d. カスタマイズした trap.dat ファイルを、opccfgupld を使ってアップロードします。
- e. このテンプレートを分配します。

2. 症状 QXCR1000229432

OVO/UNIX 8 から OVO/UNIX 7 へのメッセージ転送ポリシーを配布するとエラーになる

メッセージを OVO/UNIX 8 管理サーバーから OVO/UNIX 7 管理サーバーへ転送するためのメッセージ転送ポリシーを作成すると、OVO/UNIX 7 管理サーバーは、OVO/UNIX 8 管理サーバーの登録ノードに、DCE ノードとして追加されます。このポリシーを OVO/UNIX 8 管理サーバーに配布すると以下のエラーが表示されます。

担当マネージャファイルからのノード testnode には通信タイプ HTTPS が必要です。したがって、HTTPS ノードに必要な担当マネージャファイルを変換 / 分配できません。詳細は、指示文を参照してください。

(OpC20-3182)

OVCoreID を持たない OVO/UNIX 7 ノードが OVO/UNIX 8 管理サーバーの mgrconf ファイルで定義されていると、mgrconf ポリシーの変換は失敗します。OVO/UNIX 8 管理サーバーでは、mgrconf ファイルに OVO/UNIX 8 ノードだけが定義されていることを前提にしています。

対策

OVO/UNIX 8 管理サーバーで、空または制限付きの mgrconf ファイルを、既存の allnodes ファイルとは別に allnodes.bbc という名前で作成します。HTTPS ノードに対しては allnodes.bbc ファイルが使われ、DCE ノードに対しては allnodes が使われます。すべての管理サーバーを HTTPS 通信を使うようにアップグレードすると、allnodes.bbc ファイルは不要になります。

3. 症状 QXCR1000214318

高可用性クラスタで動作している OVO/UNIX 管理サーバーで ovpolicy コマンドを使ったリモートポリシーの一覧表示に失敗する

クラスタ化された管理サーバーからリモートノードに対してポリシーの一覧表示を試みると、リモートノードから不正な CoreID エラーメッセージが返されます。

たとえば、OVO 管理サーバーで次のようにコマンドを入力するとします。

```
ovpolicy -list -node <remote node>
```

その結果、リモートノードから次のようなエラーが返されます。

エラー： (conf-570) ホスト 'rzhptest' 上の設定サーバーからそのポリシー操作の許可を得ることができませんでした。要求した操作の実行がローカルホストに許可されているかどうかを調べてください。

(conf-143) ホスト 'rzhptest' 上では、ポリシーの一覧表示が許可されていません。

(conf-176) ID が '9208ee9e-f934-7508-1947-f2ee7dfab937' の送信者には、ポリシーの一覧表示を実行する権限がありません。

対策

インストール済ポリシーの照会は、リモートノードでローカルに行ってください。

4. 症状 QXCR1000201297

OVO/UNIX アドオンのインストールに失敗する

OVO/UNIX 管理サーバーシステムに、次のディレクトリが存在しない場合には、OVO/UNIX アドオン、たとえば、Smart Plug-In のインストールに失敗します。

```
/var/opt/OV/shared/server/installation/temp
```

対策

以下のコマンドを使って、ディレクトリを作成します。

```
mkdir /var/opt/OV/shared/server/installation/temp
```

5. 症状 QXCR1000200633

ログファイルのエントリーを eucJP から SJIS に変換できない

以下のメッセージが、OVO メッセージブラウザに表示されます。

(OpC30-138)

ログファイルエントリーを変換できません。

(OpC20-274)

"eucJP" から "SJIS" への文字コード変換に入力された文字が無効です。

対策

すべてのログファイルテンプレートの文字セットは、現在のロケールの文字セットに対応して変更する必要があります。これは Motif GUI の [メッセージソースのテンプレート] ウィンドウを使って変更します。このテンプレートを以前に配布したことがある場合には、変更したテンプレートを再配布します。

6. 症状 QXCR1000138782

2 つのテンプレートから、同じ Cron メッセージが生成される

以下のメッセージソーステンプレートから、常に、同じ Cron メッセージ (1 つは英語で、もう 1 つは日本語) が生成されます。

日本語のメッセージ

Default: Solaris テンプレートグループ内の Cron (Solaris)

メッセージ 'cron|at|batch command failed' の検出

英語のメッセージ

Operating System SPIs: SOLARIS: QuickStart Solaris Policies テンプレートグループ内の
OSSPI-SOL-Cron_1

```
fetch 'cron|at|batch command failed.'
```

対策

これらのメッセージのうち、1 つだけをブラウザに表示させる複数ソースの ECS コリレータを作成してください。

または、

両方のテンプレートをすべてのノードに配布する場合には、いずれかのテンプレートの条件を除外してください。

7. 症状 QXCR1000187322

2000 文字の長さを超えた名前を持つアプリケーションを呼び出すと失敗する

説明では最大 4000 文字の長さの名前を持つアプリケーションを呼び出すことができるようになっていますが、実際には 2000 文字の長さを超えた名前を持つアプリケーションを登録アプリケーションに追加しようとすると、GUI でエラーが発生します。

対策

現状では完全な解決策がありません。この問題を避けるには、アプリケーション呼び出しは、2000 文字の長さまでにしてください。

8. 症状 QXCR1000137448

opcragt -status コマンドが、メッセージがエージェントによってバッファリングされているかどうかをレポートできない

管理対象ノードでは、エージェントが OVO サーバー向けのメッセージをバッファリングしているかどうかを判断できない場合があります。

対策

この情報を取得するには、OVO 管理サーバーで次のコマンドを実行します。

```
opcragt -status <hostname>
```

管理サーバーの削除

1. 症状 QXCR1000195544

HP OvXpl パッケージの削除中にエラーが発生する

NNM パッケージの削除も含めて ovoremove を実行した後も、HP OvXpl がディスクに残ったままになっています。これは、pkginfo または swlist を使って確認できます。

対策

ユーザー root で、以下のコマンドを使ってファイルを手動で削除してください。

HP-UX の場合 `swremove HP OvXpl`

Solaris の場合 `pkgrm HP OvXpl`

2. 症状 QXCR1000138928

ovoremove を実行しても、OS-SPI スクリプトが残る

OS-SPI を削除しても、多くの OS-SPI スクリプトが次のディレクトリツリーに残ったままです。

```
/var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/customer/...
```

対策

以下のコマンドを実行してすべての OS-SPI 関連のプログラムを削除します。

```
find /var/opt/OV/share/databases/OpC/mgd_node/customer -name ￥  
osspi_* -type f | xargs rm
```

3. 症状 QXCR1000103467

「ITOEngSvcNav が見つかりません。」というエラーが表示される

ovoremove710.sh を実行すると、次のエラーメッセージが表示されます。

ITOEngSvcNav が見つかりません。

対策

このエラーメッセージは、無視してかまいません。

4. 症状 QXCR1000192526

OVO 7.10 からアップグレードしたシステムで NNM の削除に失敗する

ovoremove710.sh を使って 7.x からアップグレードした OVO 管理サーバーで、OVO 管理サーバーを ovoremove を使って削除する場合、NNM の削除に失敗します。

対策

ovoremove を実行する前に、swremove を使って以下の製品を手作業で削除します。

```
ITODevEngOra  
ITODevJpnOra  
ITOEngOraAll  
ITOEngOraAllUp  
ITOEngOraMin  
ITOEngOraMinUp  
ITOSymInt
```

HTTPS 管理対象ノードのインストール

注記 新しく管理対象ノードをインストールするたびに、新しいインストール キーを使ってください。以前に使ったインストール キーを再び使うと、エラーメッセージは表示されませんが、管理対象ノードへの接続が不十分になります。

1. 症状 QXCR1000202565

ノードのタイプ/プラットフォームを変更しても、以前のパラメータが残る

登録ノードにあるノードのマシントイプ/プラットフォームを変更しても、元のタイプ/プラットフォームで有効だったパラメータが残ったままです。たとえば、[周期]や[実行者]が残ったままです。そのため、インストールは失敗します。たとえば、ノードタイプを UNIX から Windows に変更しても、[実行者]フィールドは、root から Administrator に変更されません。

対策

Motif GUI でコンピュータのタイプ/プラットフォームを UNIX から Windows に変更した後で、[実行者]フィールドを、root から Administrator に変更してください。

2. 症状 QXCR1000204686

通信ブローカが Windows XP SP2 の Windows ファイアウォールに登録されない

Windows XP SP 2 システムに OVO HTTPS エージェントをインストールするときに、通信ブローカ (ovbbccb) が Windows ファイアウォールに登録されないため、証明書のインストールが失敗します。このため、すべての HTTPS 通信が失敗します。

この状態は、OVO/UNIX 管理サーバーシステムで次のコマンドを実行すると確認できます。

```
bbcutil -ping <node>
```

対策

通信ブローカ (ovbbccb) を手動で登録します。

- a. [コントロール パネル-> Windows ファイアウォール]を開きます。
- b. [例外] タブを開きます。
- c. [プログラムの追加 ...] をクリックします。

[参照] ボタンをクリックして、<OV InstallDir>%bin%ovbbccb.exe を選択します。

- d. [OK] をクリックします。

これで、bbcutil -ping <node> コマンドが成功するようになるはずです。

注記 SNMP トラップのインターセプトを行う場合で、SNMP_SESSION_MODE が NNM_LIBS に設定されている場合は、ファイアウォールで SNMP トラップの受信も有効にする必要があります。

- a. [例外] タブで <OVO installDir>%bin%eaagt%opctrapi.exe を選択します。
 - b. [OK] をクリックします。
-

3. 症状 QXCR1000135982**インストールサーバーを使った Windows エージェントのインストールは、非同期に完了する**

インストールサーバーを使って Windows システムに HTTPS エージェントをインストールすると、OVO/UNIX 管理サーバー上のインストールウィンドウに次のように表示されます。

[...]

第 3 段階：管理用エージェントパッケージの分配（または削除）。

=====

----- <ターゲットノード名> -----

この後、インストールをしているユーザーには進捗状態が表示されませんが、インストールはバックグラウンドで継続しています。最終的には、OVO/UNIX 管理サーバー上のインストールスクリプトは、ターゲットシステム上で起動した OVO/UNIX エージェントに接続することに成功するか、タイムアウトするかのみです。

対策

上記のいずれかの事象が起こるまで待ちます。また、ターゲットノードで msisexec プロセスを監視するか、%SystemRoot%\Temp\opc_inst.log の OVO/UNIX エージェントのインストールログファイルを表示して、インストールの進捗状況を調べることもできます。

4. 症状 QXCR1000135861**インストールサーバーを使って Windows エージェントをインストールした後に、新しいシェルでパスの問題が発生する**

インストールサーバーを使って Windows エージェントをインストールした後に、新しいシェルを起動しようとすると、パス関連の問題が発生して、OV コマンドが何も見つかりません。

インストール中に、システム環境は <InstDir>/bin と <InstDir>/bin/OpC によって拡張されます。

[コントロール パネル -> システム -> 詳細設定 -> 環境変数] を開くと、これらのパスはシステム環境変数 PATH に存在しますが、Windows の問題のため、PATH の変更が他のプログラムに反映されません。

この特殊な状態を確認するには、新しいコマンドシェルを起動して、次のコマンドを入力します。

ovc

このコマンドが見つかり、正常に動作する場合は、問題ありません。このコマンドが見つからない場合は、コントロールパネルのシステム PATH を確認し、以下の対策を行ってから再試行します。

対策

[コントロール パネル -> システム -> 詳細設定 -> 環境設定] を開いて、<InstDir>/bin と <InstDir>/bin/OpC を含むようにシステムパスを変更します。次に、[OK] をクリックします。

これにより、PATH の変更が他のプログラムに反映されます。OVO/UNIX のパスコンポーネントがすでに存在する場合は、セミコロンを追加するなど、他の簡単な変更を行ってください。

5. 症状 QXCR1000134895**HTTPS エージェントをインストールしているときに、意図しないポップアップウィンドウが表示される (opcnodetimestamp)**

新しいエージェントをリモートコンピュータに配布した後で、メッセージウィンドウに以下のメッセージが表示されます。

The configuration of the Node Bank has changed. Please restart your session.

対策

このエラーメッセージは、無視してかまいません。登録ノードは実際には何も変更されていません。

6. 症状 QXCR1000203378

Windows HTTPS エージェントを DCE エージェントに変更すると、HTTPS のインストールディレクトリが残る

管理対象ノードのプラットフォームを IP Network Intel x86 (HTTPS) MS Windows から IP Network Intel x86 MS Windows (HTTPS から DCE) に変更するときに、デフォルト以外のインストールディレクトリが設定されていると、インストールディレクトリが正しく処理されず、次のメッセージが表示されて、その後の OVO/UNIX エージェントソフトウェアのインストールが失敗します。

```
C:¥Inetpub¥ftproot¥temp>opc_inst
I-> セットアッププログラム開始 (初期前)。
T-> 情報のトレース : Tracing to C:¥WINDOWS¥temp¥inst.log 。
I-> 10/26/2004 09:34:10 にセットアッププログラム開始 (しばらく時間がかかります)。
T-> Tracing information: The installation of the user will not be forced.
T-> Tracing information: Installing agent version: A.07.25 .
I-> 宛先ドライブは NTFS ではありません。セットアップは中止されます。
E-> FindSetupDrive からのエラー。
E-> セットアッププログラム終了。
E-> INSTALLATION ABORTED
```

次に、Windows システムのファイル <ftp root>¥temp¥opcsetup.inf に次の記述が書き込まれます。

```
[Setup Drive]
<HTTPS 用に設定したインストールディレクトリ >
```

たとえば、次のとおりです。

```
[Setup Drive]
C:¥ovo-agt
```

対策

HTTPS から DCE に切り替える **前**に、[通信オプション] ウィンドウでインストールディレクトリを消去してください。これにより、データベースが正しくアップデートされます。これで、インストールドライブフィールドが設定され、正しく変更されます。

または、opcsetup.inf 内の設定を、たとえば次のように修正します。

```
[Setup Drive]
C:
```

7. 症状 QXCR1000131758 と QXCR1000132001

HTTPS エージェントの手動インストール: OVO/UNIX 管理サーバーにアクセスできないとエージェントはアクティブにならない

手動インストール中に、以下のメッセージが表示されます。

```
注記 : opcactivate ユーティリティを起動中です。
ERROR: Server ... and/or BBC CB on server not reachable
```

対策

エージェントのレポートの送信先となる管理サーバーは、以下の呼び出しを実行する場合に動作中である必要があります。

- `opc_inst -s <mgmt server>`
- `opcactivate -s <mgmt server>`

8. 症状 QXCR1000139502

非 root エージェントで OS-SPI サービス検出を実行中に問題が発生する

SPI がエージェントに分配される際には、ディレクトリ `/var/opt/OV/SPISvcDisc` は存在しません。そのため、このディレクトリのパーミッションが `ovswitchuser.sh` が呼び出しによって変更できません。これが非 root の HTTPS エージェントで SPI サービス検出を実行しているときに問題が発生する原因になります。

対策

この問題への対策としてスクリプトが用意されています。 `ovswitchuser.sh` によって OVO/UNIX エージェントを実行するユーザーを変更する前に、このスクリプトを実行する必要があります。HP-UX、Solaris または Linux の HTTPS 管理対象ノードで `ovswitchuser.sh` を実行する前に、以下のコマンドを実行してください。

```
/var/opt/OV/bin/instrumentation/ovcreatedirs.sh
```

`ovswitchuser.sh` を使ってエージェントをさらに別のユーザーに切り替える場合でも、このスクリプトは、1 つのノードでは 1 度だけ実行しておけば十分です。

9. 症状 QXCR1000137734

OS-SPI ツールには、Linux Red Hat Advanced Server 2.1 では動作しないものがある

Red Hat Advanced Server 2.1 の HTTPS 管理対象ノードで次のアプリケーションを起動しようとする、以下のエラーメッセージが表示されます。

- Disk Space
- Print Status
- Processes

エラーメッセージ:

```
警告 opcacta (Action Agent) (29597) : 現在のワークディレクトリをユーザー opc_op のディレクトリ /home/opc_op に移動できません。
```

```
パーミッションがありません。(OpC20-53)
```

ホームディレクトリに、0755 (大部分の UNIX システムでのデフォルト) ではなく 0700 のパーミッションが設定されている可能性があります。

対策

Red Hat Advanced Server 2.1 の HTTPS 管理対象ノードで、次のコマンド行 コマンドでユーザーを `opc_op` に変更できるか試してみてください。

```
su opc_op
```

パーミッションに問題があって失敗する場合には、ユーザー `root` で以下のコマンドを実行してください。

```
chmod -R 755 /home/opc_op/
```

これでアプリケーションが動作するようになるはずです。

10. 症状 QXCR1000136922

Turbolinux ES 8J でエージェントのインストールが失敗する

Turbolinux ES 8J システムで、エージェントのインストールが失敗します。これは、Turbolinux ES 8J では手動インストールのみがサポートされるためです。

対策

管理対象ノードに、パッケージ、パッケージ記述子、および `opc_inst` スクリプトをコピーします。

以下のコマンドを実行します。

```
chmod +x opc_inst
opc_inst -s <mgmt_server>
```

HPovXpl パッケージはインストールされますが、`postinstall` スクリプトは失敗します。

```
opc_inst -s <mgmt_server>
```

HPovCtrl パッケージはインストールされますが、`postinstall` スクリプトは失敗します。

```
cp <inst_dir>/HPovCtrl.xml /var/opt/OV/installation/inventory
```

```
opc_inst -s <mgmt_server>
```

11. 症状 QXCR1000103186

Motif GUI を使ってエージェントを削除すると、エラー OpC60-800 が表示される

Motif GUI を使ってエージェントを削除すると、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

ノード <node> でエージェントソフトウェアを削除できませんでした。(OpC60-0800)

対策

削除を行ったときに、これ以外のエラーが報告されなかった場合には、このメッセージは無視してかまいません。

12. 症状 QXCR1000133707

仮想ノードから物理ノードを削除しても、ポリシーは削除されない

仮想ノードに属する物理ノードのリストからノードを削除しても、仮想ノードへの次回のポリシーの配布では、そのポリシーは削除されていません。物理ノードをリストから削除した後で、データベース内のリンクされた（仮想ノードの）ポリシーも、管理サーバーに格納されている構成情報から削除されますが、物理ノードには明示的に配布する必要があります。

対策

ポリシーを手動で物理ノードに再配布して、管理対象ノード上のポリシーを強制的にアップデートする必要があります。

13. 症状 QXCR1000103060

エージェントのアップグレードすなわちパッチのインストールとエージェントの削除

エージェントのアップグレード（パッチのインストール）と削除は、配布コンポーネントを使って実行されるので、パスワードは不要ですが、そのために、削除時に OpenView のコアコンポーネントが停止している場合やコアコンポーネントをアップグレードしている場合は、リモートノードへの接続が切断されます。

エージェントを削除する場合

削除を開始したことが報告されますが、接続が切断され、削除結果が不明になります。

エージェントをアップグレードする場合

アップグレード中にエラーが発生すると、プロセスが起動されずに、エラーが報告されます。

対策

エージェントを削除する場合

削除が正常に終了したことを確認するために、リモートノードにログインして、次のログファイルを調べます。

```
$DataDir/log/opc_inst.log
```

エージェントをアップグレードする場合

アップグレード中にエラーが報告された場合には、管理対象ノードのログファイル

`$DataDir/log/opc_inst.log` を開いて、パッケージが正常にインストールされたかどうかをチェックします。

パッケージは正常にインストールされているけれどもコンポーネントの起動に失敗している場合には、次のコマンドを使ってプロセスを起動します。

```
opcagt -start
```

次のコマンドを実行して、すべてのプロセスが起動されたことを確認します。

```
ovc -status
```

アップグレードしたコンポーネントのインストールに問題がある場合には、force モードを使って、エージェントを再インストールします。

14. 症状 QXCR1000285218

OVO/UNIX HTTPS A.08.10.160 エージェントを AIX 5.1 プラットフォームに再インストールしようとするとエラーになる

OVO/UNIX HTTPS Agent A.08.10.160 は、OVO/UNIX 管理サーバーから AIX 5.1 プラットフォームに再インストールすることはできません。

対策

AIX 5.1 上で、インストールされた HTTPS エージェントを削除してから、インストールし直してください。

HTTPS 管理対象ノードの実行時

1. 症状 QXCR1000217165

ovswitchuser の実行後、ルートディレクトリを変更できない

ovswitchuser を、SUID ビットが ovbbccb に対して設定されていない UNIX 管理対象ノードで実行すると、次のようなエラーが、ovbbccb の起動のたびに、OVO メッセージブラウザと System.txt ファイルに出力されることがあります。

ovbbccb (16577/1): (bbc-188) 現行プロセスのルートディレクトリを変更できません。詳細情報は chroot のマンページを参照してください。

対策

このような動作が見受けられる UNIX 管理対象ノードでは、次のような設定コマンドを使用してください。

```
ovconfchg -ns bbc.cb -set CHROOT_PATH /
```

2. 症状 QXCR1000216143

AIX システムの HTTPS エージェントで、日本語パラメータを指定してアプリケーションを実行すると、出力結果が文字化けする

AIX システムの HTTPS エージェントで、日本語パラメータを指定してアプリケーションを実行すると、出力結果が文字化けします。

対策

管理対象ノードシステムでのログインシェルは Ksh を使用してください。

3. 症状 QXCR1000189469

Java API ラッパーの opcmsg と opcmon が、Linux プラットフォームでは動作しない

Java API ラッパーの opcmsg と opcmon は、Linux プラットフォームでは動作しません。

対策

現状では有効な回避策がありません。

4. 症状 QXCR1000103564

Veritas Cluster Server が停止していると、ovconfd がエラーメッセージを送信し続ける

ovconfd は、Veritas Cluster Server が停止していると、クラスタノードでエラーメッセージを送信し続けます。

対策

- a. 次の除外条件を持ったメッセージインターセプタ テンプレートを作成します。

```
アプリケーション = "OpenView", メッセージ グループ = "OpenView", オブジェクト = "ovconfd"  
メッセージ テキストには "(conf-336)" を含める必要があります。
```

- b. このテンプレートを、問題があった Veritas クラスタノードに配布してください。

5. 症状 QXCR1000197215

Windows で opc_op ユーザーとして実行していると、アプリケーションが動作しない

Windows システムでユーザー opc_op として Broadcast のようなアプリケーションを起動すると、以下のエラーが表示されます。

アプリケーションは起動されました。しばらくお待ちください。
 エラー： プロセスは指定ユーザアカウントで起動することができませんでした。
 詳細はエージェントのログファイルを確認してください。

Windows 上の HTTPS エージェントはユーザー `opc_op` を作成しません。`opc_op` は、以前は管理ユーザーではなかったため管理者に依頼するということは推奨できません。

対策

Windows システムでは `$AGENT_USER` または `administrator` または、その他の既存のユーザーアカウントを設定し、このアカウントでアプリケーションを実行してください。

6. 症状 QXCR1000138209

初期化でタイムアウトになると、Control によって ovconfd が強制終了される

遅いマシンまたは混雑しているシステムでは、`ovconfd` は初期化に 30 秒以上の時間がかかります。このような状況では `ovctrl` を使って `ovconfd` を起動することはできません。`ovctrl` によって起動されたプロセスが、設定された時間内に応答することに失敗した場合は、`ovctrl` によって強制終了させられます。このような状況では、OVO HTTPS エージェントを起動できません。たとえば、トレースを有効にしている場合に、このような状況が発生します。

対策

設定情報の名前空間 `ctrl.ovcd` にあるパラメータ `ACTION_TIMEOUT` の設定を、次のコマンドを使って、たとえば、120 秒に増やしてください。

```
ovconfchg -ns ctrl.ovcd -set ACTION_TIMEOUT 120
```

7. 症状 QXCR1000139256

構文 `opcragt -set_config_var 'var(procname)=value'` は、HTTPS ノードでは無効

特定のプロセスについて変数を設定するために DCE エージェントで使うことができたコマンドが、HTTPS エージェントでは失敗します。たとえば、次のコマンドを実行する場合です。

```
opcragt -set_config_var 'MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS(opcacta)=100' <nodename>
```

管理対象ノードでの結果は次のようになります。

```
[eaagt]
MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=opcacta)
```

本来は、次のようになるはずでした。

```
[eaagt.opcacta]
MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=100
```

対策

次のように、プロセスの名前空間も同時に指定する必要があります。

```
opcragt -set_config_var eaagt.opcacta:MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=100 <nodename>
```

この値は名前空間 `eaagt.opcacta` のプロセス `opcacta` だけに設定されます。

8. 症状 QXCR1000203203

削除したノードグループにリモートアクションのセキュリティルールが適用される

[OVO 登録ノードグループ] から、リモートアクションの許可ルールの管理下にあるノードグループを削除しても、このグループにあったノードにこれらの許可ルールが適用され続けます。

リモートアクションの許可ルールは、次の設定ファイルに定義されています。

```
/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/remactconf.xml
```

対策

このようなノードグループは削除しないでください。ノードグループからノードを削除するだけにしてください。これにより、このノードグループのノードに適用されていたルールは、このノードグループから削除したノードに適用されなくなります。

9. 症状 QXCR1000136222

仮想ターミナルは HTTPS エージェントによってサポートされない

HTTPS Windows ノードでは、[PC 仮想ターミナル (DCE)] アプリケーションを使うことはできません。

対策

『OVO DCE エージェント コンセプトと設定ガイド』には、同様の目的で使えるソフトウェアについての情報が説明されています。

10. 症状 QXCR1000136133

即時リンクの API プログラムがシンボルがないためにクラッシュする

OVO/UNIX 7.x で作成したカスタム OVO API プログラムが、即時バインドイングを使って作成されていた場合には、OVO/UNIX 8 HTTPS HP-UX 管理対象ノードでは動作しません。

プログラムは、次のエラーが表示されて、クラッシュします。

```
# ./<program_name>
/usr/lib/dld.sl: Unresolved symbol: U_TRAP_STACK_TRACE (code) from
/usr/lib/libc1.2
/usr/lib/dld.sl: Unresolved symbol: U_STACK_TRACE (code) from
/usr/lib/libc1.2
Memory fault (coredump)
```

対策

プログラムを遅延バインドイングを使うように変更します。これにより、見つからなかったシンボルは使われないようになります。

```
# chatr -B deferred <program>
```

あるいは、非致命的バインドイングを使ったり、アプリケーションを再リンクします。

アップデートされた libc1 は、以下の OS パッチに含まれ、2004 年 12 月に提供される予定です。

11.0 PA PHSS_32229

11.11 PA PHSS_32226

11.22 PA PHSS_32227

11.23 PI (IPF/PA) PHSS_32228

11. 症状 QXCR1000140673

Linux ノードで ovconfd が実行停止する

Linux で、ps コマンドの出力に ovconfd ゾンビプロセス (defunct) が表示される。

対策

この状況は、無視してかまいません。

12. 症状 QXCR1000139201

opcmsga によってオープンファイルハンドルが過多であるとレポートされる

次の警告メッセージがログファイル `$DataDir/log/System.txt` に書き込まれる場合があります。

```
0: WRN: Fri May 28 12:11:36 2004: opcmsga (Message Agent) (24082/1):  
[monloop.c:801]: select() 用のファイルが最大値を超過しました。(OpC20-41)
```

対策

この警告メッセージは無視してかまいません。

13. 症状 QXCR1000197467

エージェントの削除後、ComponentMatrix.cfg と DependenciesMatrix.cfg に OvDep1 が存在する

管理者の GUI を使って OVO/UNIX 管理サーバーシステムから OVO HTTPS エージェントを削除しても、ファイル `/var/opt/OV/conf/ComponentMatrix.cfg` と `/var/opt/OV/conf/DependencyMatrix.cfg` に、`OvDep1` のエントリが存在します。

対策

この状況は、無視してかまいません。

14. 症状 QXCR1000285220

coda デーモンが AIX 5.1 上の HTTPS OVO/UNIX A.08.10.160 エージェントで停止する

coda デーモンが AIX 5.1 上の HTTPS OVO/UNIX A.08.10.160 エージェントで停止します。

対策

有効な回避策は今のところありません。

HTTPS 管理対象ノードとプロキシ

1. 症状 QXCR1000133276

ovconfchg: 再起動を行わなければ、PROXY の設定が処理されない

PROXY の設定を変更しても、管理サーバーシステム、または管理対象ノードシステムには、変更が適用されません。

対策

PROXY の設定情報を変更した場合には、以下のコマンドを使って、すべてのプロセスを再起動する必要があります。

管理対象ノードの場合	<code>ovc -kill</code>
	<code>ovc -start</code>
管理サーバーの場合	<code>ovstop ovoacomm</code>
	<code>opcsv -start</code>

HTTPS 管理対象ノードと NAT 環境

1. 症状 QXCR1000136801

NAT (サーバー IP アドレス): Windows エージェントのインストールがハングする

NAT 環境 (サーバーの IP アドレスが、エージェント側で変換される) では、HTTPS エージェントのインストールがハングする場合があります。これはインストール時に使われる FTP によって発生します。すなわち、Windows 2000 への FTP 接続がハングします。

対策

HTTPS エージェントソフトウェアは手動でインストールします。FTP は動作しない可能性が高いため、別のファイル転送メカニズムを使う必要があります。

2. 症状 QXCR1000136802

NAT (ノード IP アドレス): HP-UX エージェントでブロードキャストアプリケーションが起動できない

NAT 環境 (ノードシステムの IP アドレスが、OVO/UNIX 管理サーバー側で変換される) では、アプリケーションとアクションを実行すると、即座に通信エラーが返される場合があります。

対策

問題となっているエージェントが、ping その他のコマンドを使って到達可能かどうかを調べてください。操作については、『*HTTPS エージェント 概念と設計ガイド*』の「*HTTPS ベース通信のトラブルシューティング*」を参照してください。

到達可能であれば、通信エラーのメッセージが間違っています。サーバープロセスを再起動して再試行してください。

このような状況が、NAT 環境にノードを追加したり、インストールした後で起きることは非常に稀です。アプリケーションが実行できれば、エージェントが到達可能である限り、エラーメッセージが再び表示されることはないはずですが。

DCE 管理対象ノード

注記 TruCluster DCE 管理対象ノードの NCS RPC

Tru64 UNIX 管理対象ノードは、DCE RPC と NCS RPC の両方を通信タイプとしてサポートします。TruCluster 管理対象ノードは、DCE RPC だけをサポートします。Tru64 UNIX 管理対象ノードに OVO/UNIX エージェントソフトウェアをインストールする前に、管理対象ノードのセットアップおよび DCE RPC または NCS RPC を正しく設定してください。

1. 症状 QXCR1000200007

OVO/UNIX 管理サーバーをアップグレードすると、管理サーバーから Windows の DCE エージェントをインストールできなくなる

OVO/UNIX 管理サーバーを OVO/UNIX 7.x から OVO/UNIX 8 にアップグレードすると、GUI または `inst.sh` スクリプトを使って、Windows DCE エージェントのインストールができなくなります。

対策

アップグレードの最終段階で、次のように質問されます。

旧エージェントソフトウェアを管理対象ノードから削除しますか (y|n=default)?

その際に、別のターミナルで、以下のコマンドを実行します。

```
touch /opt/OV/bin/OpC/install/opcsvinfo
```

コマンドを実行したら、古いエージェントが削除されたことを確認します。

アップグレードが完了したら、次のファイルを削除します。

```
/opt/OV/bin/OpC/install/opcsvinfo
```

あるいは、OVO/UNIX 管理サーバーのアップグレードが完了した後で、ディレクトリ `OVCD2/OV_DEPOT` からデポ `HP0vOrpcClients.depot` を再インストールします。

2. 症状 QXCR1000102576

AIX 管理対象ノードにおける HACMP 5.1 のサポート

HACMP 5.1 は、AIX 管理対象ノードでサポートされるようになりました。対応する OS-SPI と共に配布されるいくつかのテンプレートを変更する必要があります。

対策

logfile テンプレートは、ログファイルの次の新しい場所を使うように変更してください。HACMP logfile テンプレートがノードに割り当てられている場合には、ログファイルが存在しないというエラーメッセージが表示されます。これはログファイルの場所が、HACMP ES と異なるためです。

```
/usr/es/adm/cluster.log
```

3. 症状 QXCR1000112735

MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS の設定

多くのモニターが配布されたノードでは、モニターエージェント `opcmona` が以下のようなエラーメッセージを表示する場合があります。

既知の問題と回避策

DCE 管理対象ノード

08/13/03 12:23:32 警告 opcmona (Monitor Agent) (16907)
[genmona.c:5154]: モニター 'r3monwpa' の値が不明です。
以降のエラー・メッセージは除外します。(OpC30-608)

これは MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS に小さすぎる値が設定されている場合に発生します。

対策

MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS の設定を以下のプロセスに個別に適用します。

- opcmona
- opcle
- opcacta

例

50 個のモニターテンプレートがあつて、すべてを同時に起動して、50 個のすべてでモニタースクリプトを実行する場合には、MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS は 50 にする必要があります。

デフォルトの設定は 10 でしたが、OVO/UNIX 8.10 の場合は 25 と、大きくなっています。

MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS の値を設定するには、以下のように、インストールされているエージェントの種類に対応するコマンドを実行します。

HTTPS 管理対象ノードの場合

```
opcragt -set_config_var eaagt.opcacta:MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS=100 <nodename>
```

DCE 管理対象ノードの場合

```
opcragt -set_config_var 'MAX_NBR_PARALLEL_ACTIONS(opcacta)=100' <nodename>
```

4. 症状 QXCR1000126783

モニターエージェント opcmona のサイズが大きくなることもある

CODA テンプレート/ポリシーを数多く使用していると、モニターエージェントのサイズが大きくなります。

対策

現状では有効な回避策がありません。

組み込みパフォーマンスコンポーネント (EPC、別名 CODA)

1. 症状 QXCR1000139054

OVPM 4.05 と OV Reporter 3.5 には、EPC が HTTP モードで動作していることが必要

組み込みパフォーマンスコンポーネント (EPC) が HTTPS プロトコルを使うように設定されている場合には、OpenView Performance Manager 4.05 (OVPM) および OpenView Reporter 3.5 (OV Reporter) は、OVO HTTPS エージェント上の組み込みパフォーマンスコンポーネントとの接続に失敗し、パフォーマンスメトリクスの収集ができません。

ただし、組み込みパフォーマンスコンポーネントが HTTP プロトコルを使うように設定されている場合には、これらのアプリケーションは EPC と接続ができ、パフォーマンスメトリクスを収集することができます。

EPC が HTTP プロトコル、または HTTPS プロトコルを使うように設定されているかどうかを調べるには、次のコマンドを実行します。

```
<OV_DIR>/bin/ovconfget coda SSL_SECURITY
```

<OV_DIR> には、EPC がインストールされているディレクトリを指定します。

出力結果が ALL または REMOTE の場合には、EPC は HTTPS プロトコルを使うように設定されています。

出力結果が NONE の場合には、EPC は HTTP プロトコルを使うように設定されています。

対策

EPC が HTTP プロトコルを使うように設定するには、次のコマンドを実行します。

```
<OV_DIR>/bin/ovconfchg -ns coda -set SSL_SECURITY NONE
```

配布可能な Performance Agent (OVPA)

このリリースでの OVPA は、OVO/UNIX 8.x 管理サーバーから以下のプラットフォームに OVPA を配布可能です。

表 7-1 配布可能な Performance Agent のサポートマトリックス

管理対象ノードのプラットフォーム	管理サーバーのプラットフォーム	
	HP-UX	Solaris
HP-UX OVO/UNIX 7 (DCE) と OVO/UNIX 8 (HTTPS)	11.00 の場合 : OVPA C.03.72.00 11.11 と 11.23 の場合 : OVPA C.03.86.00	11.00 の場合 : OVPA C.03.72.00 11.11 と 11.23 の場合 : OVPA C.03.86.00
Solaris OVO/UNIX 7 (DCE) と OVO/UNIX 8 (HTTPS)	OVPA C.03.82.00	OVPA C.03.82.00
Linux OVO/UNIX 7 (DCE) と OVO/UNIX 8 (HTTPS)	OVPA C.04.00.00 + OVPALX_00001 Patch	OVPA C.04.00.00 + OVPALX_00001 Patch
AIX OVO/UNIX 7 (DCE) と OVO/UNIX 8 (HTTPS)	OVPA C.03.84.00	OVPA C.03.84.00
Tru64 OVO/UNIX 7 (DCE)	OVPA C.03.60.00 または OVPA C.03.61.00	OVPA C.03.60.00 または OVPA C.03.61.00
Windows OVO/UNIX 7 (DCE) と OVO/UNIX 8 (HTTPS)	OVPA C.03.65.00	OVPA C.03.65.00

注記 Tru64 管理対象ノードの場合、OVPA のバージョンは、その Tru64 にインストールされている DCE のバージョンによって決まります。詳細は、OVPA/Tru64 C.03.60.00 または C.03.61.00 のリリースノートを参照してください。

このリリースの OVPA は、以下の管理対象ノードの Openview performance agent グループへのテンプレート、コマンド、アクションの配布も可能です。

- HP-UX (HTTPS と DCE)
- Solaris (HTTPS と DCE)
- Linux (HTTPS と DCE)
- AIX (HTTPS と DCE)
- Tru64 (DCE)

注記 インストール方法は、CD に収録された README.txt ファイルを参照してください。

配布可能な OVPA の既知の問題

1. 症状

システム管理リファレンスガイドの OVPA の情報が最新でない

OVO/UNIX 8 の『システム管理リファレンスガイド』に記載されている OVPA の情報が最新ではありません。

対策

次の HP OpenView Web ページから最新バージョンをダウンロードしてください。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

[1.Product:Operations for Unix] と [2.Version:8.x] を選択すると、利用可能なマニュアルのリストが表示されます。

Motif UI

1. 症状 QXCR1000136788

IP アドレスを変更したノードでアプリケーションを起動するとエラーが報告される

登録ノード内のノードを、異なる IP アドレスやノード名を使うように変更すると、そのノードで Motif GUI を使ってアプリケーションを起動するときに、エラーが報告されます。エラーの内容は次のとおりです。

<oldnodename> のノード情報は得られません。

対策

以下の回避策のいずれか 1 つを実行します。

- ノードの IP アドレスまたはノード名を変更するために、[ノードの変更] ウィンドウは使わずに、その代わりに、ノードを削除して新しいノードを追加します。
- [ノードの変更] ウィンドウを使って、ノードの IP アドレスまたはノード名を変更した場合には、Motif GUI を再起動します。

2. 症状 QXCR1000135741 と QXCR1000139344

OVO/UNIX での時刻の設定

OVO/UNIX には時刻の設定が必要な機能がいくつかあります。たとえば、定期的なシステム停止、時刻テンプレート、通知機能などです。時刻の形式は hh:mm です。

対策

OVO で時刻を入力すると、hh:mm:00 と解釈されます。

たとえば、真夜中を終了時刻とする 24 時間を指定するには、次のように入力します。

00:00-24:00

通知時間帯を毎日の 00:00 - 23:59 と指定すると、23:59:00 から 00:00:00 の間に受信したメッセージは通知対象ではなくなります。

[スケジュールアクションのテンプレート] ウィンドウの時刻フィールドに値を設定する場合に空白のままに残した時刻フィールドはワイルドカードと解釈されて、スケジュールしたアクションが 1 分間隔で実行され続けます。ただし、ワイルドカード文字は認識されません。

3. 症状 QXCR1000144554 と QXCR1000211752

X-OVw アプリケーショングループの OVw を起動すると、英語版の OVw が起動される

日本語システム、簡体字中国語システム、または韓国語システムで、X-OVw アプリケーショングループから [OVw の起動] アプリケーションを起動すると、OVw は常にロケール C (英語版) で起動されます。

対策

OVw を常に英語以外の言語で起動したい場合には、[OVw の起動] アプリケーションを次のように変更します。

- a. アプリケーションシンボルを右クリックして、[変更] を選択します。
- b. 最初の方にある [アプリケーション呼出] 編集テキストに、必要な LANG を追加します。

HP-UX で、日本語にする場合： LANG=ja_JP.SJIS

簡体字中国語にする場合： LANG=zh_CN.hp15CN

	韓国語にする場合：	<code>LANG=ko_KR.eucKR</code>
Solaris で、	日本語にする場合：	<code>LANG=ja_JP.PCK</code>
	簡体字中国語にする場合：	<code>LANG=zh_CN.EUC</code>
	韓国語にする場合：	<code>LANG=ko_KR.EUC</code>

c. `LANG=*` エントリーと `opcctrl0vw` の間にはスペースを入れてください。

4. 症状 QXCR1000139221 NNM-ET View アプリケーションの IPv6 ネットワーク

アプリケーショングループ NNM-ET View 内のアプリケーションが動作せず、Java エラーメッセージが表示されます。NNM-ET ビューを正しく動作させるには追加の設定が必要になる場合があります。

対策

NNM-ET アプリケーションを動作させるには、NNM-ET 設定スクリプトを起動して、管理サーバーシステムの NNM-ET を有効にする必要があります。

NNM Extended Topology の詳細とそれを有効にする方法は、次の場所にある『*NNM リリースノート*』を参照してください。

`/opt/OV/www/htdocs/<language>/ReleaseNotes`

5. 症状 QXCR1000113589 長いメッセージを持つメッセージ詳細ウィンドウを表示したことを示す XmScrollBar 警告

長いメッセージテキストを含むメッセージ詳細ウィンドウが表示されると、ターミナルウィンドウには以下の形式の Motif 警告メッセージが表示されます。

```
&#129;@[W: X Toolkit Warning:
\012
Name: HorScrollBar\012
Class: XmScrollBar\012
The specified scrollbar value is greater than the maximum\012 scrollbar value minus the
scrollbar slider size.\012].
```

対策

この警告メッセージは無視してかまいません。

Java UI

1. 症状 QXCR1000211752 と QXCR1000144554

Java GUI で NNM ツールを実行すると文字化けが発生する

日本語版または韓国語版、簡体字中国語版の管理サーバーの場合、Java GUI から NNM ツールを起動すると、文字が化けて表示されたり、英語で表示されることがあります。

対策

LANG 環境変数をオペレータ (opc_op) のプロファイル (.profile) に追加する必要があります。管理サーバーのオペレーティングシステムと言語に応じて、以下の LANG 環境設定を、opc_op の .profile ファイルに追加します。

HP-UX	日本語:	LANG=ja_JP.SJIS
	簡体字中国語:	LANG=zh_CN.hp15CN
	韓国語:	LANG=ko_KR.eucKR
Solaris	日本語:	LANG=ja_JP.PCK
	簡体字中国語:	LANG=zh_CN.EUC
	韓国語:	LANG=ko_KR.EUC

2. 症状 QXCR1000209866

ネット動作グループの I/F 通信量ツールを Java UI から起動できない

ネット動作グループの [I/F 通信量] アプリケーションを Java UI から直接起動することができません。

対策

いずれかの NNM ダイナミックビュー (たとえば近隣接続ビュー) を起動することで可能となります。起動したビューで対象のノードを選択します。次のメニューをたどると、[インタフェーストラフィック] ツールが使用可能です。

動作 -> ネットワーク動作

[インタフェーストラフィック] ツールは、Motif UI の [インターネット] サブマップから次のメニューをたどると使用可能です。また、[登録アプリケーション] から起動することもできます。

動作 -> ネットワーク動作

3. 症状 QXCR1000198864

非グラフィカルアプリケーション (cmd.exe と telnet) が Java UI で起動できない

cmd.exe や telnet のような非グラフィカルアプリケーションを、Java UI でローカルアプリケーションとして起動すると動作しません。

cmd.exe や telnet のような GUI ベースではないアプリケーションは、Java UI ではローカルアプリケーションとしては正常に起動できません。これらのアプリケーションの入出力ウィンドウが表示されないからです。

対策

ターミナルを開いてそのウィンドウでアプリケーションを起動するには、アプリケーションを次のように定義しておく必要があります。

Windows の構文

```
cmd /c start <application>
```

例 telnet アプリケーションを呼び出す場合 : cmd /c start telnet \$OPC_NODES
 cmd アプリケーションを呼び出す場合 : cmd /c start

UNIX の構文

```
dtterm -e <application>
```

例 telnet アプリケーションを呼び出す場合 : dtterm -e telnet \$OPC_NODES
 dtterm アプリケーションを呼び出す場合 : dtterm

4. 症状 QXCR1000197155

英語環境以外のユーザーのための例題 XML ファイル (opcservice)

サービス定義ファイルが正常にアップロードされるためには、XML 定義ファイルのヘッダーには正しいエンコーディングを指定する必要があります。現在のところ、マルチバイトのサービス定義ファイルの記述方法はいずれのマニュアルにも記載されていません。記述例を以下の「対策」において示します。

対策

各種の言語に対するヘッダーの例は、次のとおりです。

日本語の場合	<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
韓国語の場合	<?xml version="1.0" encoding="EUC-KR"?>
簡体字中国語の場合	<?xml version="1.0" encoding="GB2312"?>

詳細は、『*HP OpenView Operations Service Navigator コンセプトと設定ガイド*』の「サービス設定ファイル構文」の章(付録)を参照してください。

例

韓国語の場合の完全な XML ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="EUC-KR"?>
<!-- this file was generated by opcsvcconv(1m) -->
<Services xmlns="http://www.hp.com/OV/opcsvc"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.hp.com/OV/opcsvc /etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_
sv/dtds/service.xsd">
<Service>
<Name>localsvc</Name>
<Label>Some Korean text</Label>
</Service>
</Services>
<!-- end of file -->
```

5. 症状 QXCR1000202126

ICE ブラウザで NNM ビューを表示すると Java で NULL ポインターエラーとなる

ICE ブラウザを使って、NNM ビューを表示しようとする、Java の NULL ポインターの例外メッセージを表示したウィンドウが開くことがあります。ただし、NNM ビューは、多くの場合、表示されます。

対策

NNM ビューグループのアプリケーションを正しく起動するには、デフォルトブラウザとして外部ブラウザを使う必要があります。

推奨 Web ブラウザについては、サポートマトリックスを参照してください。

6. 症状 QXCR1000282211

Java UI は、別の Java UI での設定の再ロード後には起動に失敗する

同じユーザー名でログインした別の Java GUI で [設定の再ロード] を実行していた場合に Java UI の起動に失敗することがあります。

対策

有効な回避策は今のところありません。

7. 症状 QXCR1000279960

アプリケーションのショートカットがアプリケーション名ではなくアプリケーションラベルにリンクされている

2 つ以上のアプリケーションを同じラベルを使って定義していて、そのうちの 1 つを Java GUI のショートカットバーに追加している場合、そのアプリケーションのショートカットを使ってアプリケーションを起動すると、間違ったアプリケーションが起動されることがあります。アプリケーションがアプリケーション定義と名前ではなくラベルに基づいてリンクされているためです。

対策

[OVO 登録アプリケーション] でアプリケーションを定義する場合には、複数のアプリケーションに同じラベルを使うことは避けてください。

8. 症状 QXCR1000237264

OVO/UNIX Java UI を終了またはログオフするとエラーメッセージが表示される

HTTPS 通信モードで動作している Java UI を終了またはログオフすると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
ERROR MSG, 7:42:47 AM,
com.hp.ov.it.comm.OvEmbHttpClient:
https status - InternalServerError:text/html,
Message = HTTP/1.1 500 Internal Server Error
Date: Wed, 11 May 2005 05:41:57 GMT
Transfer-Encoding: chunked
Server: BBC 05.20.010; opcuihttps 01.00.000
senderid: e6979118-acal-750b-1f6a-de6eb9cfe391
Cache-Control: no-cache
Content-Type: text/html
```

対策

このメッセージは無視してかまいません。

ECS/OV Composer

1. 症状 QXCR1000187583、QXCR1000128343、QXCR1000134617、QXCR1000193526、QXCR1000009281、QXCR1000009282 および QXCR1000199714 ECS Designer が動作しない

ECS Designer A.03.20 をインストールしても、使うことができません。たとえば、ポリシーを確認するために [メッセージソースのテンプレート] ウィンドウで ECS エージェントポリシーの 1 つをクリックした後で、[サーキット...] を選択すると、[OV HP ECS] ウィンドウを開く代わりに次のようなエラーメッセージがおそらく表示されます。

```
ITO Modules not found.
```

ECS GUI が認識不能の終了コードを返しました。この問題を再現出来れば、その詳細とともに HP サポートに連絡ください。(OpC60-0973)

対策

ITO モジュールファイルを、以下の手順を使って、必要な場所にコピーします。

```
OV_CONF="/etc/opt/OV/share/conf"

ITO_MODULES="/etc/opt/OV/share/conf/OpC/mgmt_sv/ecs/modules"

rm -f $OV_CONF/ecs/modules.newconfig/ito 2>/dev/null

mkdir -p $OV_CONF/ecs/modules.newconfig/ito 2>/dev/null

if [ -d $ITO_MODULES ]
then
  for MODULE in `ls $ITO_MODULES/*.ecs`
  do
    cp $MODULE $OV_CONF/ecs/modules.newconfig/ito 2>&1
  done
fi
```

これで ECS Designer が動作するようになります。次のようなエラーメッセージが表示される場合がありますが、これは無視してかまいません。

```
/etc/opt/OV/share/conf/ecs/modules.newconfig/ito/*.ecs not found.
```

2. 症状 QXCR1000134910 HP-UX 上で ovcomposer が起動できない

HP-UX の ovcomposer スクリプトには間違いがあります。

回避策は、OV Composer のリリースノートに詳しく述べられています。

対策

/opt/OV/bin/ovcomposer スクリプトを次のように編集します。

java を **java -xint** に置き換えてください。

3. 症状 QXCR1000140462 と QXCR1000131660

イベント関連処理テンプレートを無効にしても、イベント関連処理が停止しない

すべてのイベント関連処理テンプレートを無効にしても、イベント関連処理は処理を続行しています。

対策

以下のコマンドを使って、OVO 関連処理 (opceca) を手作業で停止します。

```
ovc -stop opceca
```

レポート

1. 症状 QXCR1000138530

Service History Status Reports (SN Report Pack) には、ID と名前の長さに制限がある

OVO/UNIX 8 から、253 文字を超えるサービス名とサービスラベルが指定できるようになりました。しかし、Reporter A.03.50 で使われている Crystal ランタイムエンジンは、文字列の長さを 254 に制限しているため、長い名前を使うと問題が発生します。OVO/UNIX Service Status History Reports バージョン A.03.50 は、253 文字より長いサービス名とサービスラベルをサポートしません。

サービス名が 253 文字の制限を超えている場合には、超えた部分が切り捨てられます。ステータス履歴データは、サービス名の先頭の 253 文字分が一意的ではない場合には、誤って計算される場合があります。

対策

253 文字より長いサービス名は使わないでください。253 文字より長いサービス名は、OV Reporter の A.03.60 リリースおよびそれに対応する Service Navigator Report Package ではサポートされています。

Service Navigator Value Pack

1. 症状 QXCR1000107875

Windows 2000 にインストールした場合の、ポインターの影の問題

マウスで「ポインターの影」を有効にすると GUI で問題が発生します。Windows 2000 の標準インストールでは、デフォルトで「ポインターの影」が有効になっています。GUI の問題とは、メニュー項目上をマウスで横切った場合に、色が逆転した小さな長方形が軌跡として残ることです。

この GUI の問題は、主として次の状況で発生します。

- 右上隅にあるドロップダウンメニューのサービス階層をマウスで選択した場合
- メニュー項目をマウスで選択した場合

対策

可能ならば、VNC のようなリモートデスクトップソリューションは使わないようにしてください。常に Windows で認証された最新版のグラフィックドライバを使うようにしてください。

2. 症状 QXCR1000192982

サービス階層がない場合には、規則とアクションが削除できない

サービス階層がない場合には、計算規則、伝達規則、アクション、子オブジェクト規則、親子オブジェクト規則が削除できません。状況によっては、例外メッセージが表示される場合があります。

対策

1 つのルートオブジェクトだけを持つダミーのサービス階層を作成します。不要になった規則とアクションを削除して、最後にダミーの階層も削除します。

3. 症状 QXCR1000192582

オンラインヘルプのトピック「Copy and Paste Between Service Hierarchies」の、間違った記述

オンラインヘルプのトピック「Copy and Paste between Service Hierarchies」には、次のような間違った記述があります。

If one of the copied objects already exists in that hierarchy, you can either cancel the paste operation or overwrite the existing object(s).

対策

同一の階層にはオブジェクトを複数回ペーストすることはできません。間違った記述の下の注記には、このような操作を行った場合に発生する事象が説明されています。

4. 症状 QXCR1000192582

Weight is empty に対する予期しない結果

検索条件に [Parent objects]、[Weight is empty] または [Message weight is empty] を指定して、[Find in Service Hierarchy] ダイアログボックスを使うと、予期しない一連の結果が生成されます。

対策

データベースには、ユーザーが定義した重み付けだけが格納され、デフォルトの重み付けは格納されていません。したがって、[Weight is empty] の条件で検索しても、デフォルトの重み付けを変更していないオブジェクトのリストが返されます。

Network Node Manager

Network Node Manager に固有の問題は、以下の、ご使用中のオペレーティングシステムに対応した『*HP OpenView Network Node Manager 7.5 Runtime Release Notes*』を参照してください。

<http://ovweb.external.hp.com/ovnsmdps/pdf/nnm750rn/HPUX/README.html>

<http://ovweb.external.hp.com/ovnsmdps/pdf/nnm750rn/Solaris/ReadmeAll.html>

警告

デフォルトでは、ファイル

`OVNNMgr.OVNNM-RUN: /opt/OV/bin/ovtraceroute`

では、root に対して次のように、setuid ビットが設定されています。

`-r-sr-xr-x 1 root bin`

厳密なセキュリティが必要なユーザーの場合には、このパーミッションを次のように変更する必要があります。

`chmod 555 /opt/OV/bin/ovtraceroute`

1. 症状 QXCR1000217223

NNM ライセンスキーのインストール (ovnnmInstallLic を使用) に関するドキュメントがない

NNM ライセンスキーを ovnnmInstallLic ツールを使用してインストールする必要があることが記述されたドキュメントがありません。

対策

第2のライセンスキー (NNM 用) を NNM ライセンスキーインストールツール ovnnmInstallLic を使用してインストールする必要があります。そうしないと、ライセンスキーが無視され、インストールされません。

次のコマンドを使用して NNM ライセンスパスワードを追加してください。

```
/opt/OV/bin/ovnnmInstallLic /tmp/save710/.license
```

2. 症状 QXCR1000205834

X-OVw が要求するホームディレクトリが存在しないことがある

NNM 7.5、OVO HTTPS エージェント、OVO/UNIX 8.2 Remote NNM パッケージを HP-UX システムへ正常にインストールが完了すると、opcctrlovw は正しく動作します。

ただし、X-OVw アプリケーションの [OVw の起動] を実行すると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Warning opcacta (Action Agent) (22960 : 現在のワーク・ディレクトリをユーザ opc_op のディレクトリ /home/opc_op に移動できません。
```

```
No such file or directory (OpC20-53)
```

この時点では、/home/opc_op が存在していません。

対策

問題を解決するには、ディレクトリ /home/opc_op を作成してください。

3. 症状 QXCR1000206586

opcctrlovw を使用するアプリケーションが Windows Java GUI で使いにくい

Windows Java GUI で、opcctrloww が使用されるときに、ネットワーク動作のようなアプリケーションが起動されないことがあります。代わりにエラーメッセージが OVO 通信ステータスウィンドウに表示されません。

対策

OVO Java GUI を Windows システムで実行すると、アプリケーションによっては起動時に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。この問題が発生する可能性のあるアプリケーションは、ovw セッションを Windows システムに表示するアプリケーションです。

エラーメッセージ 1:

```
コマンド : opcctrloww -display 15.2.118.164:0.0 -user "opc_adm" -action "IP Tables"
AddressesForIface" 次のエラーが出力されました :
Error: Can't open display: <IP Address>:0.0
終了コード : 3
```

対策 1:

Windows システムでは、Reflection X や Hummingbird Exceed のような X-Windows エミュレータを実行しておく必要があります。

エラーメッセージ 2:

```
INTERNAL ERROR ( Cwfong.cpp:264 )
最寄りの弊社営業所にご連絡ください。
Could not conver "-*-medium-f-normal-*-12-*-*-*-*m-*-*-*" to XFontSet.
Try changing your "*.cwFont" resource.
```

対策 2:

X-Windows エミュレータが正しいフォントを見つけられませんでした。このような場合には、フォントサーバーを設定する必要があります。たとえば、OVO/UNIX 管理サーバーで xfs -port 7100 を実行します。(Reflection X を使用している場合は、次にこのフォントサーバーを使用するように設定します。)

4. 症状 QXCR1000196492

HA 環境で setupExtTopo.ovpl を実行する場合は保守モードにする必要がある

高可用性環境において、ET を有効にするために setupExtTopo.ovpl を実行すると、モニター対象プロセスのいくつかに再起動がかかる場合があり、フェイルオーバーが発生します。

クラスタ環境内にインストールされている OVO/UNIX 管理サーバーで OVO/UNIX 管理サーバープロセスを停止させるようなアクション、たとえば、パッチのインストールやアップグレード、保守の実行時には、HA リソースグループの OVO/UNIX 管理サーバーを無効にしてから、OVO/UNIX 管理サーバーを停止する必要があります。

対策

setupExtTopo.ovpl を実行する前に、HA システムを保守モードに切り替えてください。

OVO/UNIX 管理サーバーを保守モードに切り替える方法は、『*HP OpenView Operations インストールガイド*』の各クラスタの章の「クラスタ環境での保守モード OVO 管理サーバーの停止」に記載があります。

OVO/UNIX 管理サーバー HA リソースグループのフェイルオーバーが行われることなく、OVO/UNIX 管理サーバーを停止する方法が説明されています。

setupExtTopo.ovpl が正常に実行されたら、OVO/UNIX 管理サーバーを起動し、OVO/UNIX プロセスが動作していることを確認してから、OVO/UNIX 管理サーバーのモニタリングを有効にしてください。

5. 症状 QXCR1000193099

NNM を HTTPS エージェントのシステムにインストールすると、ovcd が停止する

NNM 7.5 を OVO HTTPS エージェントが動作している UNIX システムにインストールすると、ovcd プロセスが停止します。

コマンド `opcagt -status` を実行すると、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Ctrl-111 Ovcd はまだ起動していません。
```

対策

次のコマンドを入力して、エージェントを再起動してください。

```
opcagt -start
```

6. 症状 QXCR1000188382

NNM-ET View の OSPF ビューは、RAMS が有効になっていると、動作を停止する

RAMS 機能は NNM 7.5 でサポートされており、簡単に有効にしたり、無効にしたりすることができます。

RAMS が無効になっていると、NNM-ET View の OSPF ビューに対する [アプリケーション呼出] が、

```
http://$OPC_MGMTSV:7510/topology/ospfView?viewInBrowser=true
```

となっているので、この場合、アプリケーション OSPF ビューは正しく動作します。

RAMS が有効になっていると、OSPF ビューは動作を停止します。RAMS が有効な場合にも、[アプリケーション呼出] に指定されている以下が使われるからです。

```
http://$OPC_MGMTSV:7510/topology/ospfView?viewInBrowser=true
```

対策

RAMS を有効にしている場合は、NNM-ET View の OSPF ビューの [OVO アプリケーションの変更] ウィンドウにある [アプリケーション呼出] を以下に変更します。

```
http://$OPC_MGMTSV:7510/topology/rexView?viewInBrowser=true
```

7. 症状 QXCR1000187416

[ネットワーク動作/ネット・ポーリング] では [OV サービス /MIB グラフ] が必要

新しいユーザーを作成して、または `opc_op` で、[ネットワーク動作] アプリケーショングループを割り当てる場合には、[OV サービス] から [MIB グラフ] を割り当てておくことも必要になります。割り当てていないと、次回に新しいユーザー、または `opc_op` で Motif GUI にログオンしたときに、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
エラー：アプリケーション "Network Monitor Statistics" の親アプリケーション "mibgraph" が未定義です。
```

```
エラー：アプリケーション "mibgraph" は未定義です。
```

```
OpC30-830
```

[アプリケーションデスクトップ] 中のアプリケーションは [ネットワークモニタ統計] がアプリケーションとして登録されていないために起動することができません。

[ネットワーク動作 -> ネットポーリング] を選択すると、以下のエラーが表示されます。

```
OpC60-100
```

```
OVw エラー OVwCheckAction(netmonStatus): アプリケーションが見つかりません。
```

[OVO エラー情報] ウィンドウには関連するエラーも表示されます。

対策

新しいユーザー、または `opc_op` ユーザーには、[ネットワーク動作]の他に、[OV サービス]グループ、すなわち少なくとも [MIB グラフ]アプリケーションを割り当てる必要があります。

8. 症状 QXCR1000211829

Jovw (旧) グループのアプリケーションが失敗することがある

[登録アプリケーション] ウィンドウにある [Jovw] (旧) グループに属するアプリケーション、たとえば [IP マップでの強調表示] や [Jovw] アプリケーションを起動しようとする、次のようなエラーメッセージが表示されます。

IP マップでの強調表示の場合のエラーメッセージ:

ホスト <hostname> のマップ default でセッション ID <hostname>:0 の ovw が見つかりません。

Jovw の場合のエラーメッセージ:

ホスト <hostname> のマップ default でセッション ID <hostname>:0 の ovw が見つかりません。

対策

これらのアプリケーションを動かすには、そのホストで、`ovw` セッションをデフォルトマップで起動する必要があります。

システム <hostname> で以下のコマンドを入力します。

```
/opt/OV/bin/ovw
```

表示されたウィンドウの左下隅に `default` と表示されていることを確認します。

デフォルトマップを変更するには、[マップ->オープン]メニューを選択し、[default]を選択します。

Jovw ではなく、NNM ダイナミックビューの使用をお勧めします。NNM ダイナミックビューは、アプリケーショングループ NNM Views にあります。

9. 症状 QXCR1000213132

[OV Extended Topology] ツールの日本語名が間違っている

日本語環境で、[OV サービス]アプリケーショングループの [OV Extended Topology] ツールのラベルが [ノードビュー]になっています。そのため、このアプリケーショングループには、[ノードビュー] ツールアイコンが2つあります。

対策

ラベルが正しくないアプリケーションの [変更] ウィンドウを開き、[ラベル] フィールドに正しい名前を入力してください。

10. 症状 QXCR1000212036 および QXCR1000279556

NNM に必要な Perl が OVO/UNIX エージェントのアンインストールにより削除されてしまう

OVO/UNIX 8 エージェントの削除処理では、OV Perl パッケージも無条件に削除します。一方、NNM にとって必要な Perl がなくなってしまいます。この問題は、OVO/UNIX エージェントの削除が原因です。NNM を Perl なしで起動すると、多くの NNM プロセスが実行されず、`NOT_RUNNING` または `UNSTARTABLE` と表示されます。

また、OVO/UNIX 8 管理サーバー上からエージェントを削除すると、`ovstart -c` を使用して管理サーバープロセスを起動することができなくなります。

対策 1

OV Perl コンポーネントを再インストールしてください。以下の手順を実行します。

a. `ovstop`

b. Perl を再インストールします。たとえば、OVNNMCD1 CD のディレクトリ `/packages` にある `HPOvPerlA-05.06.012.depot` からインストールします。

c. `ovstart -c`

これですべての OpenView プロセスが実行されるはずです。

対策 2

管理サーバープロセスを起動できるようにするには、以下のようにコマンドを実行して、Perl のライブラリの名前を変更後、管理サーバーを再起動します。

```
mv /opt/OV/nonOV/perl/a/lib/5.6.1/PA-RISC2.0-thread-multi/CORE/#libovperl.sl ¥  
/opt/OV/nonOV/perl/a/lib/5.6.1/PA-RISC2.0-thread-multi/CORE/libovperl.sl
```

```
mv /opt/OV/nonOV/perl/a/lib/5.6.1/PA-RISC2.0-thread-multi/auto/DynaLoader/¥  
#libOvPerlDynaLoader.sl  
/opt/OV/nonOV/perl/a/lib/5.6.1/PA-RISC2.0-thread-multi/auto/DynaLoader/¥  
libOvPerlDynaLoader.sl
```

```
ovstart -c
```

11. 症状 QXCR1000209866

ネット動作グループの I/F 通信量ツールを Java UI から起動できない

ネット動作グループの [I/F 通信量] アプリケーションを Java UI から直接起動することができません。

対策

いずれかの NNM ダイナミックビュー (たとえば近隣接続ビュー) を起動することで可能となります。起動したビューで対象のノードを選択します。次のメニューをたどると、[インタフェーストラフィック] ツールが使用可能です。

動作 -> ネットワーク動作

[インタフェーストラフィック] ツールは、Motif UI の [インターネット] サブマップから次のメニューをたどると使用可能です。また、[登録アプリケーション] から起動することもできます。

動作 -> ネットワーク動作

12. 症状 QXCR1000200666

ポート 7777 がすでに使われている場合に、ovuispmd の起動で失敗する

ovuispmd プロセスは、ポート 7777 が使えないと起動で失敗します。

以下のエラーメッセージが表示されます。

```
ovuispmd FILED to start.  
Unable to get port 7777.  
Address already in use.
```

対策

システムを再起動します。これで、ovuispmd を含むすべての NNM プロセスが動作するようになるはずです。

13. 症状 QXCR1000199438

ovw を起動すると、SIGSEGV によって xnmevents が強制終了される

日本語版の HP-UX 11.11 システムで、OVO 7.1 を 8.1 にアップグレードした後で ovw を起動すると、xnmevents がシグナル SIGSEGV (11) で強制終了させられます。

対策

以下のパッチをインストールしてください。

- PHSS_30627
- PHSS_31930

14. 症状 QXCR1000194785

Solaris 8 では、Hummingbird Exceed を介しての NNM の簡体字中国語のオンラインヘルプが使えない

NNM の簡体字中国語のオンラインヘルプは、Hummingbird Exceed を介する Solaris 上では使うことはできません。いくつかの中国語文字が読めない文字になります。これは、Hummingbird Exceed が Solaris 8 の Song ファミリーのフォントをサポートしていないからです。

対策

以下の代替策のいずれかを使ってください。

- Solaris コンソールに直接ログオンする。
- フォントがインストールされているコンピュータのフォントサーバーを起動して、Reflection-X のサーバーパスに設定する。

15. 症状 QXCR1000134547

『NNM and MC/ServiceGuard White Paper』が更新されていない

OVO 管理サーバーの次の場所にあるホワイトペーパー『*Network Node Manager 7.x and MC/ServiceGuard*』は、管理サーバーシステムにインストールされている NNM バージョンに対応していません。

`/opt/OV/doc/WhitePapers/MC/ServiceGuard.doc`

これは、NNM 6.x と MC/ServiceGuard に関連したホワイトペーパーです。

対策

ホワイトペーパー『*Network Node Manager 7.x and MC/ServiceGuard*』は、次の HP OpenView Web ページから入手できます。

http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/

[operations for unix] とバージョン [8.x] を選択すると、入手可能なドキュメントのリストが表示されます。

16. 症状 QXCR1000281147

HP-UX 11.23 PA-RISC システムにリモート NNM 統合パッケージをインストールできない

『OVO/UNIX インストールガイド』の指示に従って、HP-UX 11.23 PA-RISC システムにリモート NNM 統合パッケージをインストールすることができません。OVO には、HP-UX 11.0 用と HP-UX 11.11 用の 2 つの異なるバンドル定義があります。HP-UX 11.11 用のバンドルを使う必要があります。

対策

以下のコマンドを使って、HP-UX 11.23 PA-RISC システムにリモート NNM 統合パッケージをインストールしてください。

```
swinstall -x allow_incompatible=true -s  
../OVOCD2/OV_DEPOT/HPOvOServer.depot OVORemoteOVw,a=HP- UX_B.11.11_32/64,r=A.08.10.160
```

Network Diagnosis Add-On Module

注意 NDAOM 関連の問題点についての完全なリストは、NDAOM リリースノートを参照してください。

NDAOM

トレースは、次の場所にある `ndaom.cfg` 設定ファイルによって集中管理されます。

```
/etc/opt/OV/ndaom/conf/ndaom.cfg
```

トレースエリアは、`ovnwlkmon` や `ovnwmonitor` などの、より大きなモジュールに対して定義します。これらのモジュールは、`ndaom.cfg` 設定ファイルを読み込み、トレースが有効になっているかどうか、およびトレースエリアが設定されているかどうかを確認します。

トレースエリアは、`ovnwmonitor`、`ovnwlkmon`、`ALL` です。

トレースレベルは 0 - 9 で、数字が大きくなるとトレース情報が増加します。

NDAOM トレースは、以下の行を `ndaom.cfg` ファイルに追加すると有効になります。

```
TRACE_AREA=[ovnwmonitor|ovnwlkmon]  
TRACE_LEVEL=[0 - 9]
```

NDAOM トレース情報ファイル `ndaom.trc` は、管理サーバーの次の場所にあります。

```
/var/opt/OV/ndaom/log
```

Problem Diagnosis プローブ

Problem Diagnosis プローブで作業する上でのヒントを以下に示します。

- GUI アプレットが動作していない場合は、**Java** コンソールで例外が発生していないか確認してください。
- `ovstart` から `pd central` が起動しない場合は、`ovstop pd` を実行してから、以下のコマンドで **PD** を手動で実行してみてください。

```
pdcentral.sh -start または pdcentral.bat -start
```

また、UNIX システムで `ovspmd` の問題が発生した場合には、`ovstop`、次に `ovstart` を実行してみてください。

- デバッグの出力を `pd.log` ファイルに生成するには、`pdconfig.xml` ファイルで `<DEBUG>true</DEBUG>` を指定してください。このオプションは、大量のデータを生成することがあるため、短時間に制限してください。
- Problem Diagnosis プローブが正常に動作して応答していることを確認するには、次のコマンドを使います。
`http://probe_name:8067/netpath/netpath.req?destination=sometarget`
- 中央のアプリケーションが正常に動作して応答していることを確認するには、次のコマンドを使います。
`http://nmsserver:8068/central/central.req?destination=probe_name|sometarget`
- 1 組の IP アドレスについて **ET** から返されている **L2** データを表示するには、次のコマンドを使います。

`http://nmsserver:7510/topology/NMTopoApi?api=getL2BetweenNodes&begin=ipaddress
&end=ipaddress`

- PD データベースでの **SQL** クエリーを許可する **UI** を取得するには、次のコマンドを使います。
`pdcentral.sh -dbmgr` または `pdcentral.bat -dbmgr`

Internet Services (OVIS)

1. 症状 QXCR1000089414

OVIS 統合が OVO/UNIX 8 で動作しない

OVO/UNIX 8 のインストールで、OVIS 5.20 を OVO/UNIX に統合しようとするとう失敗します。

詳細については、次の eCare のドキュメントを参照してください。

<http://openview.hp.com/sso/ecare/getsupportdoc?docid=QXCR1000089414>

対策

OVIS 5.20 を OVO Unix 8 に統合するためのパッチは、次の Openview サポート Web サイトに用意されています。

<http://support.openview.hp.com/cpe/patches/is/is.jsp>

2. 症状 QXCR1000214514

OVIS 5.20 統合が %OvDataDir/datafiles のパーミッションの変更により動作しなくなる

OVO 7 DCE エージェントを OVO 8 HTTPS エージェントにアップグレード後、OVO/UNIX に統合している OVIS が動作しなくなります。これは、ディレクトリ %OvDataDir/datafiles のファイルパーミッションが変更されたのが原因です。そのため OVIS はそのデータにアクセスできなくなります。

対策

OVIS をインストール済みのシステムに OVO 8 HTTPS エージェントをインストールすると、%OvDataDir/datafiles ディレクトリとそのディレクトリ内のすべてのファイルのパーミッションがローカルの管理者に対するフルパーミッションのみに変更されます。IIS は、%OvDataDir/datafiles に格納された IopsTraceTable.mdb ファイルにアクセスするために IUSR_MACHINE パーミッションが必要です。そのパーミッションを手動で追加してください。

警告	OVO HTTPS エージェントは、"ovc -start" で起動されるたびにパーミッションをリセットします。そのため、パーミッションの調整は、"ovc - start" の実行後に毎回行う必要があります。
-----------	---

注記	Internet Services (OVIS) は、HP-UX Itanium IA64 ノード上の OVO HTTPS エージェントと共存できません。OVIS Probe は PA-RISC アプリケーションのため、Aries ダイナミックトランスレーションを使用します。OVIS Probe は、別のシステムにインストールしてください。
-----------	---

トレースとトラブルシューティング

1. 症状 QXCR1000133724

DHCP または NAT ノード上の TraceMon がトレースサーバーにアクセスできない

DHCP または NAT を使っているシステムでは、TraceMon GUI は、GUI ステーションの名前が解決されていないと、トレースサーバーに接続できません。

トレースサーバーは、TraceMon GUI システムからの接続リクエストが正しいかどうかを、DNS を使って名前を確認することで、確認しようとしています。解決できなかった場合には、接続が拒否されます。

対策

トレースサーバーでファイルに書き込むように設定して、そのファイルを TraceMon システムにコピーしてください。

ローカライズ

1. 症状 QXCR1000214400

Java GUI に追加されたメニュー項目が英語で表示される

JavaGUI の新しいバージョンにメニューがいくつか追加されましたが、それらが英語で表示されます。

対策

これらは、OVO/UNIX の今後のアップデートで翻訳される予定です。

2. 症状 QXCR1000190998

入出力ウィンドウおよび仮想ターミナルアプリケーションで文字化けが発生する

スペイン語、日本語、簡体字中国語、または韓国語の管理サーバーでは、入出力ウィンドウおよび仮想ターミナルアプリケーションで正しく ASCII 以外の文字が表示されずに、文字化けが起こります。

対策

xterm と hpterm は、ASCII 以外の文字を表示できません。このため、前述の言語での入出力ウィンドウおよび仮想ターミナルアプリケーションには、dtterm を使用する必要があります。これらのプラットフォームで入出力ウィンドウおよび仮想ターミナルアプリケーションを使用する場合は、dtterm をデフォルトに設定すると便利です。

dtterm をデフォルトに設定するには、以下の手順を実行します。

- a. [アクション] -> [デフォルトの設定] を選択します。
- b. [登録ノード] ウィンドウを開きます。
- c. リストボックスで、デフォルト値を変更するエージェントプラットフォームを選択します。
- d. [拡張オプション] をクリックして、[仮想ターミナルエミュレータ] の設定を変更します。
- e. [OK] をクリックして変更を保存します。

上記の設定の変更後は、このプラットフォームのタイプのノードを新しく追加すると、[仮想ターミナルエミュレータ] が自動的に dtterm に設定されます。デフォルト値を変更する前に設定したノードでは、ノードの [拡張オプション] から手動でこの値を変更する必要があります。

また、エージェントプラットフォームと、設定済みのノードの [キャラクタセット] は、ノードにインストールされているロケールと一致する必要があります。173 ページの表 7-2 を参照してください。

表 7-2 OVO/UNIX エージェントプラットフォームのキャラクタセットとロケール

エージェント プラット フォーム	管理サーバーの言語	キャラクタセット	ロケール
HP-UX	日本語	Shift-JIS	ja_JP.SJIS
		日本語 EUC	ja_JP.eucJP
		UTF-8	ja_JP.utf8
	スペイン語	ISO 8859-15	es_ES.iso885915@euro
		UTF-8	es_ES.utf8
	簡体字中国語	GB-2312	zh_CN.hp15CN
		UTF-8	zh_CN.utf8
	韓国語	韓国語 EUC	ko_KR.eucKR
		UTF-8	ko_KR.utf8
	Solaris	日本語	Shift-JIS
日本語 EUC			ja_JP.eucJP ja japanese
UTF-8			ja_JP.UTF-8
スペイン語		ISO 8859-15	es.ISO8859-15
		UTF-8	es.UTF-8
簡体字中国語		GB-2312	zh_CN.EUC zh.GBK zh_CN.GBK
		UTF-8	zh_CN.UTF-8
韓国語		韓国語 EUC	ko_KR.EUC ko korean
		UTF-8	ko.UTF-8 ko_KR.UTF-8

表 7-2 OVO/UNIX エージェントプラットフォームのキャラクタセットとロケール (続き)

エージェントプラットフォーム	管理サーバーの言語	キャラクタセット	ロケール
Linux	日本語	-	-
		日本語 EUC	ja_JP.EUC-JP
		UTF-8	ja_JP.UTF-8
	スペイン語	ISO 8859-15	es_ES@euro
		UTF-8	es_ES.UTF-8
	簡体字中国語	GB-2312	zh_CN
		UTF-8	zh_CN.UTF-8
	韓国語	韓国語 EUC	ko_KR.EUC-KR
		UTF-8	ko_KR.UTF-8

日本語版の問題点

1. 症状 QXCR1000298137

ja ロケールの Solaris 10 では DCE Agent が動作しない

日本語ロケール ja_JP.eucJP の Solaris 10 では、エージェントが動作しないように見えます。

対策

ディレクトリ /opt/OV/locale/ja/LC_MESSAGES にあるファイル opcagt.mo の名前を opcagt.mo.ORIG に変更します。

次のコマンドを実行します。

```
ln -s ../../ja_JP.PCK/LC_MESSAGES/opcagt.mo
```

2. 症状 QXCR1000193802

日本語版 / 韓国語版の管理サーバーから証明書をインストールしようとする、RH9.0 はハングしたり、異常終了したりする

エージェントは、日本語ロケール ja_JP.eucJP では問題を起こす場合があります。

対策

デフォルトロケールを ja_JP.utf8 に変更してください。

ロケールが正しく設定されていることを確認するには、Linux ノードに対して rlogin を実行して、以下のコマンドを実行します。

```
locale
```

ロケール ja_JP.utf8 が表示されれば、正しく設定されています。

3. 症状 QXCR1000194960

Linux でインストールを行っているときに、ovc -start がハングする

Linux でインストールを行っているときに、証明書をインストールする段階で ovc -start コマンドがハングします。この問題は、管理対象ノードのロケールに ja_JP.eucjp が設定されている場合に発生します。

top コマンドを使うと、ovbbccb プロセスがほぼ 100% の CPU を消費していることがわかります。

対策

この問題を回避するには、デフォルトロケールを ja_JP.utf8 に設定してください。

たとえば、/etc/profile ファイルに、以下の行を追加します。

```
export LANG=ja_JP.utf8
```

```
export LC_ALL=ja_JP.utf8
```

4. 症状 QXCR1000197182

『システム管理リファレンスガイド』内の OVPA に関する情報は最新版になっていない

最新版の OVPA の情報は、日本語への翻訳がまだ行われていません。

対策

最新の情報は英語版を参照してください。

5. 症状 NSMbb69079

ログファイルのエントリーを eucJP から SJIS に変換できない

[ログファイルの追加] または [ログファイルの変更] ウィンドウには、[ログファイルのキャラクタセット] オプションがあります。現在のロケールとは異なるキャラクタセットを選択すると、ログファイルをあるキャラクタセットから別のキャラクタセットへ変換するのに失敗し、メッセージブラウザにはクリティカルメッセージが表示されます。

対策

[ログファイルのキャラクタセット] では、現在のロケールに一致したキャラクタセットを選択してください。

6. 症状 NSMbb68102

出力ウィンドウのタイトルバーの日本語テキストが意味不明 (hpterm)

Certificate ツールまたは Install Key for Certificate ツールを実行したときに開かれる出力ウィンドウのタイトルバーの日本語テキストが意味不明です。

対策

HP-UX 管理サーバーノードの仮想ターミナルエミュレータとしては、`dtterm` を使ってください。

7. 症状 QXCR1000137593

"Cannot Convert String to Type Font Structure" という警告メッセージ

Motif 管理者用とオペレータ用 GUI では、Motif GUI を起動すると、コマンド行にフォント関連のメッセージが表示されます。

```
Warning: cannot convert string ... to type Font struct.
```

対策

各 X アプリケーションは、フォントを `app-defaults` ファイル、またはコードに基づいて要求します。X サーバーは、そのフォント要求を受けて、すべての既知のフォントを検索します。X サーバーは、要求されたフォントが検索できなかった場合には、システムフォントを返し、次の警告メッセージを表示します。

```
owv:xt warning missing charsets in string to font setconversion.
```

これはリモートシステムから表示される X ツールキットの警告メッセージです。X サーバー環境に恒久的な検索パスを設定するための手順は、X サーバーのドキュメントを参照してください。

以下のドキュメントも参考してください。

<http://openview.hp.com/sso/ecare/getsupportdoc?docid=OV-EN004584>